

令和2年度第1回

新宿区

区政モニターアンケート報告書

- テーマ1 水害対策について
- テーマ2 震災に備えて
- テーマ3 男女共同参画に関する意識について
- テーマ4 ごみの減量とリサイクルについて



新宿区総合政策部区政情報課広聴係

目 次

I 調査の概要.....	1
1 調査の目的.....	1
2 調査の概要.....	1
3 集計・分析結果を読む際の注意点.....	1
4 回答者の属性.....	2
II 調査の結果.....	5
テーマ1 水害対策について.....	5
(1) 台風や大雨などの気象情報の入手先.....	5
(2) 洪水ハザードマップの閲覧および所持.....	8
(3) 洪水ハザードマップでの自宅の場所.....	10
(4) 浸水の危険による避難行動.....	12
(5) 震災時と水害時の指定避難所の違いについて.....	14
(6) 新宿区防災気象情報メールシステムの認知状況.....	17
(7) 大型台風等接近時の事前準備.....	18
(8) 台風や大雨の際に区に望むもの.....	20
テーマ2 震災に備えて.....	21
(1) 家屋の建築年・建築構造.....	21
(2) 「建築物等耐震化支援事業」の認知状況.....	22
(3) 耐震診断の意向.....	24
(4) 耐震診断を受けない理由.....	26
(5) 耐震補強工事の意向.....	28
(6) 耐震補強工事を行っていない理由.....	30
(7) 家具転倒防止器具の取り付けの意向.....	33
(8) 家具転倒防止器具を取り付けていない理由.....	35
(9) 「家具転倒防止器具取付け事業」の認知状況.....	36
テーマ3 男女共同参画に関する意識について.....	38
(1) さまざまな分野での男女平等意識について.....	38
(2) 男女共同参画に関する言葉について.....	52
(3) 仕事と生活のバランスの満足度.....	53
(4) 男女とも働きやすい環境づくりについて.....	54
(5) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について.....	55
(6) DVだと思ふ行為について.....	58
(7) DVについての相談機関の窓口について.....	61
(8) 男女共同参画を推進するために必要なことについて.....	64

テーマ4	ごみの減量とリサイクルについて	66
(1)	実際に行っている3R活動.....	66
(2)	マイバッグの持参の有無.....	69
(3)	食品ロスを減らすために、行っていること.....	71
(4)	ごみ・資源の出し方.....	74
(5)	資源(古紙)の日又は地域の集団回収に出している雑がみ.....	80
Ⅲ	資料(調査票)	81

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、今日的な区政課題への迅速な対応の検討や的確な事業執行を進める上での基礎資料とするため、アンケート区政モニターの方を対象にアンケート調査を実施し、今後の区政運営の参考とするものである。

2 調査の概要

《第1回》	調査対象	アンケート区政モニター 1,000名
	調査内容	テーマ1 水害対策について
		テーマ2 震災に備えて
		テーマ3 男女共同参画に関する意識について
		テーマ4 ごみの減量とリサイクルについて
	調査期間	令和2年10月16日～令和2年10月30日
	調査方法	郵送配布・郵送回収
回答数	900票（回収率 90.0%）	

3 集計・分析結果を読む際の注意点

- 「調査結果」の図表は、原則として回答者の構成比（百分率）で表している。
- 「n」は、「Number of case」の略で、構成比算出の母数を示している。
- 「MT」は、「Multiple Total」の略で、複数回答の合計数を示している。
- 回答はすべて百分率（%）で表し、小数点以下第2位を四捨五入している。そのため、その数値の合計は100%を前後する場合がある。
- 複数回答の設問では、すべての比率の合計が100%を超えることがある。
- 図表中の「0.0」は四捨五入の結果または回答者が皆無であることを表す。
- クロス集計の分析軸となる項目に「無回答」がある場合、これを表示していない。よって「全体」の数値と各項目の和が一致しない場合がある。

統計の数値を考察するにあたり、本報告書では次の表現を用いる。

(例)		(表現)
80.1～80.9%	⇒	約8割
81.0～82.9%	⇒	8割強
83.0～84.9%	⇒	8割台半ば近く
85.0～85.9%	⇒	8割台半ば
86.0～87.9%	⇒	8割台半ばを超え
88.0～88.9%	⇒	9割近く
89.0～89.9%	⇒	9割弱

I 調査の概要

○ライフステージの名称及び内容は、以下のとおりである。

独身期：40歳未満の独身者

家族形成期：子どものいない40歳未満の夫婦、または一番上の子どもが入学前の人

家族成長前期：一番上の子どもが小・中学生の人

家族成長後期：一番上の子どもが高校・大学生の人

家族成熟期：64歳以下で一番上の子どもが学校を卒業している人

(生計を別にした子どもがいる人を含む)

高齢期：65歳以上の人(生計を別にした子どもがいる人を含む)

その他：40歳から64歳の独身者、子どものいない40歳から64歳の夫婦など

4 回答者の属性

(1) 居住地域

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 四谷	108	12.0	6 戸塚	102	11.3
2 簗笥町	135	15.0	7 落合第一	97	10.8
3 榎町	96	10.7	8 落合第二	95	10.6
4 若松町	83	9.2	9 柏木	58	6.4
5 大久保	72	8.0	10 角筈・区役所	54	6.0
			計	900	100.0%

(2) 性別

選択肢	回答数	割合(%)
1 男性	345	38.3
2 女性	555	61.7
計	900	100.0%

(3) 年齢

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 18～19歳	6	0.7	9 55～59歳	81	9.0
2 20～24歳	27	3.0	10 60～64歳	57	6.3
3 25～29歳	35	3.9	11 65～69歳	56	6.2
4 30～34歳	71	7.9	12 70～74歳	69	7.7
5 35～39歳	89	9.9	13 75～79歳	48	5.3
6 40～44歳	94	10.4	14 80歳以上	57	6.3
7 45～49歳	112	12.4	無回答	4	0.4
8 50～54歳	94	10.4	計	900	100.0%

(4) 職業

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 会社員・団体職員	349	38.8	5 学生	26	2.9
2 会社役員・団体役員	52	5.8	6 専業主婦・主夫	110	12.2
3 パート・アルバイト、 非常勤、嘱託、派遣など	134	14.9	7 無職	115	12.8
4 自営業、自由業	92	10.2	8 その他	16	1.8
			無回答	6	0.7
			計	900	100.0%

(5) 職場や学校の所在地

選択肢	回答数	割合(%)
1 新宿区内	226	34.6
2 新宿区外	425	65.1
無回答	2	0.3
計	653	100.0%

(6) 同居している家族等

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 子	348	38.7	6 兄弟姉妹	41	4.6
2 妻または夫	530	58.9	7 その他	19	2.1
3 親	109	12.1	8 ひとり暮らし	200	22.2
4 祖父母	5	0.6	無回答	9	1.0
5 孫	17	1.9	回答総計	1,278	142.0%
			計	900	100.0%

(7) 同居者数

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 1人	301	43.6	4 4人	46	6.7
2 2人	208	30.1	5 5人以上	7	1.0
3 3人	128	18.5	無回答	1	0.1
			計	691	100.0%

(8) 同居している子

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 一番上の子が小学校入学前	73	21.0	4 一番上の子が学校を卒業	102	29.3
2 一番上の子が小・中学生	94	27.0	無回答	15	4.3
3 一番上の子が高・大学生	64	18.4	計	348	100.0%

I 調査の概要

(9) 新宿区での居住年数

選択肢	回答数	割合 (%)	選択肢	回答数	割合 (%)
1 1年未満	1	0.1	5 10年以上20年未満	201	22.3
2 1年以上3年未満	74	8.2	6 20年以上30年未満	122	13.6
3 3年以上5年未満	94	10.4	7 30年以上	257	28.6
4 5年以上10年未満	142	15.8	無回答	9	1.0
			計	900	100.0%

(10) 住居形態

	選択肢	回答数	割合 (%)
一戸建て	1 持ち家の一戸建て	203	22.6
	2 賃貸の一戸建て	18	2.0
	3 社宅・公務員官舎の一戸建て	2	0.2
	4 その他	8	0.9
集合住宅	5 分譲マンション・アパート	340	37.8
	6 賃貸マンション・アパート	242	26.9
	7 賃貸のUR都市機構（旧公団）・公社のマンション・アパート	7	0.8
	8 賃貸の都営・区営住宅	39	4.3
	9 社宅・公務員官舎	26	2.9
	10 その他	9	1.0
	無回答	6	0.7
	計	900	100.0%

(11) ライフステージ

選択肢	回答数	割合 (%)	選択肢	回答数	割合 (%)
1 独身期	116	12.9	5 家族成熟期	47	5.2
2 家族形成期	118	13.1	6 高齢期	230	25.6
3 家族成長前期	94	10.4	7 その他	233	25.9
4 家族成長後期	62	6.9	計	900	100.0%

Ⅱ 調査の結果

テーマ1 水害対策について

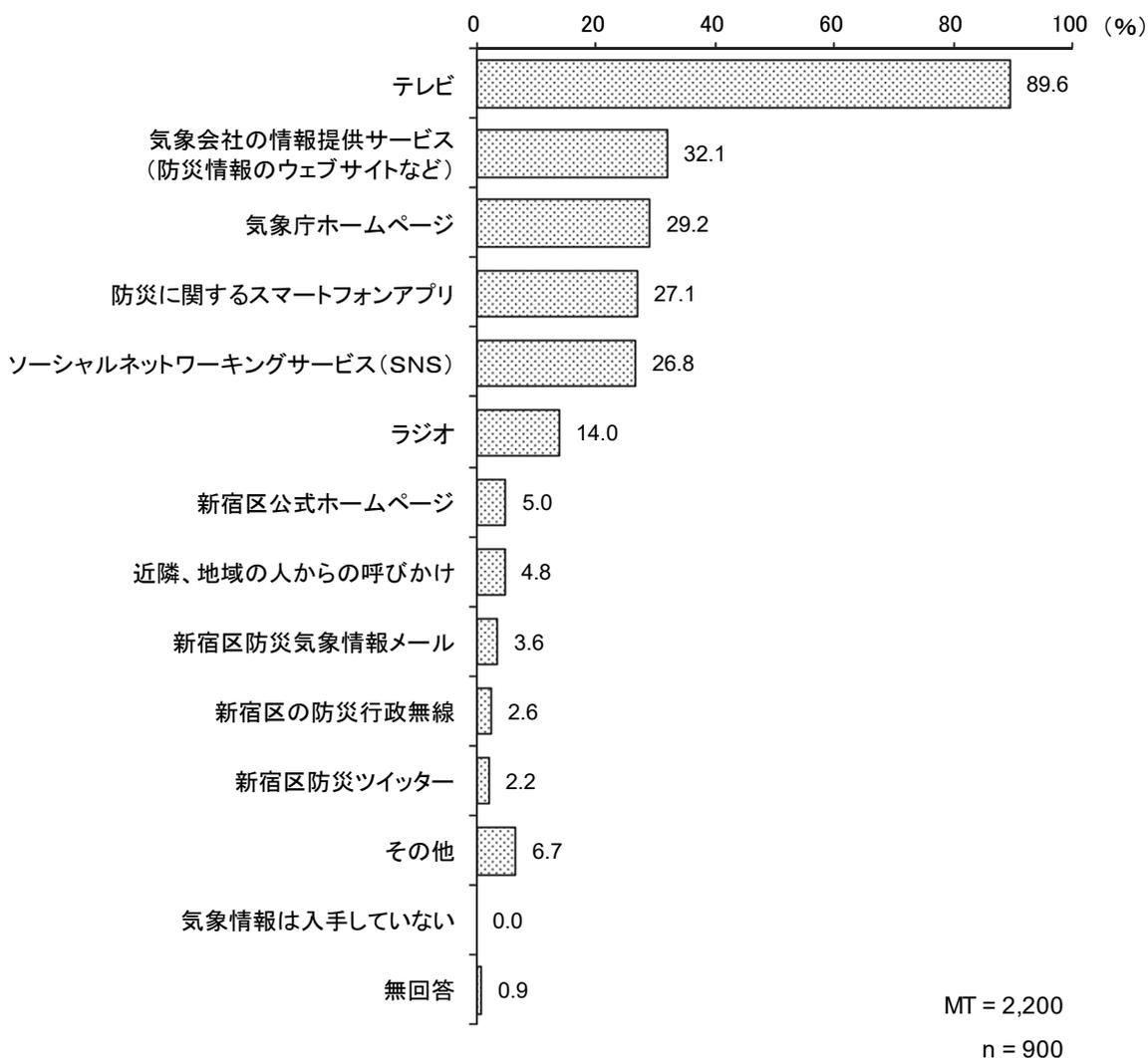
(1) 台風や大雨などの気象情報の入手先

◎「テレビ」が9割弱

問1 あなたは台風や大雨などの気象情報をどこから入手しますか。 (あてはまるものにもいくつでも○をつけてください)		(n=900)
1	テレビ	89.6%
2	ラジオ	14.0
3	新宿区防災ツイッター	2.2
4	新宿区公式ホームページ	5.0
5	新宿区防災気象情報メール	3.6
6	新宿区の防災行政無線	2.6
7	気象庁ホームページ	29.2
8	気象会社の情報提供サービス(防災情報のウェブサイトなど)	32.1
9	防災に関するスマートフォンアプリ	27.1
10	ソーシャルネットワーキングサービス(SNS)	26.8
11	近隣、地域の人からの呼びかけ	4.8
12	その他	6.7
13	気象情報は入手していない	0.0
	無回答	0.9

Ⅱ 調査の結果（テーマ1 水害対策について）

図1-1-1 台風や大雨などの気象情報の入手先



台風や大雨などの気象情報の入手先は、「テレビ」(89.6%)が9割弱で最も高くなっている。以下「気象会社の情報提供サービス(防災情報のウェブサイトなど)」(32.1%)が3割強、「気象庁ホームページ」(29.2%)が3割弱となっている。(図1-1-1)

図1-1-2 台風や大雨などの気象情報の入手先
(年代別) 上位6項目

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位
年代別	10代・20代 n = 68	テレビ (80.9%)	SNS (69.1%)	気象会社の 情報提供サービス (33.8%)	気象庁 ホームページ (27.9%)	防災に関する スマートフォン アプリ (20.6%)	ラジオ/その他 (7.4%)
	30代 n = 160	テレビ (84.4%)	SNS (43.8%)	気象会社の 情報提供サービス (41.3%)	気象庁 ホームページ (36.9%)	防災に関する スマートフォン アプリ (28.1%)	その他 (5.6%)
	40代 n = 206	テレビ (86.4%)	気象会社の 情報提供サービス (40.3%)	気象庁 ホームページ (38.3%)	防災に関する スマートフォン アプリ (31.1%)	SNS (30.6%)	ラジオ/その他 (10.7%)
	50代 n = 175	テレビ (90.9%)	気象庁 ホームページ (37.7%)	気象会社の 情報提供サービス (36.6%)	防災に関する スマートフォン アプリ (29.1%)	SNS (23.4%)	ラジオ (8.6%)
	60代 n = 113	テレビ (96.5%)	防災に関する スマートフォン アプリ (35.4%)	気象会社の 情報提供サービス (34.5%)	ラジオ (22.1%)	気象庁 ホームページ (18.6%)	SNS (11.5%)
	70歳以上 n = 174	テレビ (95.4%)	ラジオ (29.3%)	防災に関する スマートフォン アプリ (17.2%)	気象庁 ホームページ (10.9%)	近隣、地域の 人からの呼びかけ (10.3%)	新宿区公式ホーム ページ/気象会社の 情報提供サービス (8.0%)

※SNS：ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）

※気象会社の情報提供サービス：気象会社の情報提供サービス（防災情報のウェブサイトなど）

上位6項目について、年代別で見ると、すべての年代で「テレビ」が第1位となっている。

10代・20代では、「ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）」（69.1%）が7割弱で第2位となっている。

70歳以上では、「ラジオ」（29.3%）が3割弱で第2位となっている。（図1-1-2）

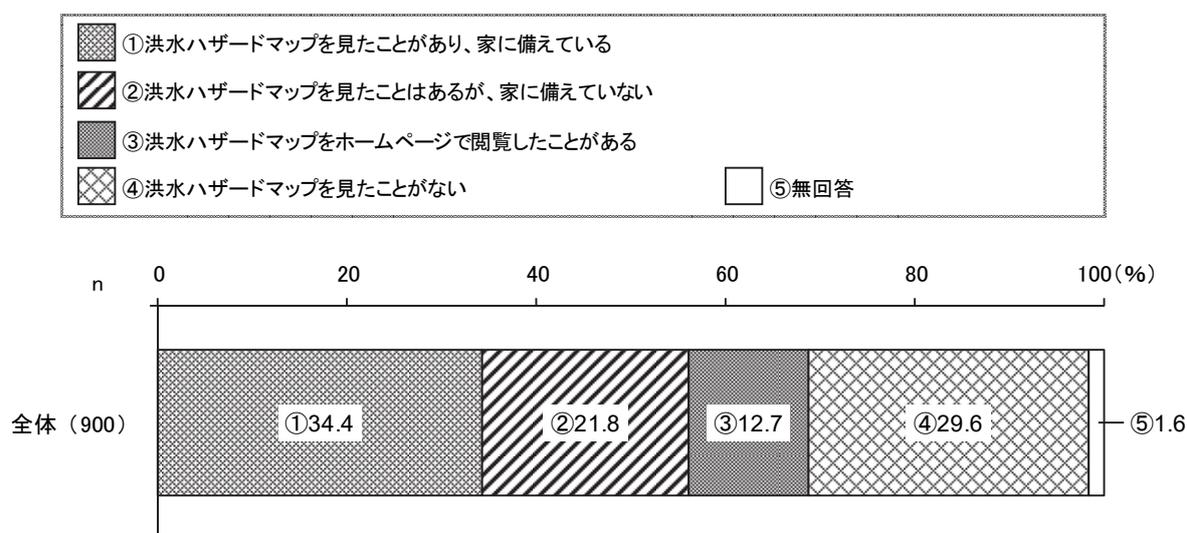
Ⅱ 調査の結果（テーマ1 水害対策について）

（2）洪水ハザードマップの閲覧および所持

◎「洪水ハザードマップを見たことがあり、家に備えている」が3割台半ば近く

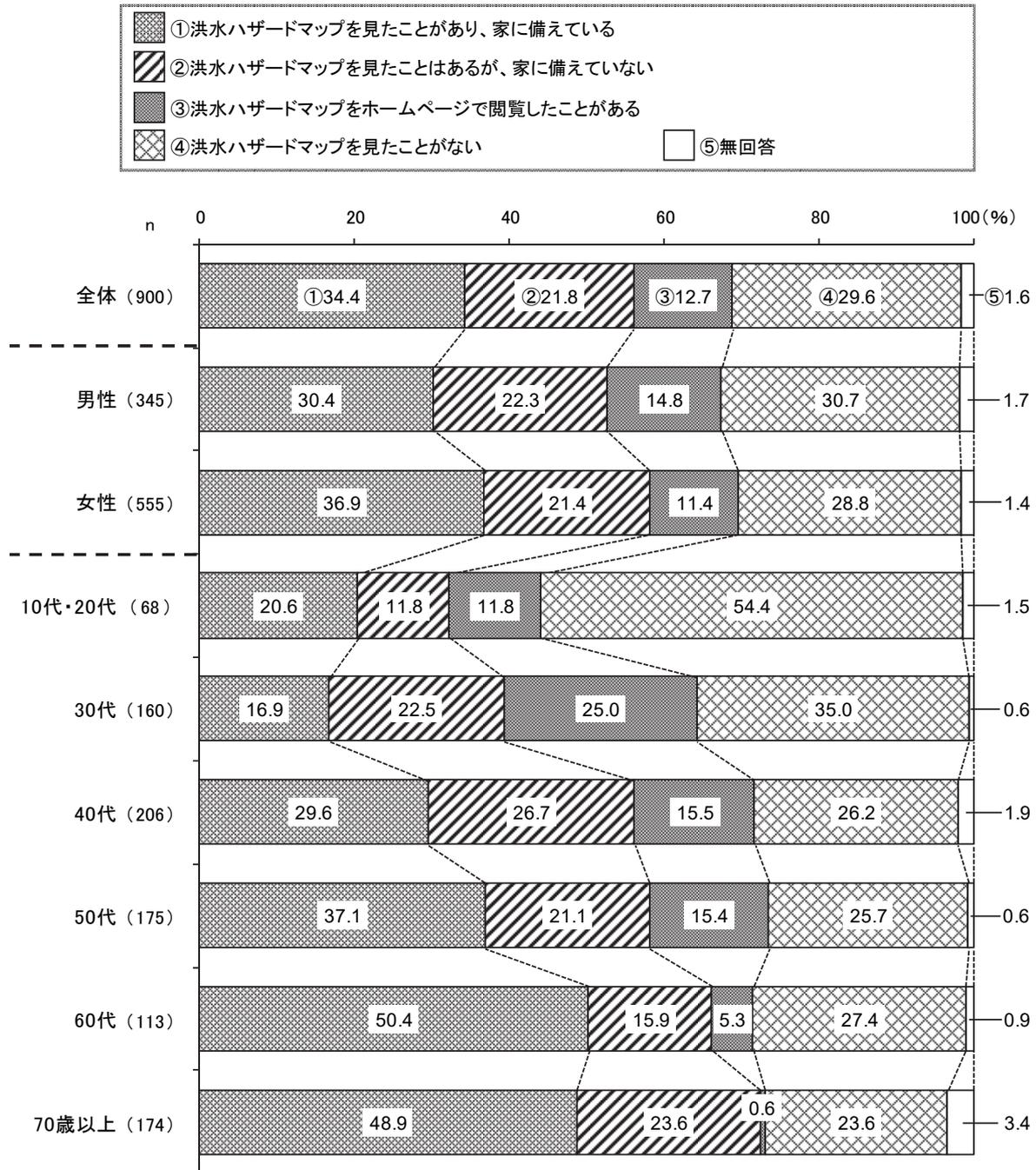
問2	区では、「新宿区洪水ハザードマップ（洪水避難地図）」（以下、「洪水ハザードマップ」といいます。）を作成し、危機管理課、道路課、特別出張所などで配布をしています。また、区の公式ホームページで閲覧することもできます。あなたはこれまでに、洪水ハザードマップをご覧になったことがありますか。（○は1つ）	(n=900)
1	洪水ハザードマップを見たことがあり、家に備えている	34.4%
2	洪水ハザードマップを見たことはあるが、家に備えていない	21.8
3	洪水ハザードマップをホームページで閲覧したことがある	12.7
4	洪水ハザードマップを見たことがない	29.6
	無回答	1.6

図1-2-1 洪水ハザードマップの閲覧および所持



洪水ハザードマップの閲覧および所持は、「洪水ハザードマップを見たことがあり、家に備えている」(34.4%)が3割台半ば近くで最も高く、次いで「洪水ハザードマップを見たことがない」(29.6%)が3割弱、「洪水ハザードマップを見たことはあるが、家に備えていない」(21.8%)が2割強となっている。(図1-2-1)

図1-2-2 洪水ハザードマップの閲覧および所持
(性別・年代別)



性別で見ると、「洪水ハザードマップを見たことがあり、家に備えている」は、女性（36.9%）が3割台半ばを超え、男性（30.4%）を6.5ポイント上回っている。

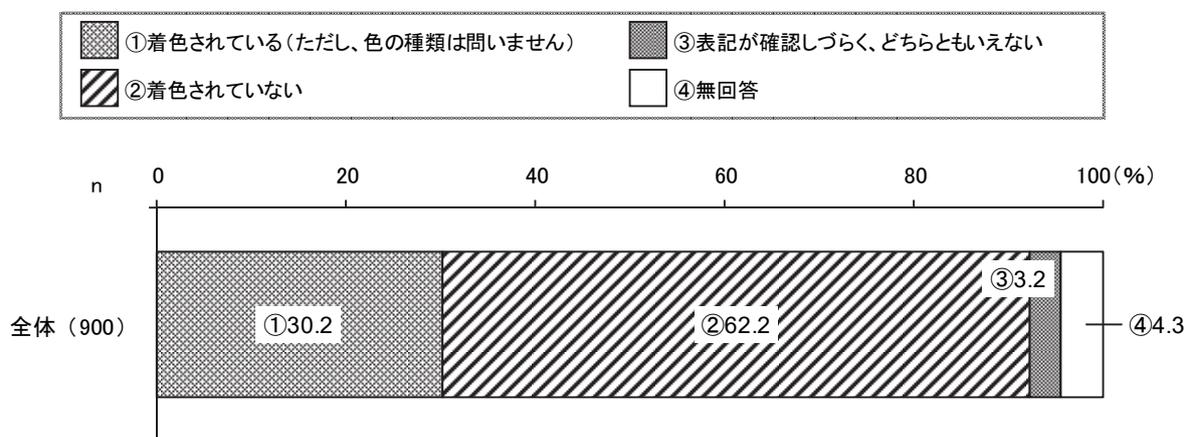
年代別で見ると、「洪水ハザードマップを見たことがない」は10代・20代（54.4%）が5割台半ば近くと、全体（29.6%）を24.8ポイント上回っている。（図1-2-2）

（3）洪水ハザードマップでの自宅の場所

◎洪水ハザードマップで自宅の位置を確認した結果、「着色されている」が約3割

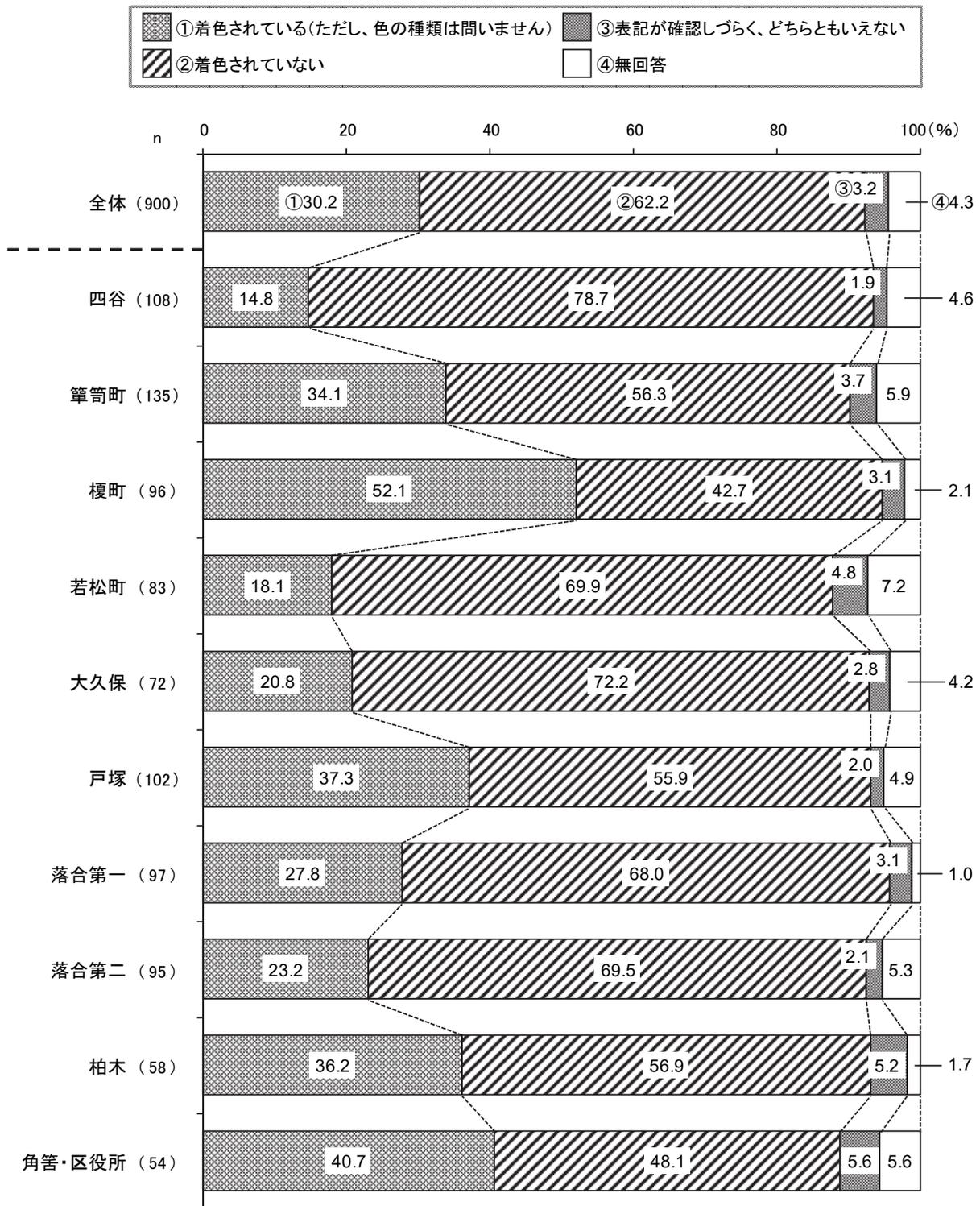
問3	同封の洪水ハザードマップで自宅の位置を確認した結果、あなたの自宅のある場所は着色（浸水が発生するおそれがある）されていますか。（○は1つ）	(n=900)
1	着色されている（ただし、色の種類は問いません）	30.2%
2	着色されていない	62.2
3	表記が確認しづらく、どちらともいえない	3.2
	無回答	4.3

図1-3-1 洪水ハザードマップでの自宅の場所



洪水ハザードマップでの自宅の場所は、「着色されている（ただし、色の種類は問いません）」(30.2%) が約3割、「着色されていない」(62.2%) が6割強となっている。（図1-3-1）

図1-3-2 洪水ハザードマップでの自宅の場所
(居住地域別)



居住地域別で見ると、「着色されている(ただし、色の種類は問いません)」では、榎町(52.1%)が5割強で最も高くなっており、全体(30.2%)を21.9ポイント上回っている。(図1-3-2)

（4）浸水の危険による避難行動

◎「堅牢なマンション等の上層階に住んでいるため、自宅に留まり安全を確保する」が約5割

問3-1 問3で、「1」に○をした方にお伺いします。

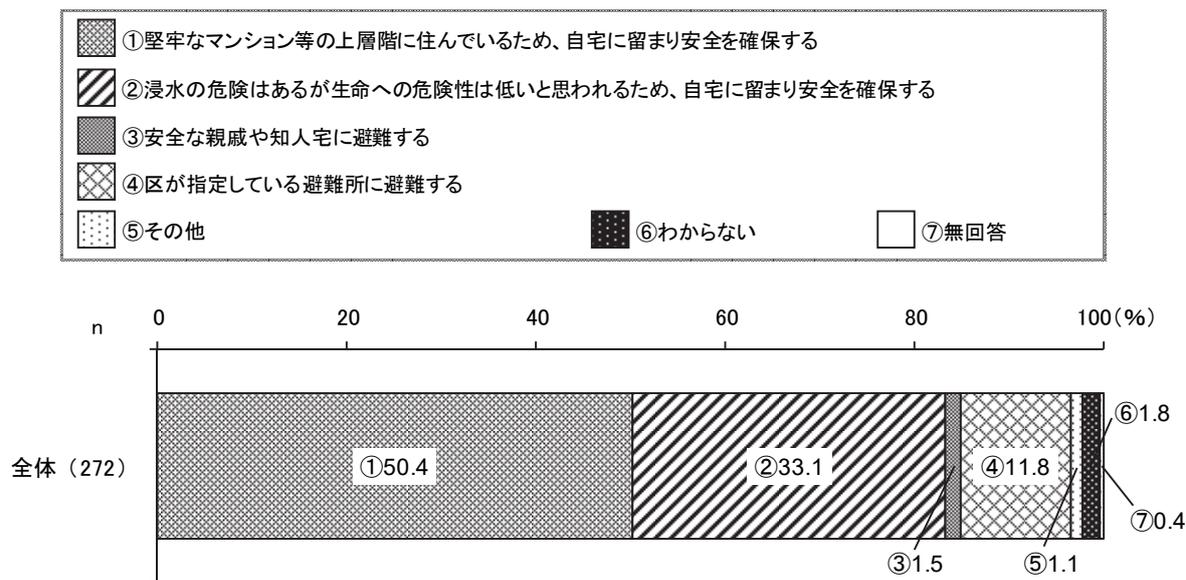
浸水の危険により、あなたがとる避難行動として考えられるものは何ですか。

（○は1つ）

(n=272)

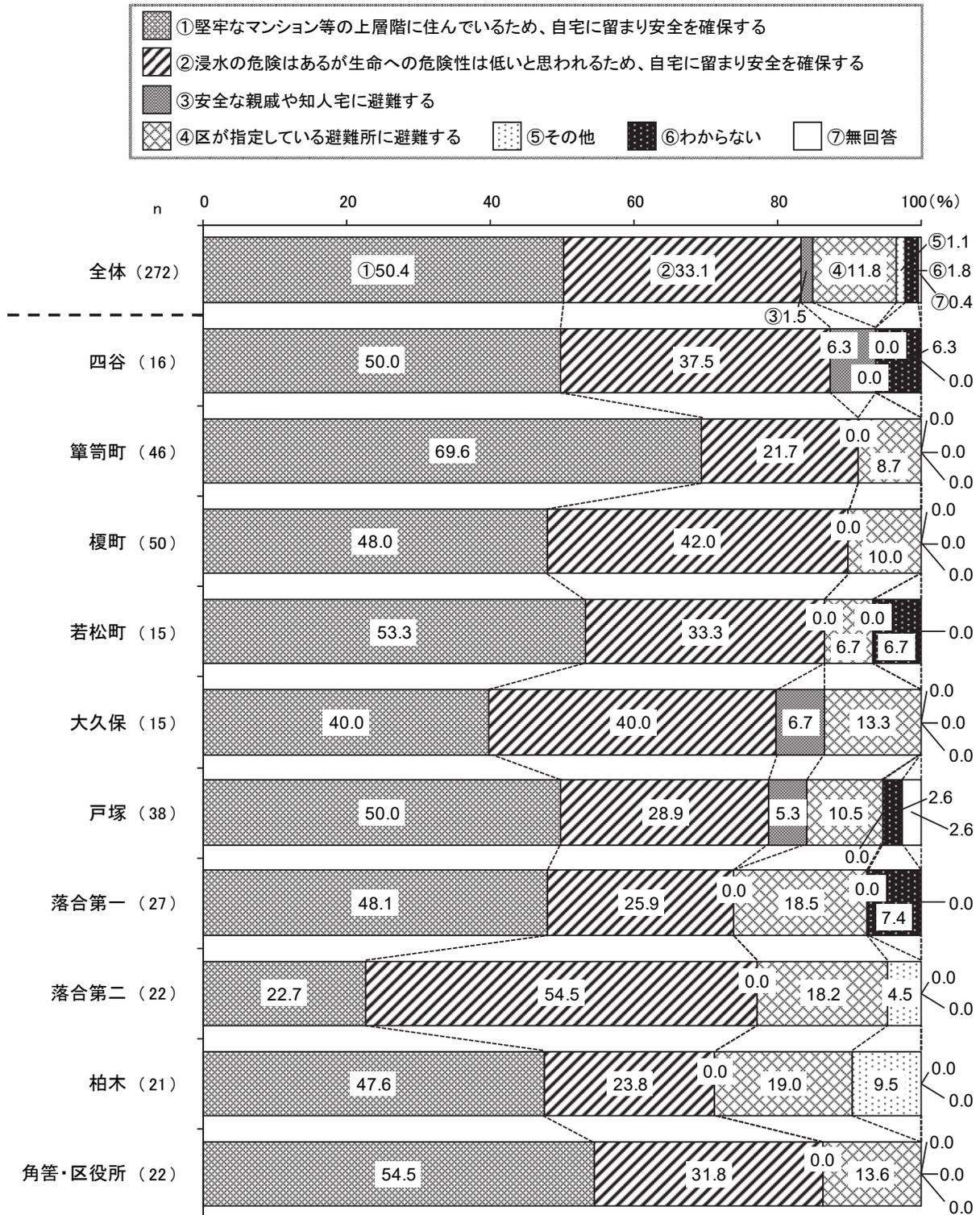
1	堅牢なマンション等の上層階に住んでいるため、自宅に留まり安全を確保する	50.4%
2	浸水の危険はあるが生命への危険性は低いと思われるため、自宅に留まり安全を確保する	33.1
3	安全な親戚や知人宅に避難する	1.5
4	区が指定している避難所に避難する	11.8
5	その他	1.1
6	わからない	1.8
	無回答	0.4

図1-4-1 浸水の危険による避難行動



浸水の危険による避難行動は、「堅牢なマンション等の上層階に住んでいるため、自宅に留まり安全を確保する」(50.4%)と「浸水の危険はあるが生命への危険性は低いと思われるため、自宅に留まり安全を確保する」(33.1%)を合わせた「自宅に留まり安全を確保する」(83.5%)が8割台半ば近くとなっている。(図1-4-1)

図1-4-2 浸水の危険による避難行動
(居住地域別)



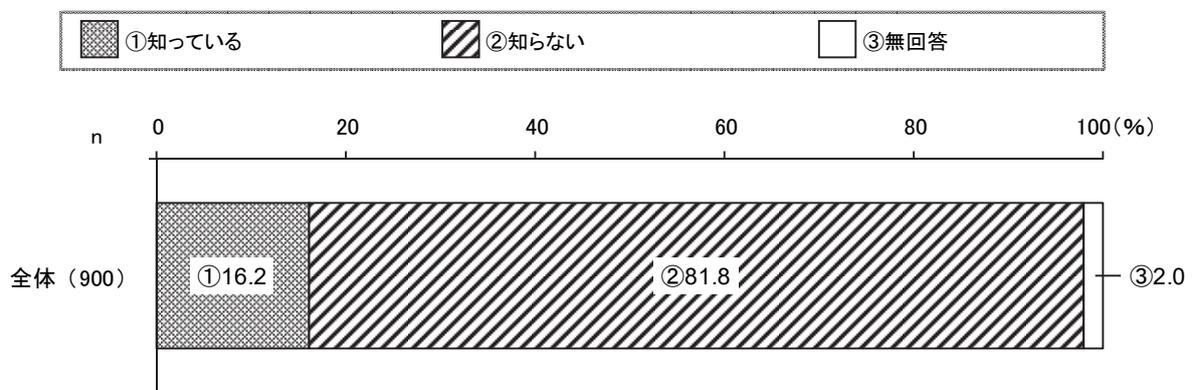
居住地域別で見ると、「堅牢なマンション等の上層階に住んでいるため、自宅に留まり安全を確保する」では、箆笥町 (69.6%) が7割弱で最も高くなっており、全体 (50.4%) を19.2ポイント上回っている。「浸水の危険はあるが生命への危険性は低いと思われるため、自宅に留まり安全を確保する」では、落合第二 (54.5%) が5割台半ば近くで最も高くなっており、全体 (33.1%) を21.4ポイント上回っている。(図1-4-2)

（5）震災時と水害時の指定避難所の違いについて

◎震災時と水害時の指定避難所の違いを「知らない」が8割強

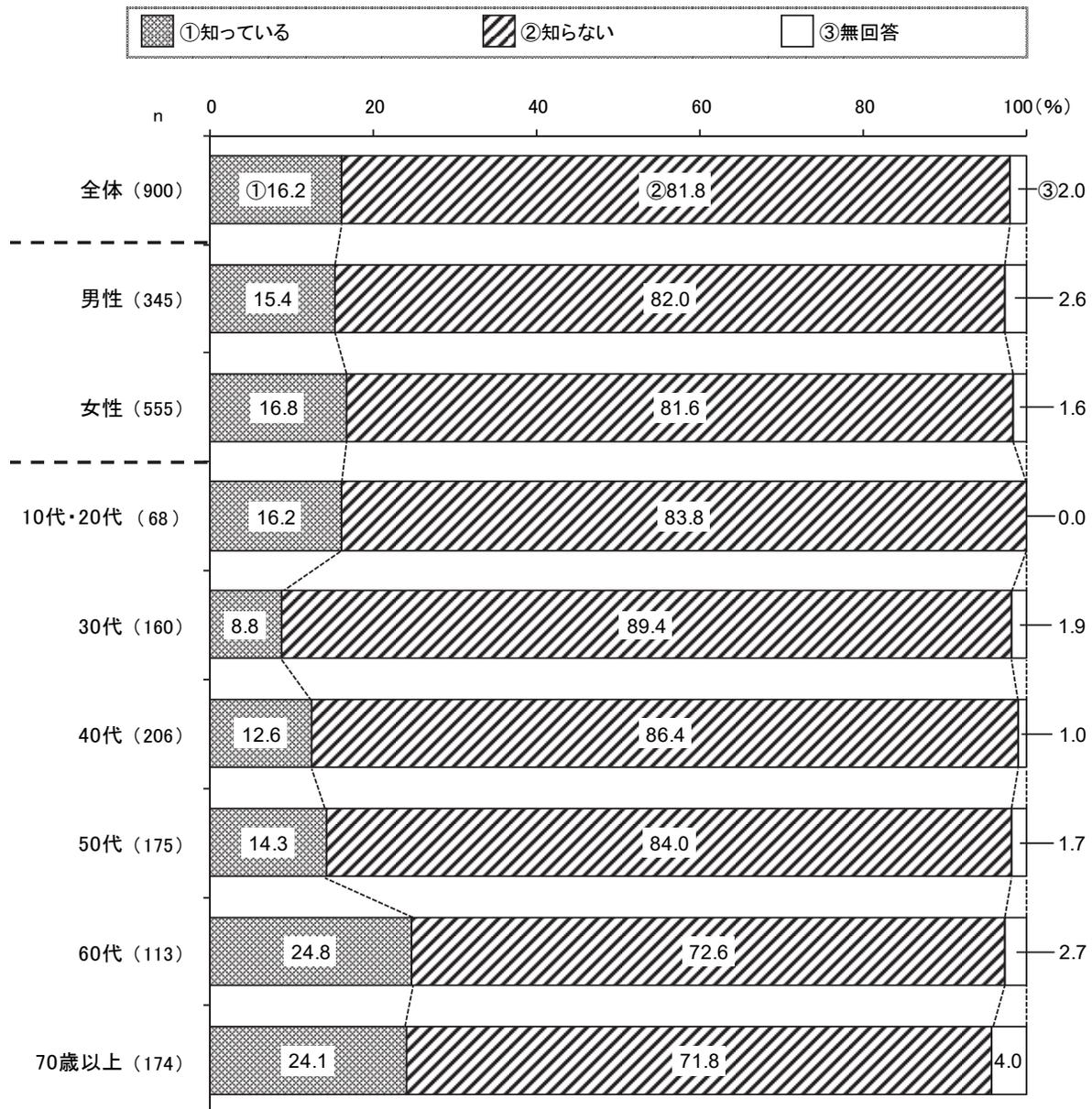
問4 あなたは、震災時と水害時で区が指定している避難所が異なることをご存じですか。		
(○は1つ)		
		(n=900)
1	知っている	16.2%
2	知らない	81.8
	無回答	2.0

図1-5-1 震災時と水害時の指定避難所の違いについて



震災時と水害時の指定避難所の違いについて、「知らない」(81.8%)が8割強となっている。(図1-5-1)

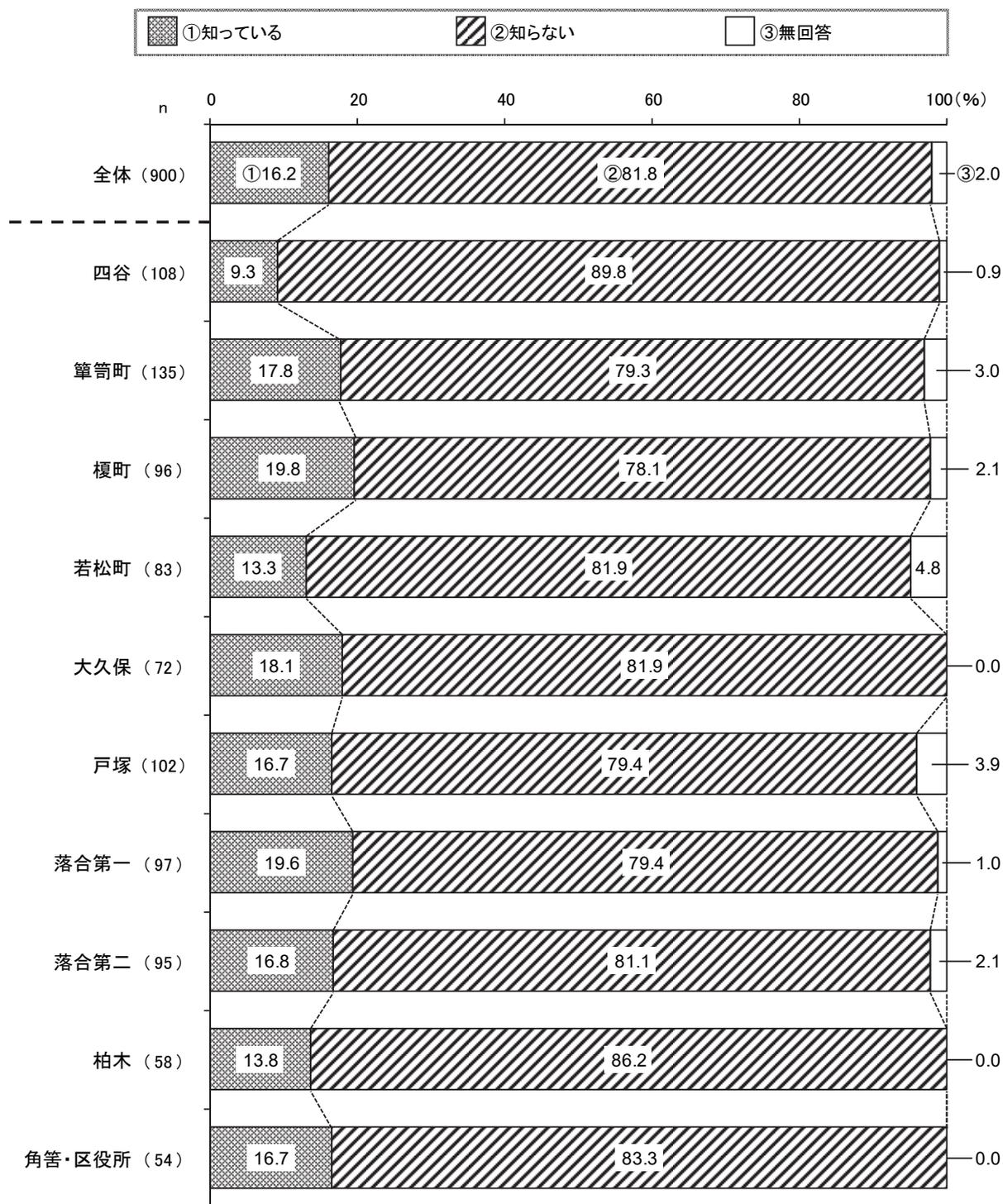
図1-5-2 震災時と水害時の指定避難所の違いについて
(性別・年代別)



性別でみると、男女の割合に大きな差はみられない。

年代別でみると、「知っている」は60代(24.8%)が2割台半ば近くと、全体(16.2%)を8.6ポイント上回っている。(図1-5-2)

図1-5-3 震災時と水害時の指定避難所の違いについて
（居住地域別）



居住地域別で見ると、「知っている」では、榎町（19.8%）が2割弱、「落合第一」（19.6%）が2割弱と高く、全体（16.2%）を3ポイント以上、上回っており、四谷（9.3%）が1割未満と低くなっている。（図1-5-3）

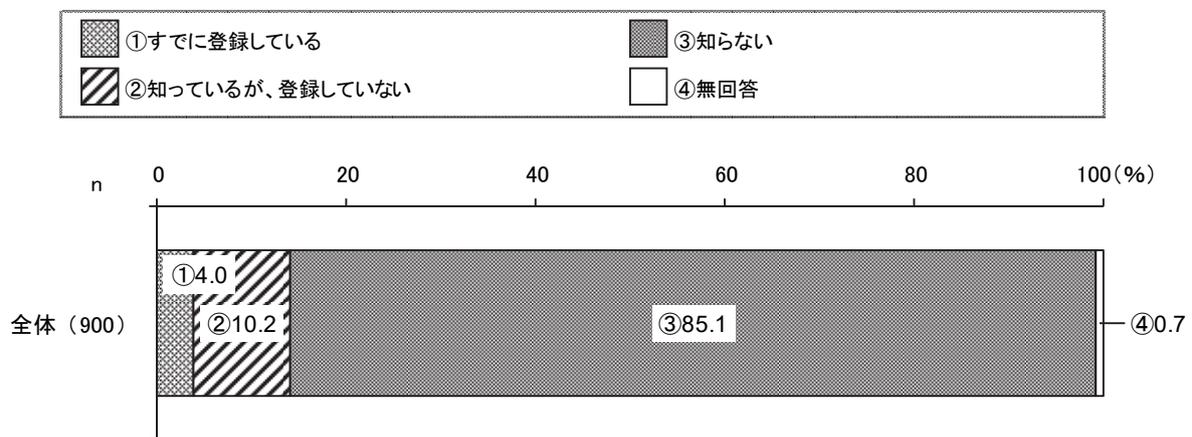
(6) 新宿区防災気象情報メールシステムの認知状況

◎新宿区防災気象情報メールシステムを「知らない」が8割台半ば

問5 区では、区内の地域に特化した気象情報等をメールで受け取ることができる「新宿区防災気象情報メールシステム」への登録をおすすめしています。あなたは、新宿区防災気象情報メールシステムをご存じですか。(〇は1つ)

	(n=900)
1 すでに登録している	4.0%
2 知っているが、登録していない	10.2
3 知らない	85.1
無回答	0.7

図1-6 新宿区防災気象情報メールシステムの認知状況



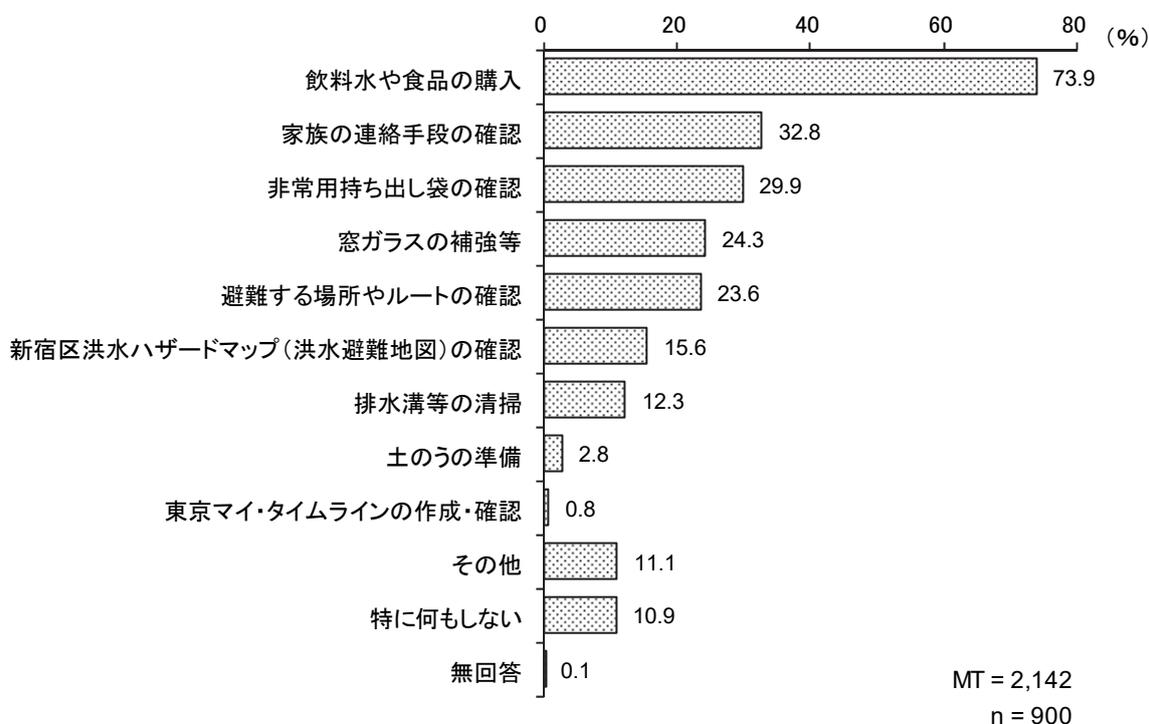
新宿区防災気象情報メールシステムの認知状況は、「知らない」(85.1%)が8割台半ばとなっている。(図1-6)

（7）大型台風等接近時の事前準備

◎「飲料水や食品の購入」が7割台半ば近く

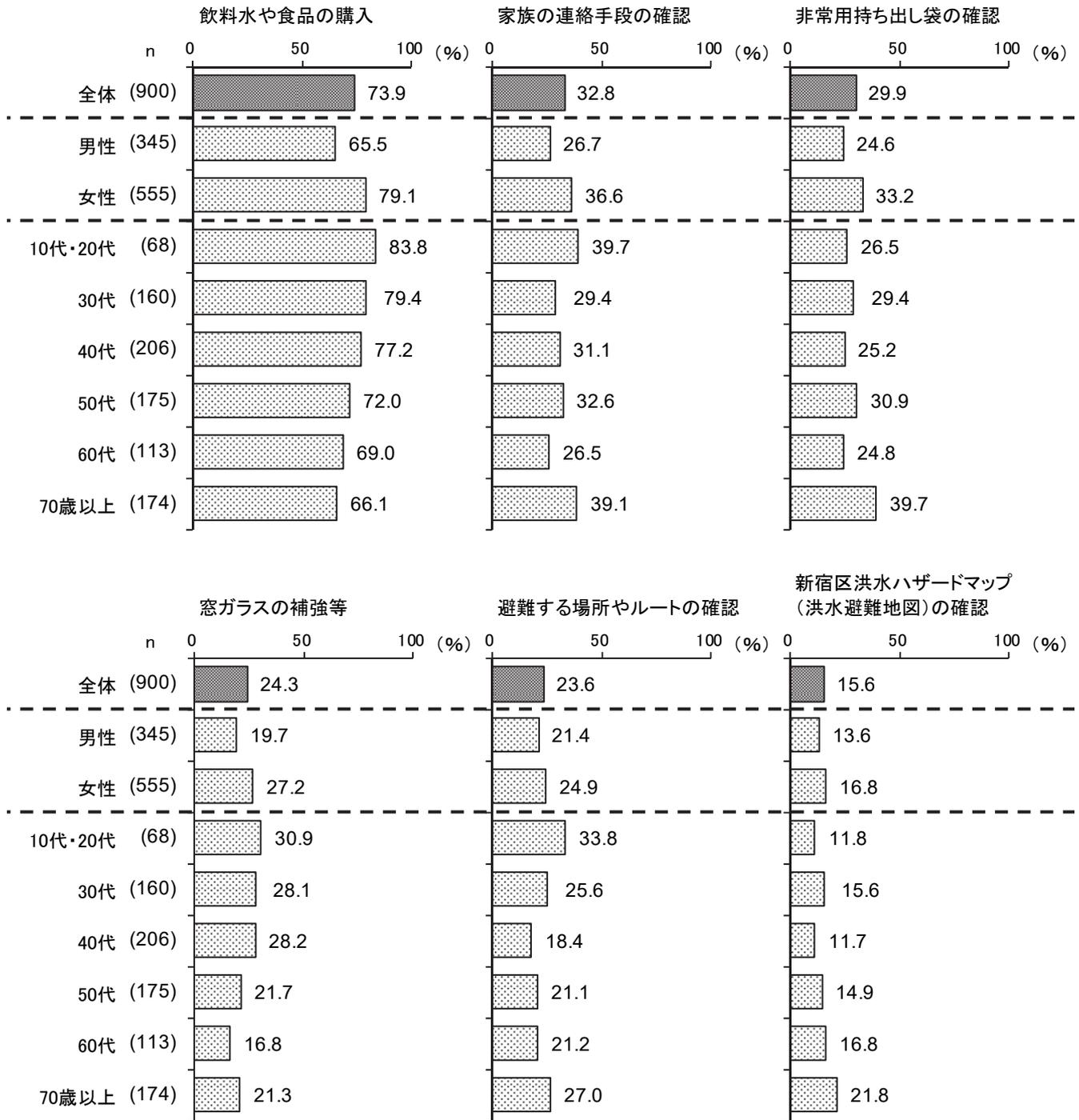
問6 大型台風等が接近するとの気象予報が発表された場合に、あなたはどのような事前準備をしますか。（あてはまるものいくつかでも○をつけてください）		(n=900)
1	新宿区洪水ハザードマップ（洪水避難地図）の確認	15.6%
2	東京マイ・タイムラインの作成・確認	0.8
3	家族の連絡手段の確認	32.8
4	避難する場所やルートの確認	23.6
5	飲料水や食品の購入	73.9
6	非常用持ち出し袋の確認	29.9
7	排水溝等の清掃	12.3
8	土のうの準備	2.8
9	窓ガラスの補強等	24.3
10	その他	11.1
11	特に何もしない	10.9
	無回答	0.1

図1-7-1 大型台風等接近時の事前準備



大型台風等接近時の事前準備は、「飲料水や食品の購入」（73.9%）が7割台半ば近くで最も高くなっている。次いで「家族の連絡手段の確認」（32.8%）が3割強、「非常用持ち出し袋の確認」（29.9%）が3割弱、「窓ガラスの補強等」（24.3%）が2割台半ば近く、「避難する場所やルートの確認」（23.6%）が2割台半ば近くと続いている。（図1-7-1）

図1-7-2 大型台風等接近時の事前準備
(性別・年代別) 上位6項目



上位6項目について、性別でみると、女性が男性に比べ割合が高く、特に「飲料水や食品の購入」は女性(79.1%)が8割弱と、男性(65.5%)を13.6ポイント、「家族の連絡手段の確認」は女性(36.6%)が3割台半ばを超え、男性(26.7%)を9.9ポイント上回っている。

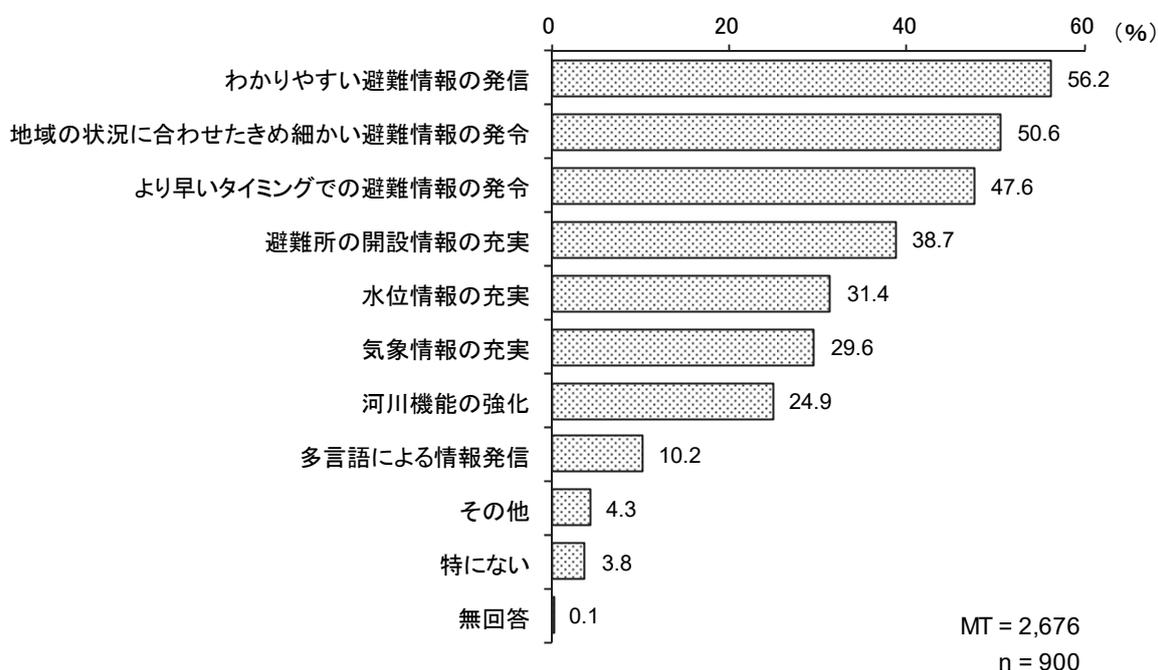
年代別でみると、年齢が低くなるほど、「飲料水や食品の購入」の割合は高くなり、10代・20代(83.8%)が8割台半ば近くとなっている。(図1-7-2)

（8）台風や大雨の際に区に望むもの

◎「わかりやすい避難情報の発信」が5割台半ばを超え

問7 台風や大雨の際に、区に望むものは何ですか。		(n=900)
(あてはまるものにいくつでも○をつけてください)		
1	より早いタイミングでの避難情報の発令	47.6%
2	地域の状況に合わせたきめ細かい避難情報の発令	50.6
3	わかりやすい避難情報の発信	56.2
4	避難所の開設情報の充実	38.7
5	多言語による情報発信	10.2
6	気象情報の充実	29.6
7	水位情報の充実	31.4
8	河川機能の強化	24.9
9	その他	4.3
10	特にない	3.8
	無回答	0.1

図1-8 台風や大雨の際に区に望むもの



台風や大雨の際に区に望むものは、「わかりやすい避難情報の発信」(56.2%)が5割台半ばを超えて最も高く、次いで「地域の状況に合わせたきめ細かい避難情報の発令」(50.6%)が約5割、「より早いタイミングでの避難情報の発令」(47.6%)が4割台半ばを超え、「避難所の開設情報の充実」(38.7%)が4割近くと続いている。(図1-8)

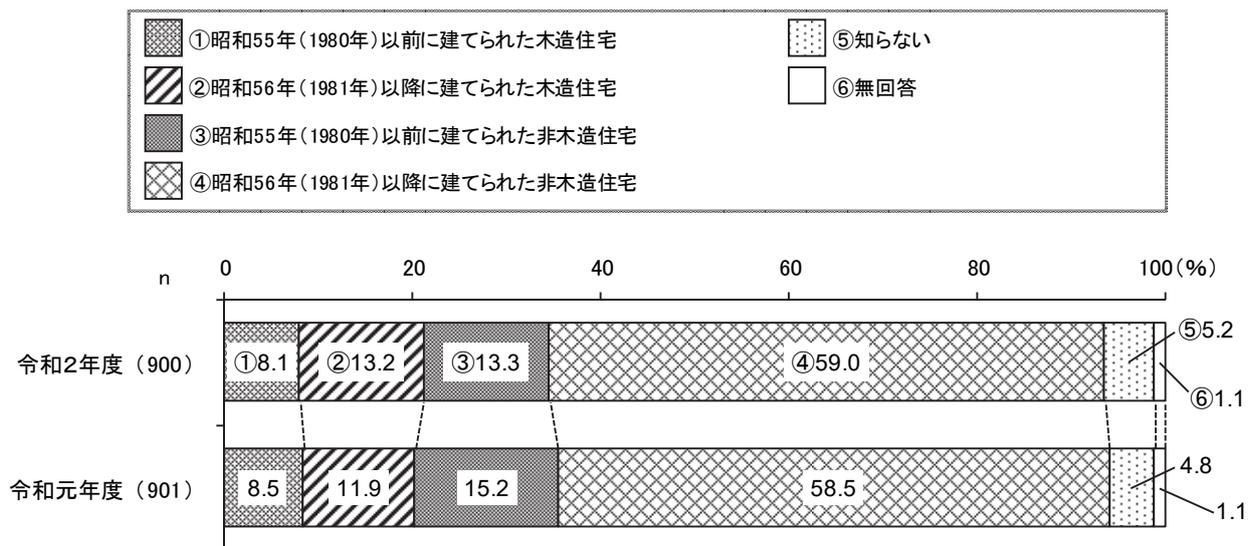
テーマ2 震災に備えて

(1) 家屋の建築年・建築構造

◎《昭和56年(1981年)以降に建てられた住宅》が7割強

問8 あなたがお住まいの建物について、教えてください。(〇は1つ)		(n=900)
1	昭和55年(1980年)以前に建てられた木造住宅	8.1%
2	昭和56年(1981年)以降に建てられた木造住宅	13.2
3	昭和55年(1980年)以前に建てられた非木造住宅	13.3
4	昭和56年(1981年)以降に建てられた非木造住宅	59.0
5	知らない	5.2
	無回答	1.1

図2-1 家屋の建築年・建築構造
(経年推移)



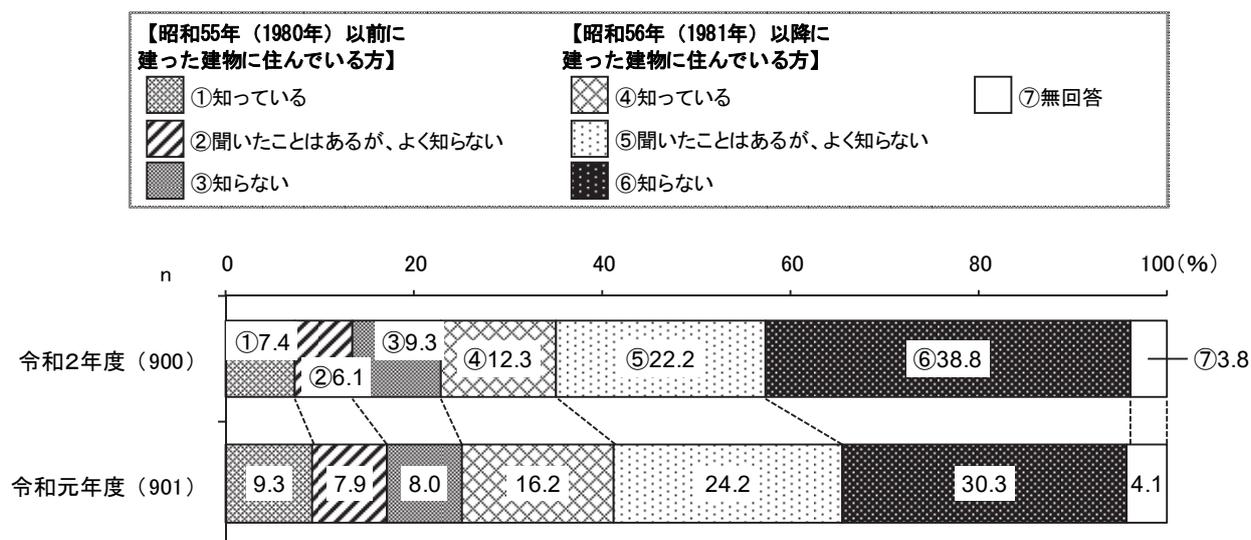
家屋の建築年・建築構造について、「昭和56年(1981年)以降に建てられた非木造住宅」(59.0%)が6割弱となっている。一方、「昭和56年(1981年)以降に建てられた木造住宅」(13.2%)が1割台半ば近くとなっている。また、「昭和56年(1981年)以降に建てられた住宅」【昭和56年(1981年)以降に建てられた木造住宅】+【昭和56年(1981年)以降に建てられた非木造住宅】(72.2%)が7割強となっている。(図2-1)

（2）「建築物等耐震化支援事業」の認知状況

◎支援事業の認知状況は《知っている》が2割弱

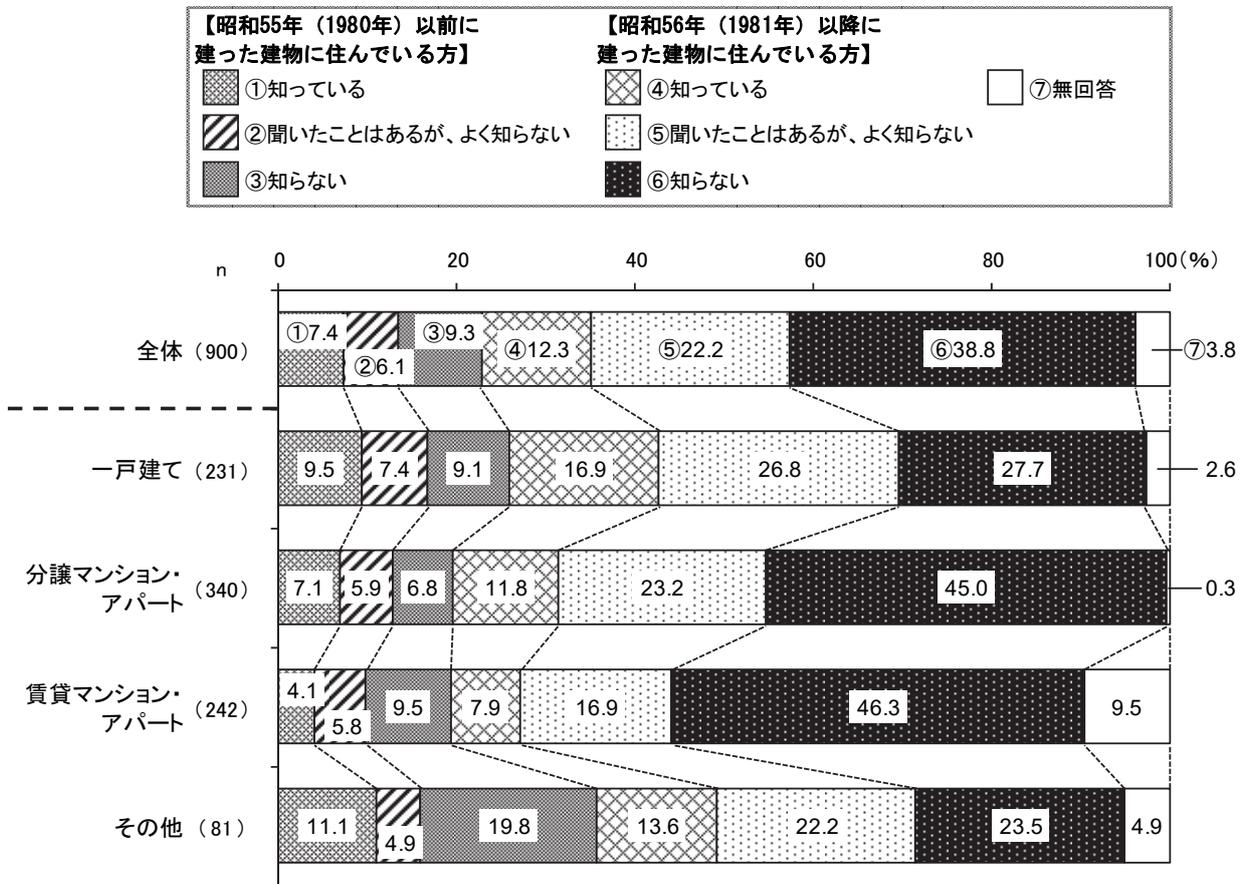
問9 区では、「建築物等耐震化支援事業」を行っています。		
あなたはこの事業を知っていますか。（○は1つ）		(n=900)
【昭和55年（1980年）以前に建った建物に住んでいる方】		
1 知っている		7.4%
2 聞いたことはあるが、よく知らない		6.1
3 知らない		9.3
【昭和56年（1981年）以降に建った建物に住んでいる方】		
4 知っている		12.3
5 聞いたことはあるが、よく知らない		22.2
6 知らない		38.8
無回答		3.8

図2-2-1 「建築物等耐震化支援事業」の認知状況
(経年推移)



「建築物等耐震化支援事業」の認知状況について、建物の建築年で比べると、支援事業を「知っている」は【昭和56年（1981年）以降に建った建物に住んでいる方】（12.3%）が1割強、【昭和55年（1980年）以前に建った建物に住んでいる方】（7.4%）が1割未満となっている。また、《知っている》（【昭和55年（1980年）以前に建った建物に住んでいる方】 + 【昭和56年（1981年）以降に建った建物に住んでいる方】）（19.7%）が2割弱となっている。（図2-2-1）

図2-2-2 「建築物等耐震化支援事業」の認知状況
(住居形態別4区分)



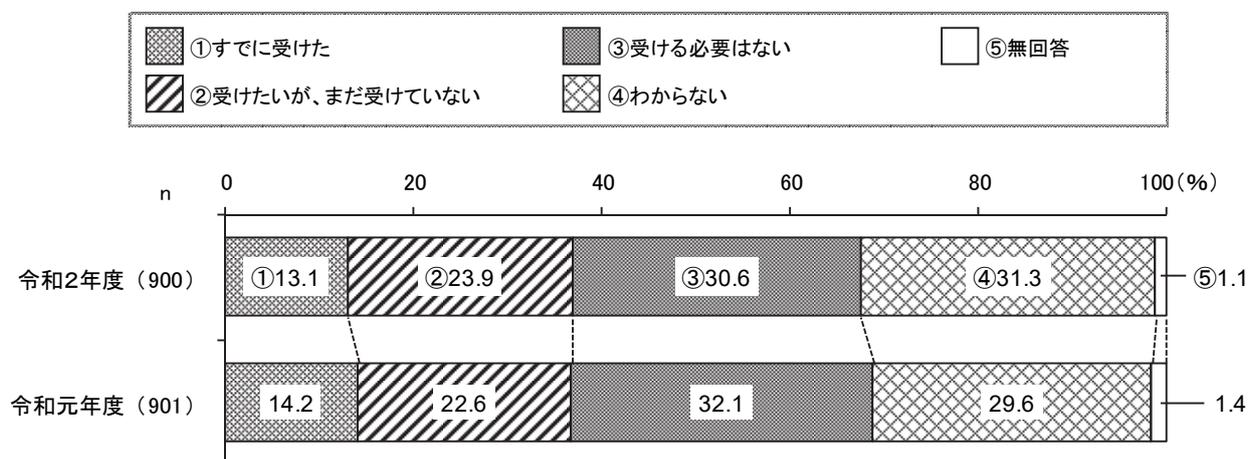
住居形態別4区分で見ると、「知っている」では、一戸建て(26.4%)が2割台半ばを超えて最も高く、全体(19.7%)を6.7ポイント上回っている。(図2-2-2)

（3）耐震診断の意向

◎耐震診断を「受ける必要はない」が約3割

問10 あなたは、お住まいの建物について、耐震診断を受けたいと思いますか。		
(○は1つ)		
		(n=900)
1	すでに受けた	13.1%
2	受けたいが、まだ受けていない	23.9
3	受ける必要はない	30.6
4	わからない	31.3
	無回答	1.1

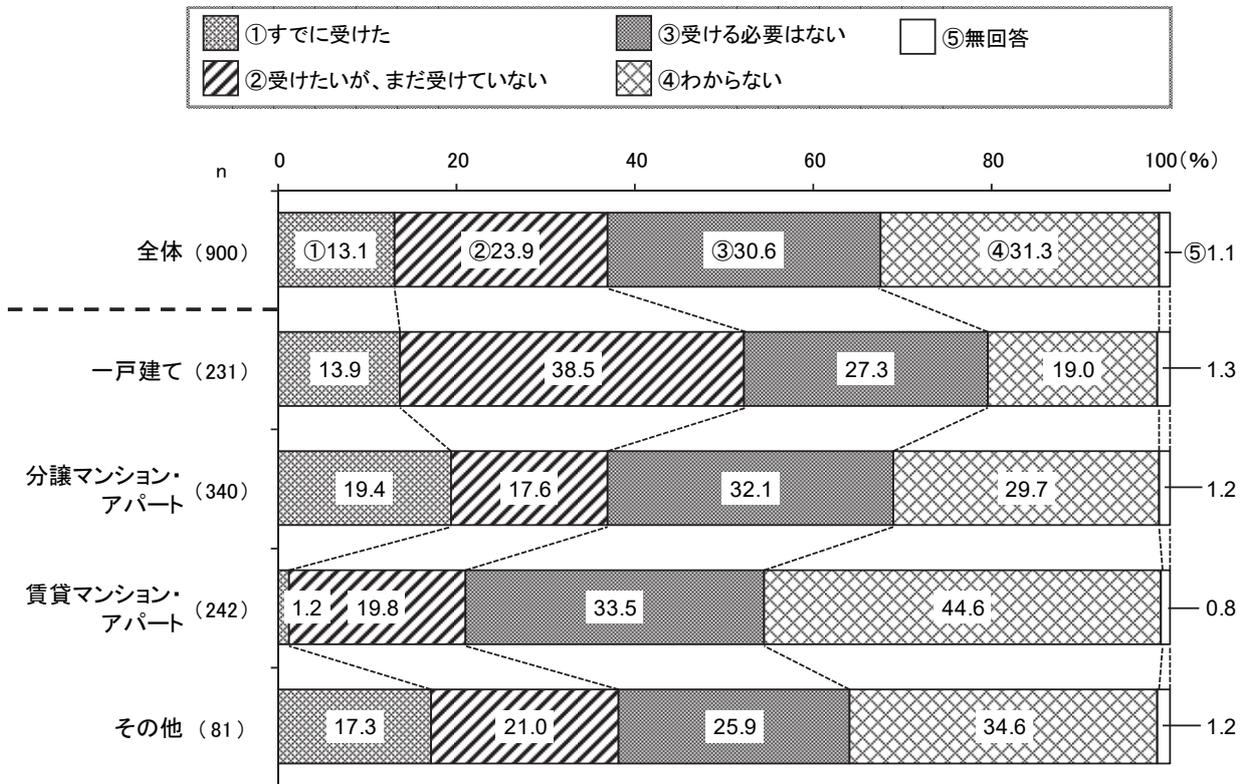
図2-3-1 耐震診断の意向
(経年推移)



耐震診断の意向について、「すでに受けた」(13.1%)が1割台半ば近く、「受けたいが、まだ受けていない」(23.9%)が2割台半ば近くとなっている。一方、「受ける必要はない」(30.6%)が約3割となっている。

前回の調査結果(令和元年度区政モニターアンケート調査)と比較すると、割合に大きな変化はみられない。(図2-3-1)

図2-3-2 耐震診断の意向
(住居形態別4区分)



住居形態別4区分で見ると、「すでに受けた」では、分譲マンション・アパート（19.4%）が2割弱で最も高く、全体（13.1%）を6.3ポイント上回っている。

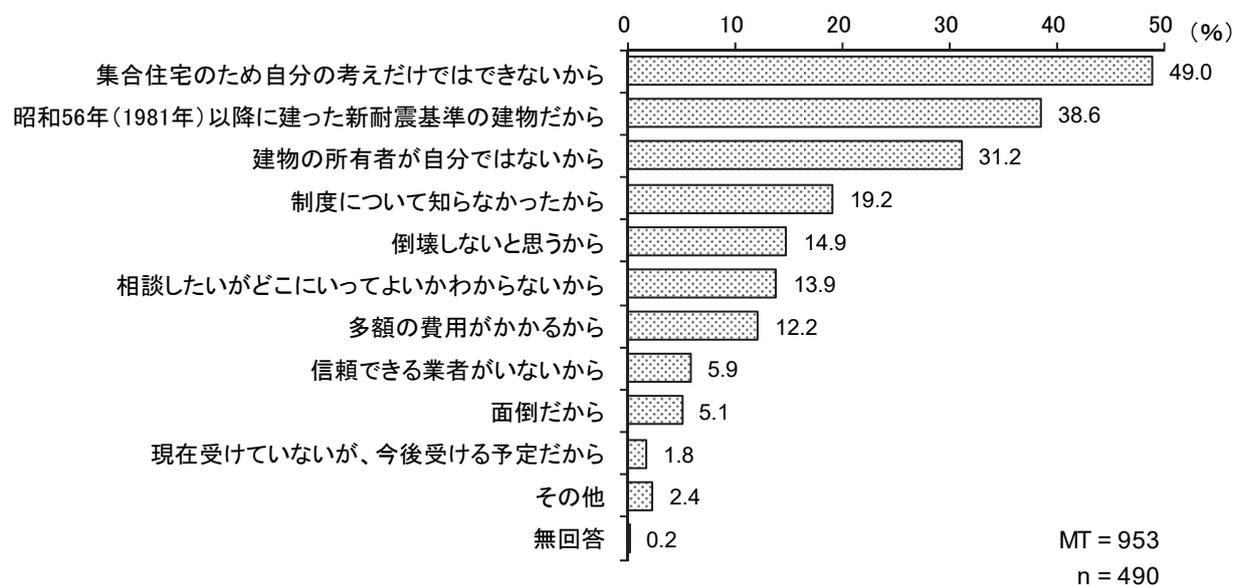
「受けたいが、まだ受けていない」では、一戸建て（38.5%）が4割近くで最も高く、全体（23.9%）を14.6ポイント上回っている。（図2-3-2）

（４）耐震診断を受けない理由

◎「集合住宅のため自分の考えだけではできないから」が5割弱

問10-1 問10で、「2」または、「3」に○をした方にお伺いします。	
耐震診断を受けていない理由は何ですか。	
（あてはまるものにいくつでも○をつけてください）	
	(n= 490)
1 現在受けていないが、今後受ける予定だから	1.8%
2 制度について知らなかったから	19.2
3 集合住宅のため自分の考えだけではできないから	49.0
4 建物の所有者が自分ではないから	31.2
5 昭和56年（1981年）以降に建った新耐震基準の建物だから	38.6
6 多額の費用がかかるから	12.2
7 倒壊しないと思うから	14.9
8 信頼できる業者がないから	5.9
9 相談したいがどこにいったよいかわからないから	13.9
10 面倒だから	5.1
11 その他	2.4
無回答	0.2

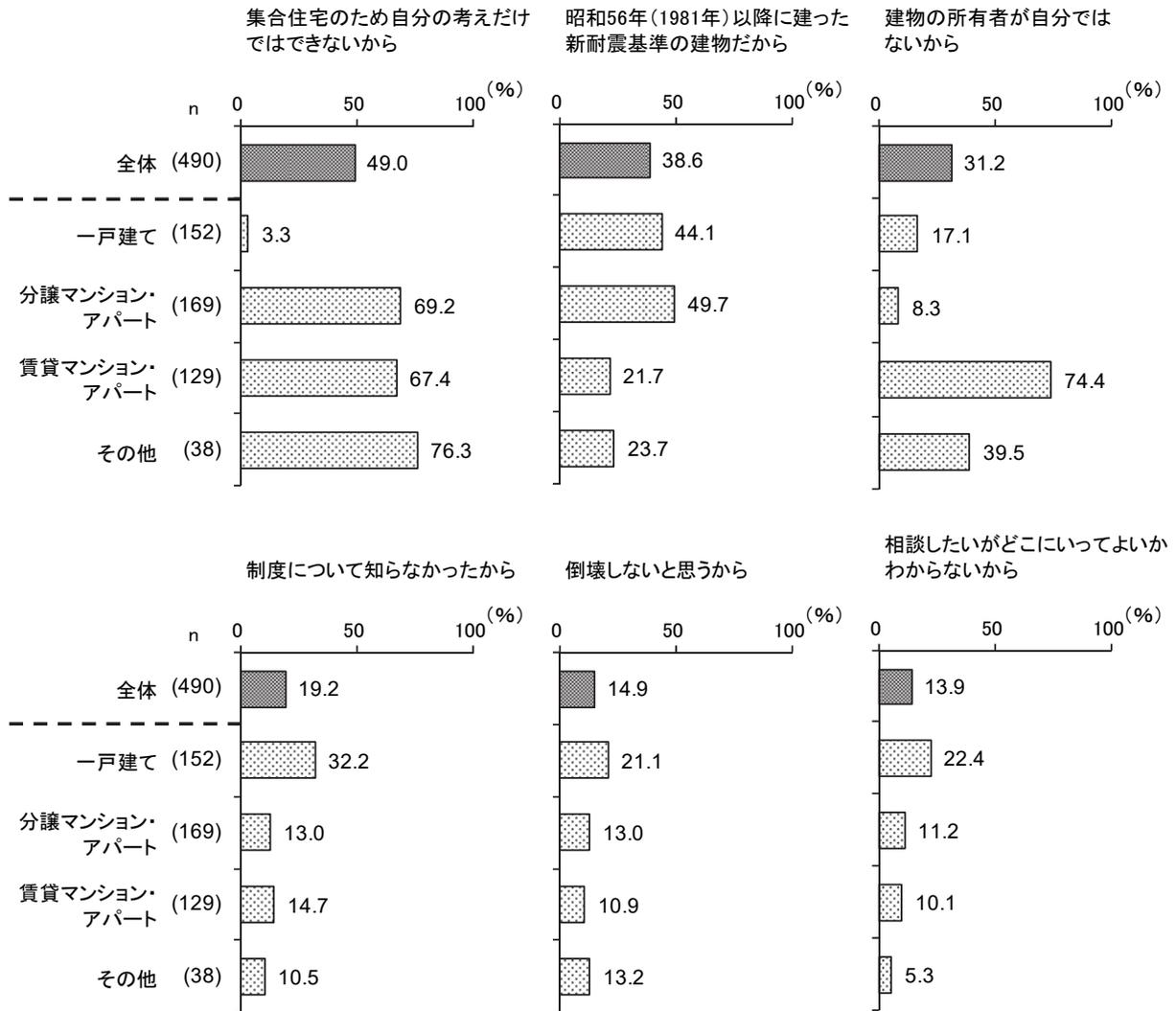
図2-4-1 耐震診断を受けない理由



耐震診断を受けない理由としては、「集合住宅のため自分の考えだけではできないから」(49.0%)が5割弱で最も高く、次いで「昭和56年(1981年)以降に建った新耐震基準の建物だから」(38.6%)が4割近く、「建物の所有者が自分ではないから」(31.2%)が3割強と続いている。

(図2-4-1)

図2-4-2 耐震診断を受けない理由
(住居形態別4区分) 上位6項目



上位6項目について、住居形態別4区分で見ると、「建物の所有者が自分ではないから」では、賃貸マンション・アパート(74.4%)が7割台半ば近くで最も高く、全体(31.2%)を43.2ポイント上回っている。

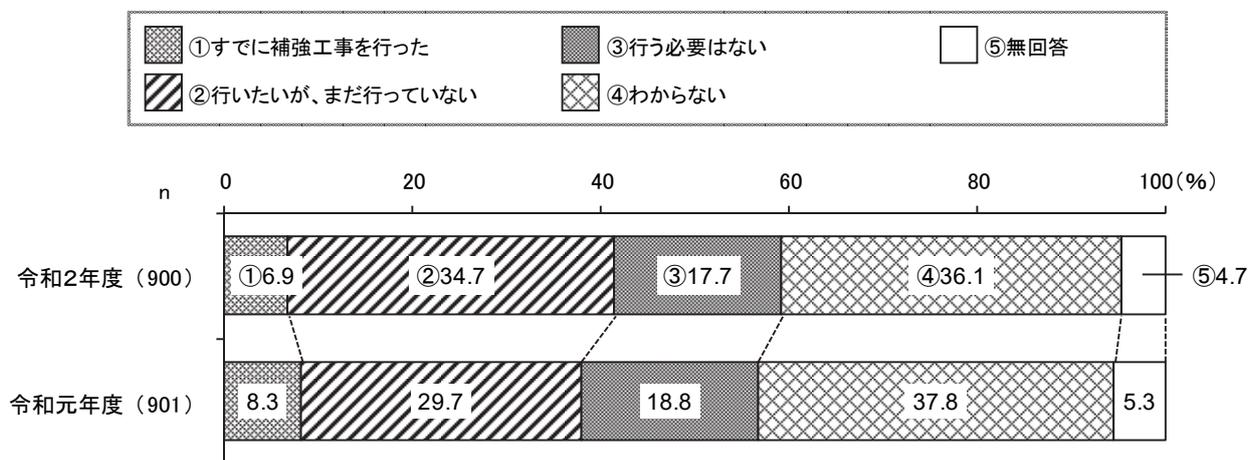
「制度について知らなかったから」では、一戸建て(32.2%)が3割強で最も高く、全体(19.2%)を13.0ポイント上回っている。(図2-4-2)

（5）耐震補強工事の意向

◎耐震補強工事を「行いたい、まだ行っていない」が3割台半ば近く

問11 お住まいの建物が耐震診断の結果で耐震補強が必要な場合、あなたは補強工事を行いたいと思いますか。（○は1つ）		(n=900)
1	すでに補強工事を行った	6.9%
2	行いたい、まだ行っていない	34.7
3	行う必要はない	17.7
4	わからない	36.1
	無回答	4.7

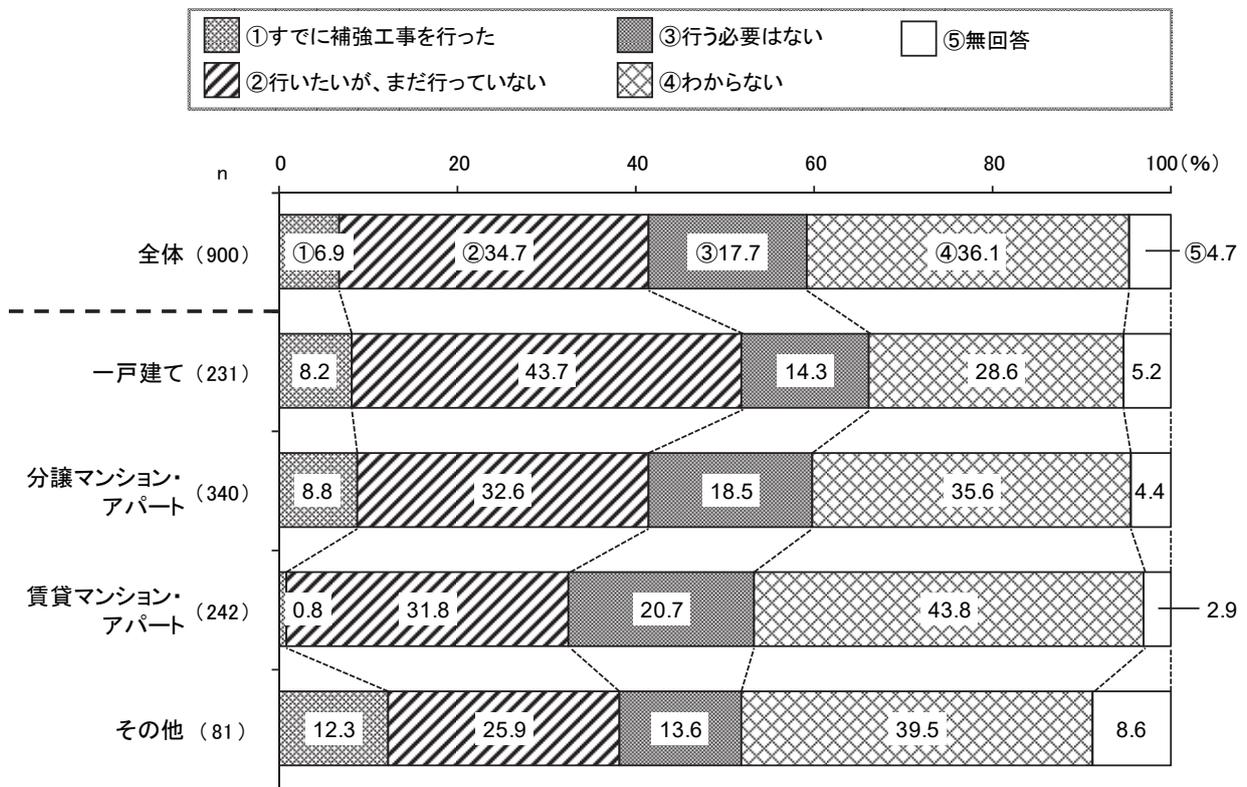
図2-5-1 耐震補強工事の意向
(経年推移)



耐震補強工事の意向について、「わからない」(36.1%)が3割台半ばを超えて最も高く、次いで「行いたい、まだ行っていない」(34.7%)が3割台半ば近くとなっている。

前回の調査結果(令和元年度区政モニターアンケート調査)と比較すると、「行いたい、まだ行っていない」(34.7%)が前回(29.7%)より5.0ポイント高くなっている。(図2-5-1)

図2-5-2 耐震補強工事の意向
(住居形態別4区分)



住居形態別4区分で見ると、「行いたい、まだ行っていない」では、一戸建て(43.7%)が4割台半ば近くで最も高くなっており、全体(34.7%)を9.0ポイント上回っている。

(図2-5-2)

（6）耐震補強工事を行っていない理由

◎「集合住宅のため自分の考えだけではできないから」が5割強

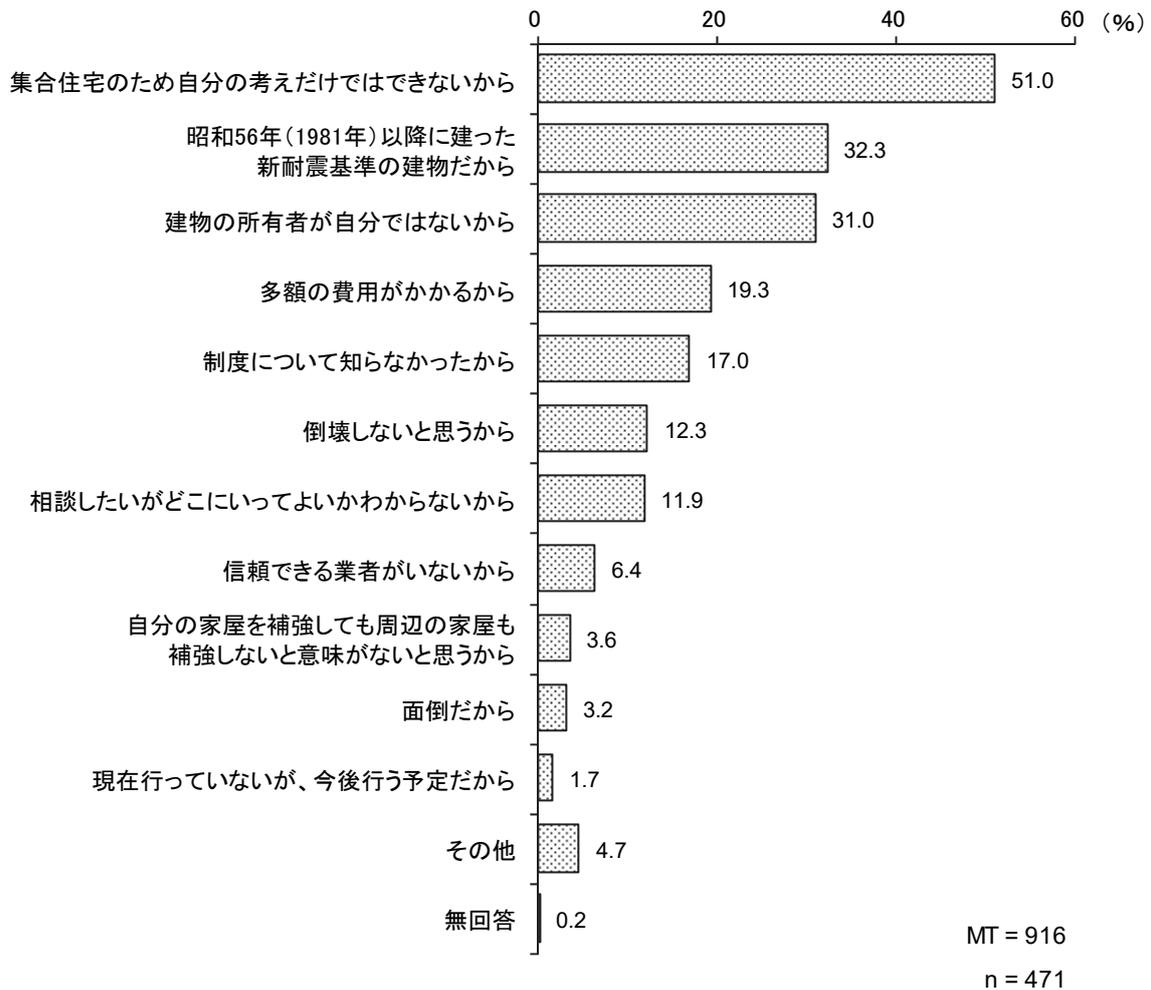
問11-1 問11で、「2」または、「3」に○をした方にお伺いします。

耐震補強工事を行っていない理由は何ですか。

（あてはまるものにいくつでも○をつけてください）

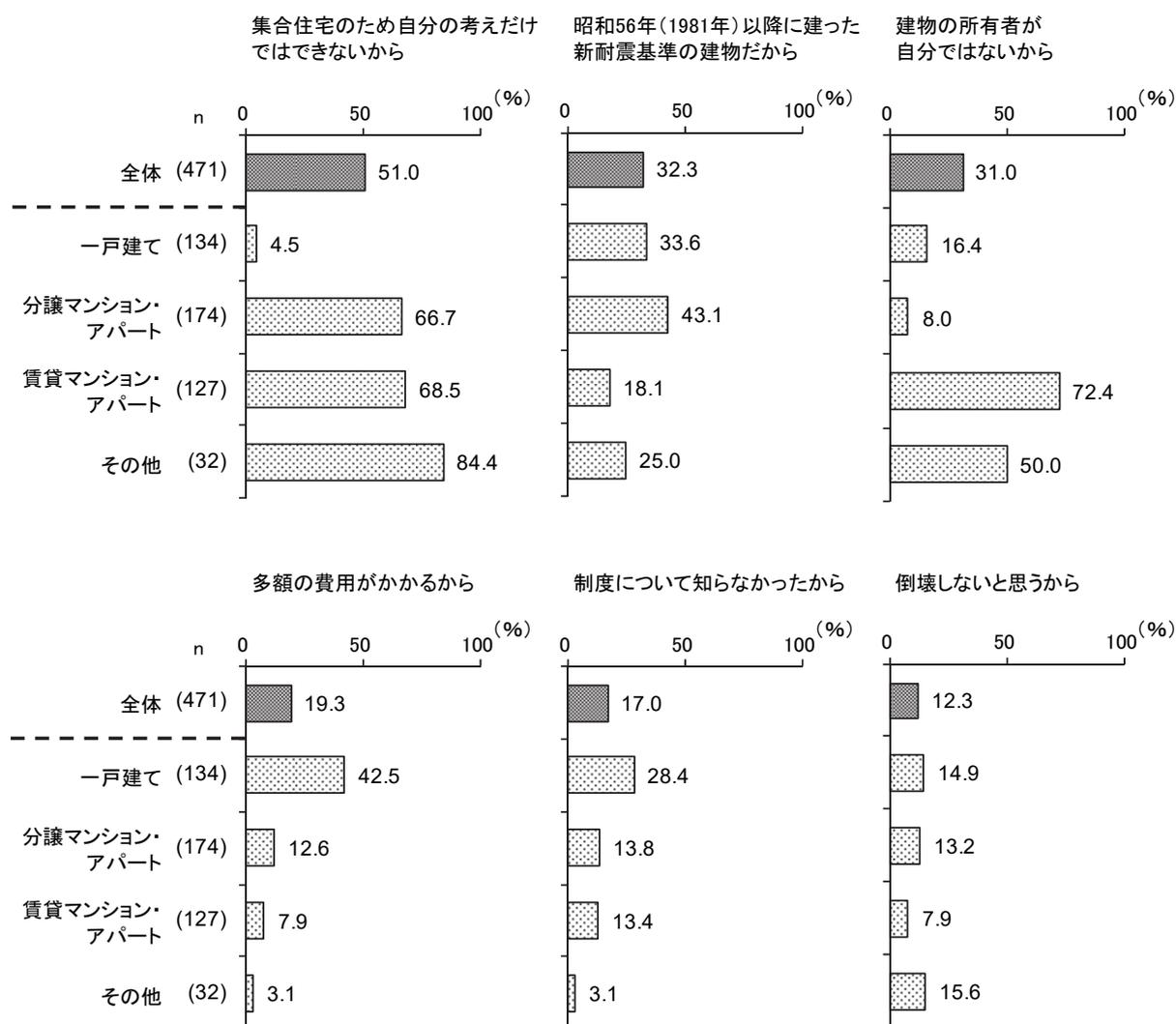
	(n= 471)
1 現在行っていないが、今後行う予定だから	1.7%
2 制度について知らなかったから	17.0
3 集合住宅のため自分の考えだけではできないから	51.0
4 建物の所有者が自分ではないから	31.0
5 昭和56年（1981年）以降に建った新耐震基準の建物だから	32.3
6 多額の費用がかかるから	19.3
7 倒壊しないと思うから	12.3
8 信頼できる業者がないから	6.4
9 相談したいがどこにいったよいかわからないから	11.9
10 自分の家屋を補強しても周辺の家屋も補強しないと意味がないと思うから	3.6
11 面倒だから	3.2
12 その他	4.7
無回答	0.2

図2-6-1 耐震補強工事を行っていない理由



耐震補強工事を行っていない理由としては、「集合住宅のため自分の考えだけではできないから」(51.0%)が5割強で最も高く、次いで「昭和56年(1981年)以降に建った新耐震基準の建物だから」(32.3%)が3割強、「建物の所有者が自分ではないから」(31.0%)が3割強と続いている。(図2-6-1)

図2-6-2 耐震補強工事を行っていない理由
（住居形態別4区分）上位6項目



上位6項目について、住居形態別4区分で見ると、「建物の所有者が自分ではないから」では、賃貸マンション・アパート（72.4%）が7割強で高くなっており、全体（31.0%）を41.4ポイント上回っている。

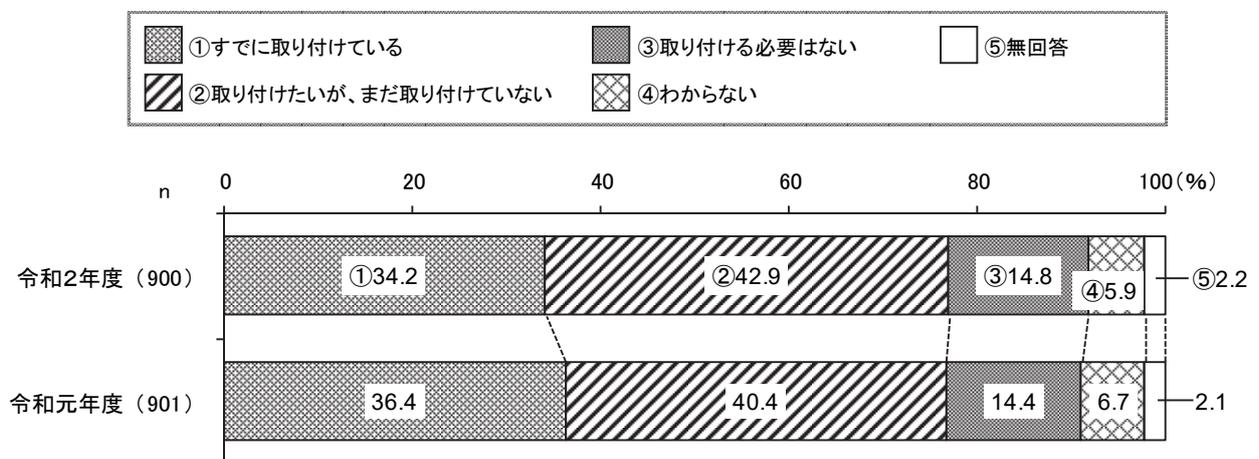
「多額の費用がかかるから」では、一戸建て（42.5%）が4割強で高くなっており、全体（19.3%）を23.2ポイント上回っている。（図2-6-2）

(7) 家具転倒防止器具の取り付けの意向

◎家具転倒防止器具を「取り付けたいが、まだ取り付けしていない」が4割強

問12 あなたは家具転倒防止器具を取り付けたいと思いますか。(○は1つ)		(n=900)
1	すでに取り付けている	34.2%
2	取り付けたいが、まだ取り付けしていない	42.9
3	取り付ける必要はない	14.8
4	わからない	5.9
	無回答	2.2

図2-7-1 家具転倒防止器具の取り付けの意向
(経年推移)

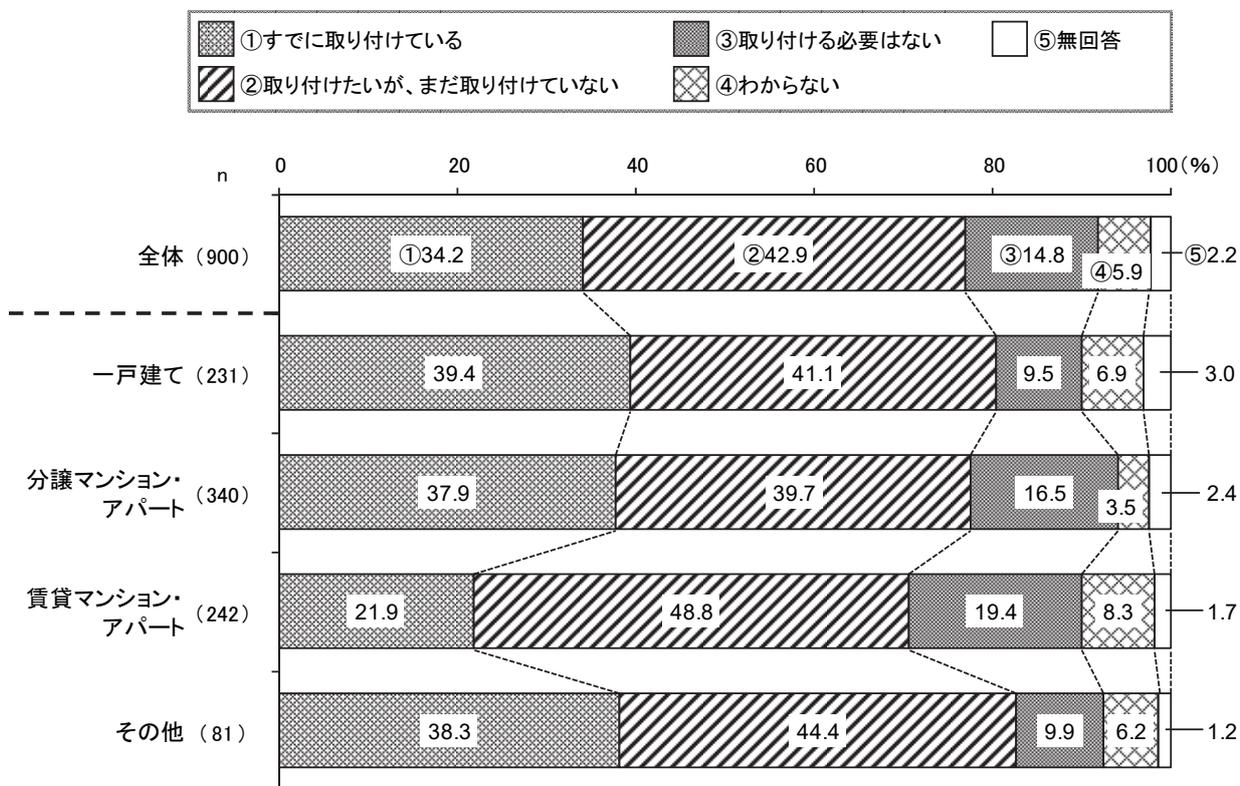


家具転倒防止器具の取り付けの意向について、「すでに取り付けている」(34.2%)が3割台半ば近く、「取り付けたいが、まだ取り付けしていない」(42.9%)が4割強となっている。一方、「取り付ける必要はない」(14.8%)が1割台半ば近くとなっている。

前回の調査結果(令和元年度区政モニターアンケート調査)と比較すると、「取り付けたいが、まだ取り付けしていない」(42.9%)が前回(40.4%)より2.5ポイント高くなっている。

(図2-7-1)

図2-7-2 家具転倒防止器具の取り付けの意向
（住居形態別4区分）



住居形態別4区分で見ると、「取り付けたいが、まだ取り付けていない」では、賃貸マンション・アパート（48.8%）が5割近くで最も高くなっており、全体（42.9%）を5.9ポイント上回っている。（図2-7-2）

(8) 家具転倒防止器具を取り付けていない理由

◎「どのような器具を取り付ければよいかわからないから」が3割強

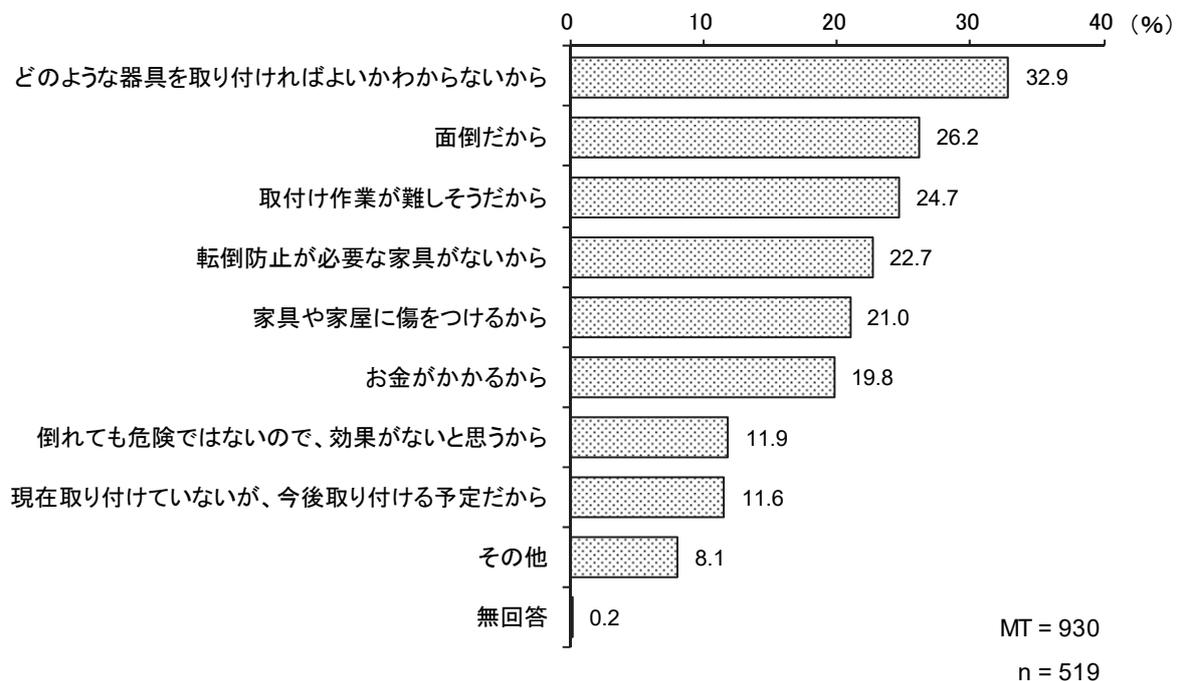
問12-1 問12で、「2」または「3」に○をした方にお伺いします。

家具転倒防止器具を取り付けていない理由は何ですか。

(あてはまるものにいくつでも○をつけてください)

	(n=519)
1 現在取り付けていないが、今後取り付ける予定だから	11.6%
2 どのような器具を取り付ければよいかわからないから	32.9
3 家具や家屋に傷をつけるから	21.0
4 取付け作業が難しそうだから	24.7
5 お金がかかるから	19.8
6 倒れても危険ではないので、効果がないと思うから	11.9
7 面倒だから	26.2
8 転倒防止が必要な家具がないから	22.7
9 その他	8.1
無回答	0.2

図2-8 家具転倒防止器具を取り付けていない理由



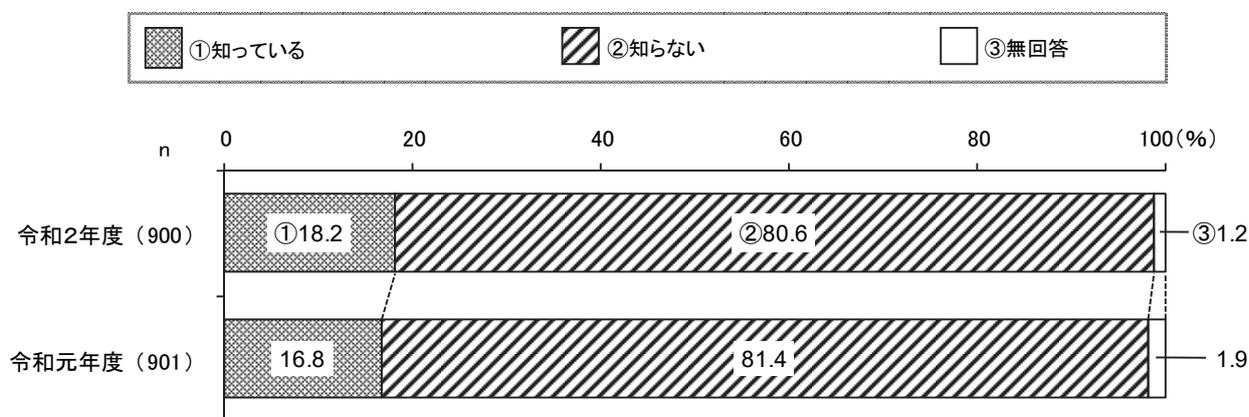
家具転倒防止器具を取り付けていない理由としては、「どのような器具を取り付ければよいかわからないから」(32.9%)が3割強で最も高く、次いで「面倒だから」(26.2%)が2割台半ばを超え、「取付け作業が難しそうだから」(24.7%)が2割台半ば近くと続いている。(図2-8)

（9）「家具転倒防止器具取付け事業」の認知状況

◎事業を「知らない」が約8割

問13 あなたは、区が行っている家具転倒防止器具取付け事業（調査費・取付け費無料）を知っていますか。（○は1つ）		(n=900)
1	知っている	18.2%
2	知らない	80.6
	無回答	1.2

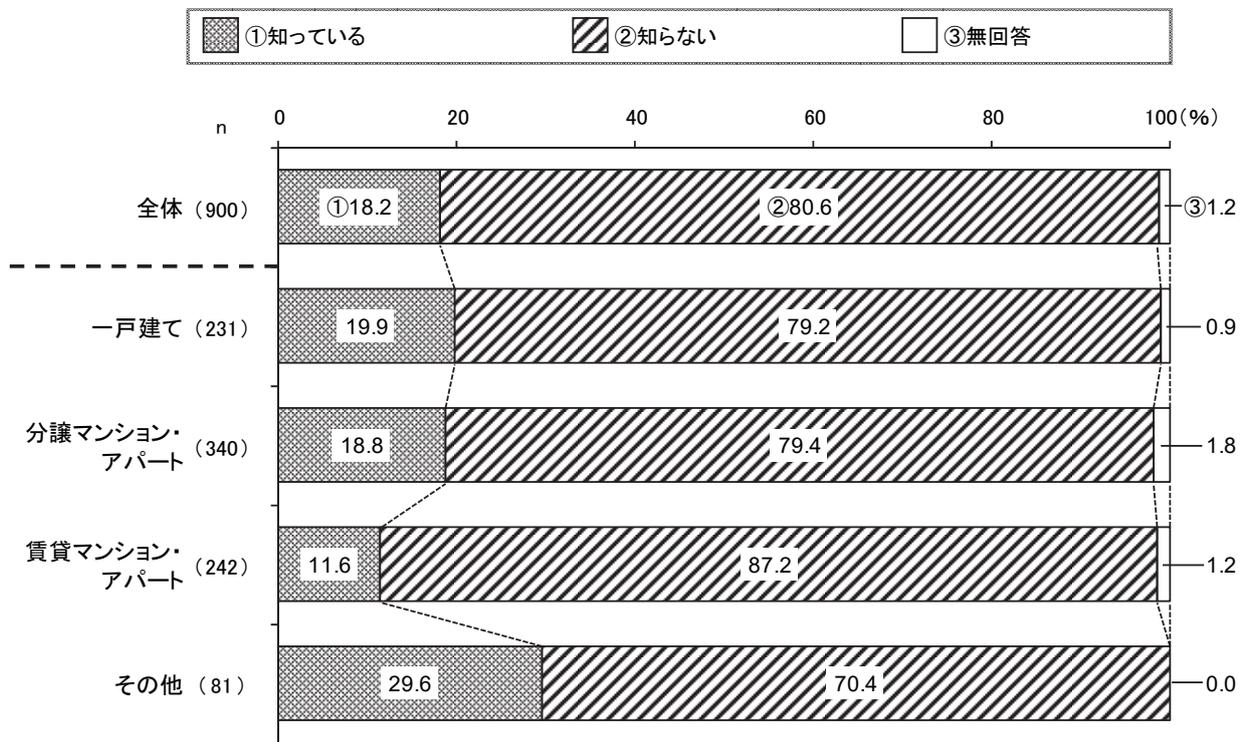
図2-9-1 「家具転倒防止器具取付け事業」の認知状況
（経年推移）



「家具転倒防止器具取付け事業」の認知状況について、事業を「知らない」（80.6%）が約8割となっている。

前回の調査結果（令和元年度区政モニターアンケート調査）と比較すると、割合に大きな変化はみられない。（図2-9-1）

図2-9-2 「家具転倒防止器具取付け事業」の認知状況
(住居形態別4区分)



住居形態別4区分で見ると、「知らない」では、賃貸マンション・アパート (87.2%) が8割台半ばを超えて最も高くなっており、全体 (80.6%) を6.6ポイント上回っている。(図2-9-2)

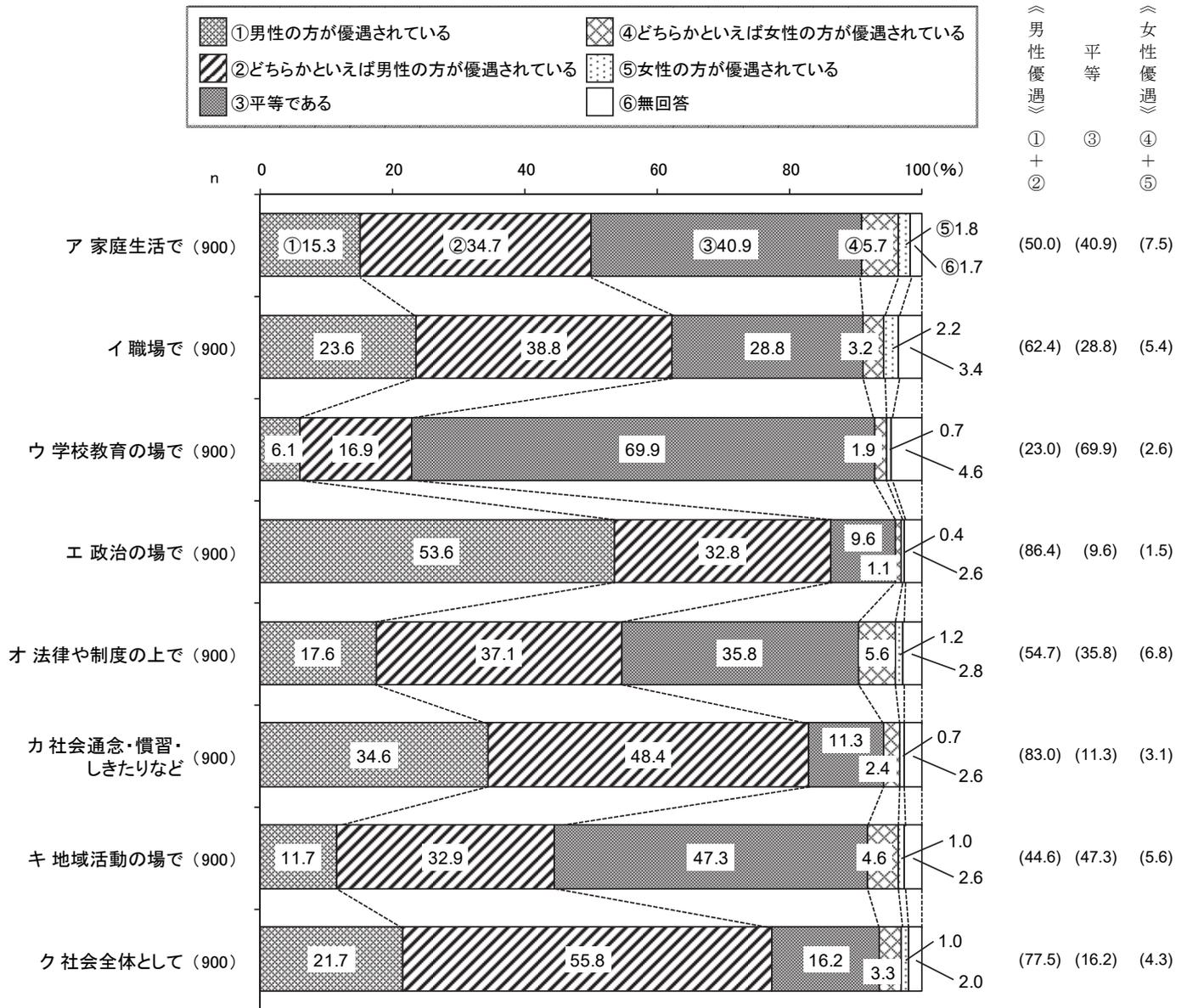
テーマ3 男女共同参画に関する意識について

（1）さまざまな分野での男女平等意識について

◎「平等である」と思う方が多いのは『学校教育の場で』で7割弱

問14 あなたは、次のような分野において男女平等だと思いますか。 (ア～クそれぞれで、1～5に1つだけ○をつけてください)						
(n=900)						
	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	無回答
ア 家庭生活上で	15.3%	34.7%	40.9%	5.7%	1.8%	1.7%
イ 職場で	23.6	38.8	28.8	3.2	2.2	3.4
ウ 学校教育の場で	6.1	16.9	69.9	1.9	0.7	4.6
エ 政治の場で	53.6	32.8	9.6	1.1	0.4	2.6
オ 法律や制度の上で	17.6	37.1	35.8	5.6	1.2	2.8
カ 社会通念・慣習・しきたりなど	34.6	48.4	11.3	2.4	0.7	2.6
キ 地域活動の場で	11.7	32.9	47.3	4.6	1.0	2.6
ク 社会全体として	21.7	55.8	16.2	3.3	1.0	2.0

図3-1-1 さまざまな分野での男女平等意識について

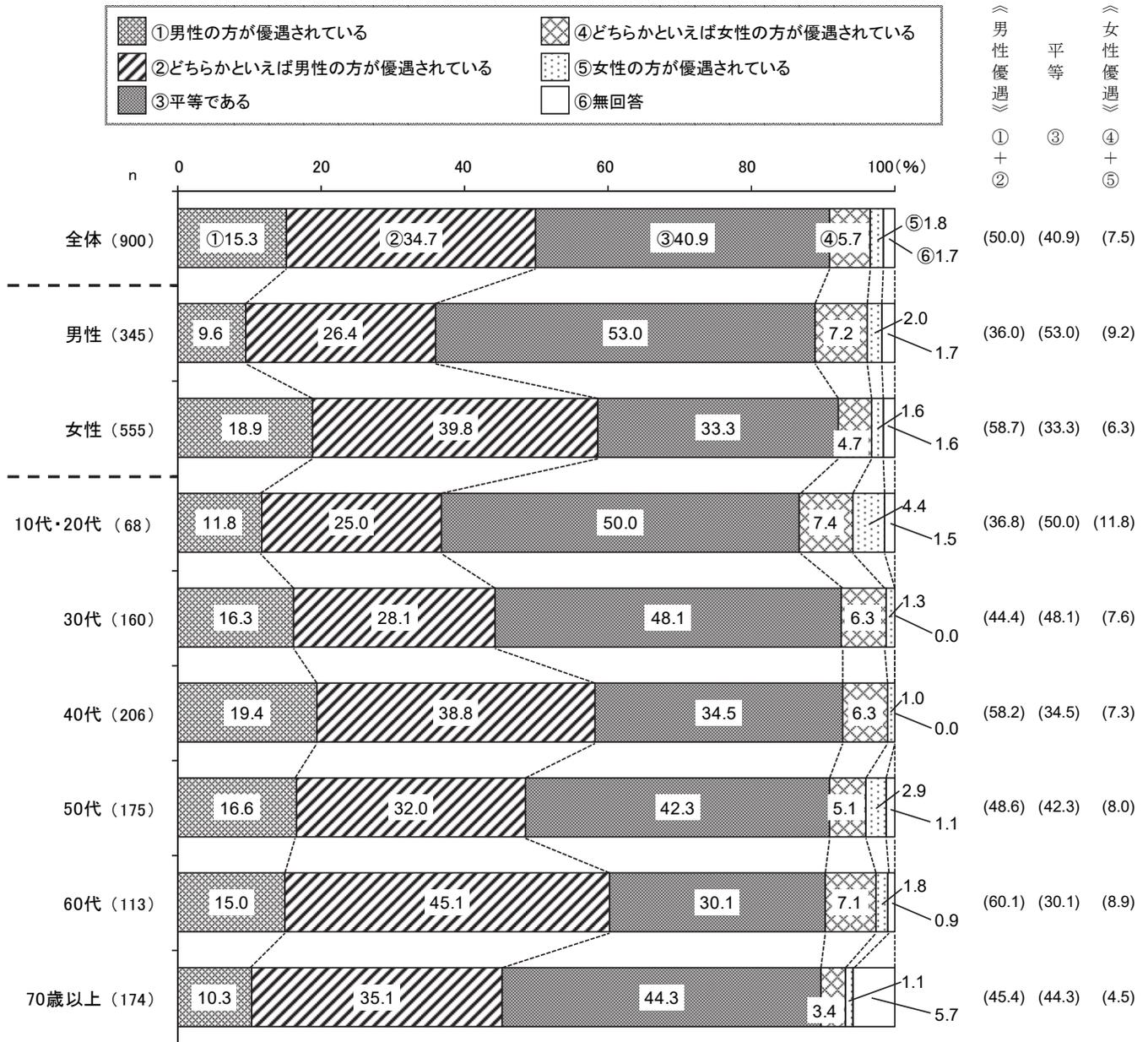


さまざまな分野での男女平等意識について、「平等である」は『学校教育の場で』(69.9%)が7割弱となっている。

「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた《男性優遇》は、『政治の場で』(86.4%)が8割台半ばを超え、『社会通念・慣習・しきたりなど』(83.0%)が8割台半ば近くとなっている。(図3-1-1)

Ⅱ 調査の結果（テーマ3 男女共同参画に関する意識について）

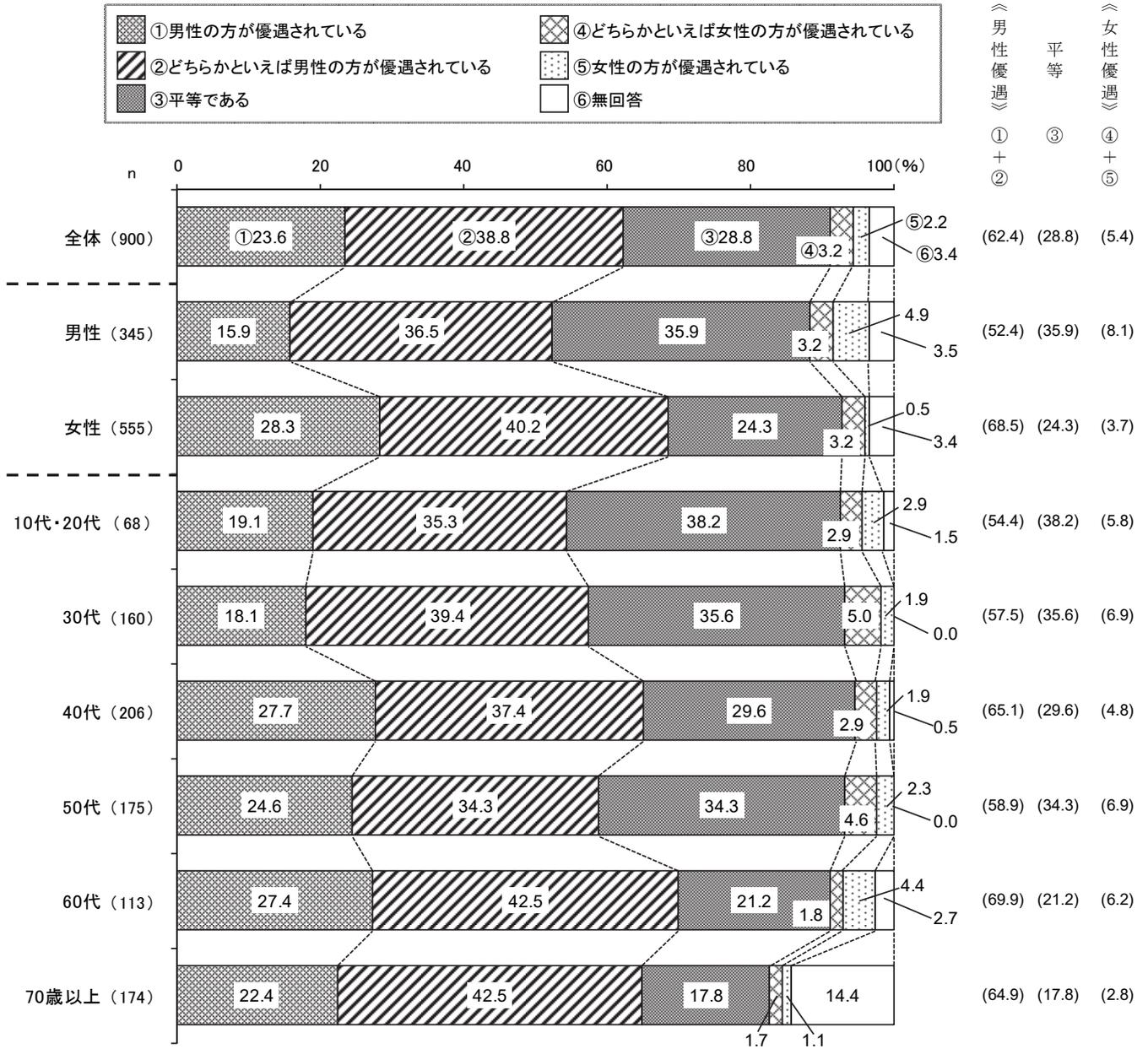
図3-1-2 さまざまな分野での男女平等意識について
（性別・年代別）
『ア 家庭生活で』



『家庭生活で』について、性別で見ると、《男性優遇》は女性(58.7%)が6割近くと、男性(36.0%)を22.7ポイント上回っている。

年代別で見ると、《男性優遇》は60代(60.1%)が約6割で高くなっており、全体(50.0%)を10.1ポイント上回っている。(図3-1-2)

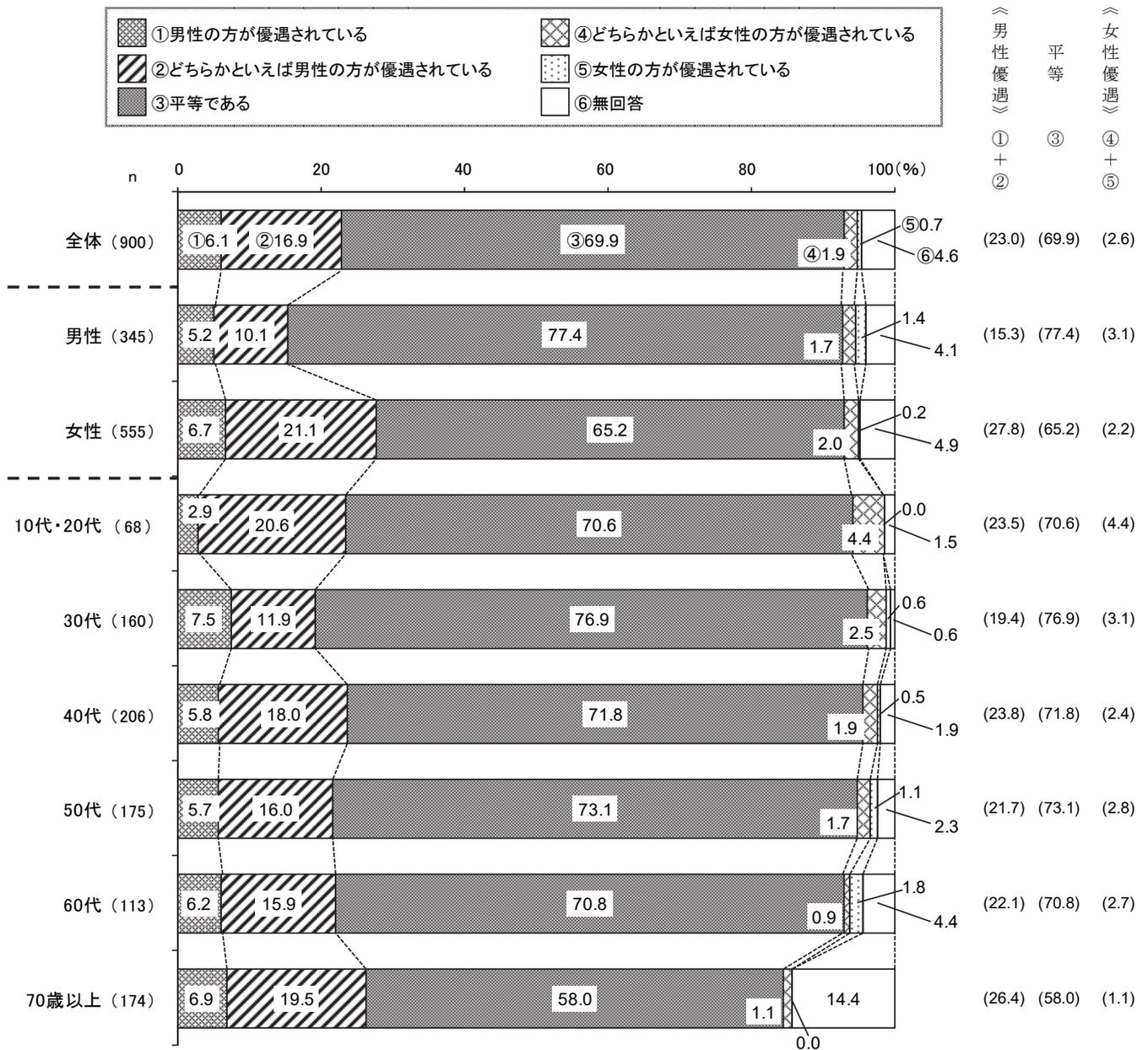
図3-1-3 さまざまな分野での男女平等意識について
(性別・年代別)
『イ 職場で』



『職場で』について、性別で見ると、《男性優遇》は女性 (68.5%) が7割近くと、男性 (52.4%) を16.1ポイント上回っている。

年代別で見ると、「平等である」は10代・20代 (38.2%) が4割近くと高くなっており、全体 (28.8%) を9.4ポイント上回っている。(図3-1-3)

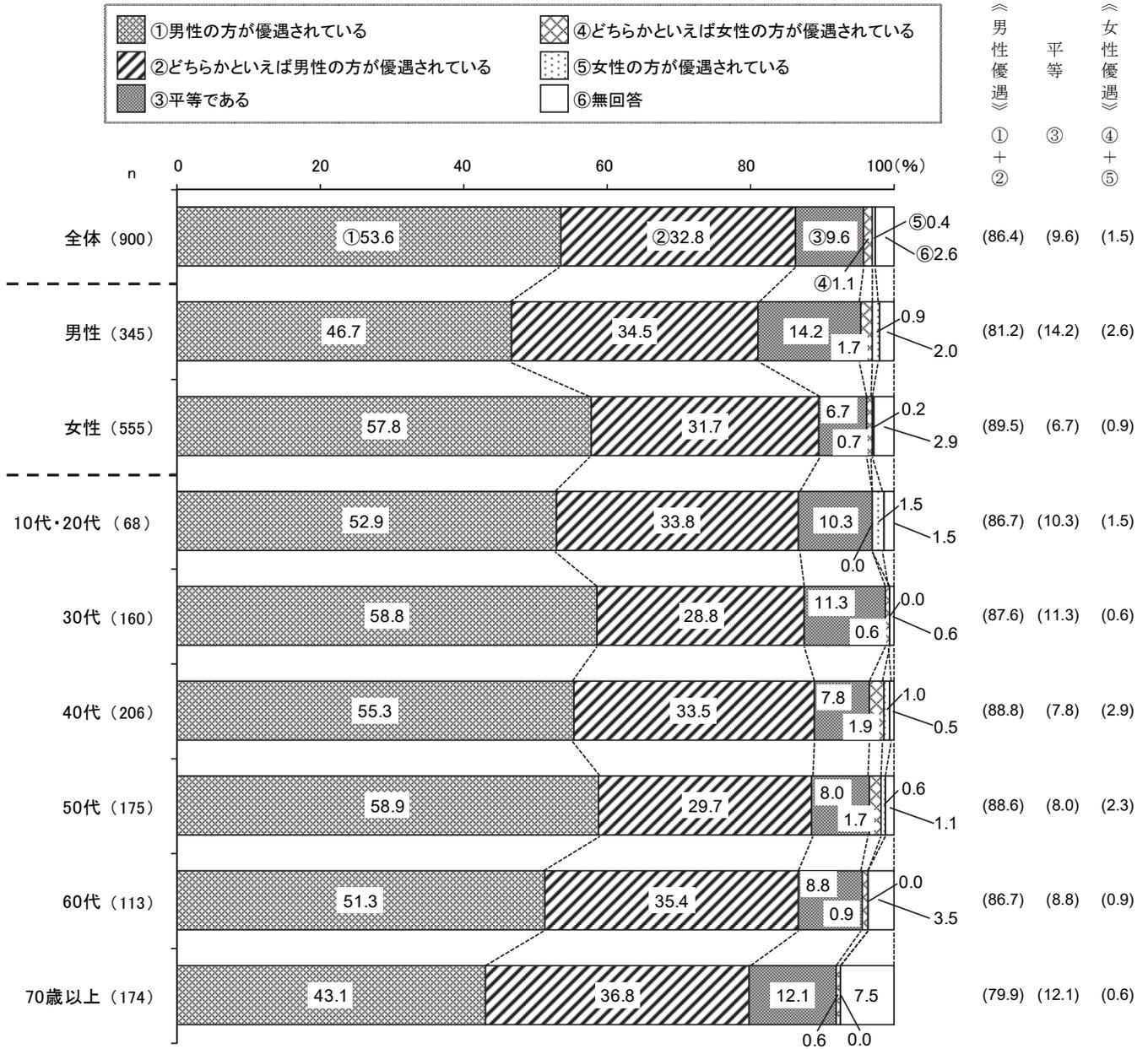
図3-1-4 さまざまな分野での男女平等意識について
（性別・年代別）
『ウ 学校教育の場で』



『学校教育の場で』について、性別で見ると、《男性優遇》は女性（27.8%）が2割台半ばを超え、男性（15.3%）を12.5ポイント上回っている。

年代別で見ると、「平等である」は30代（76.9%）が7割台半ばを超えて高くなっており、全体（69.9%）を7.0ポイント上回っている。（図3-1-4）

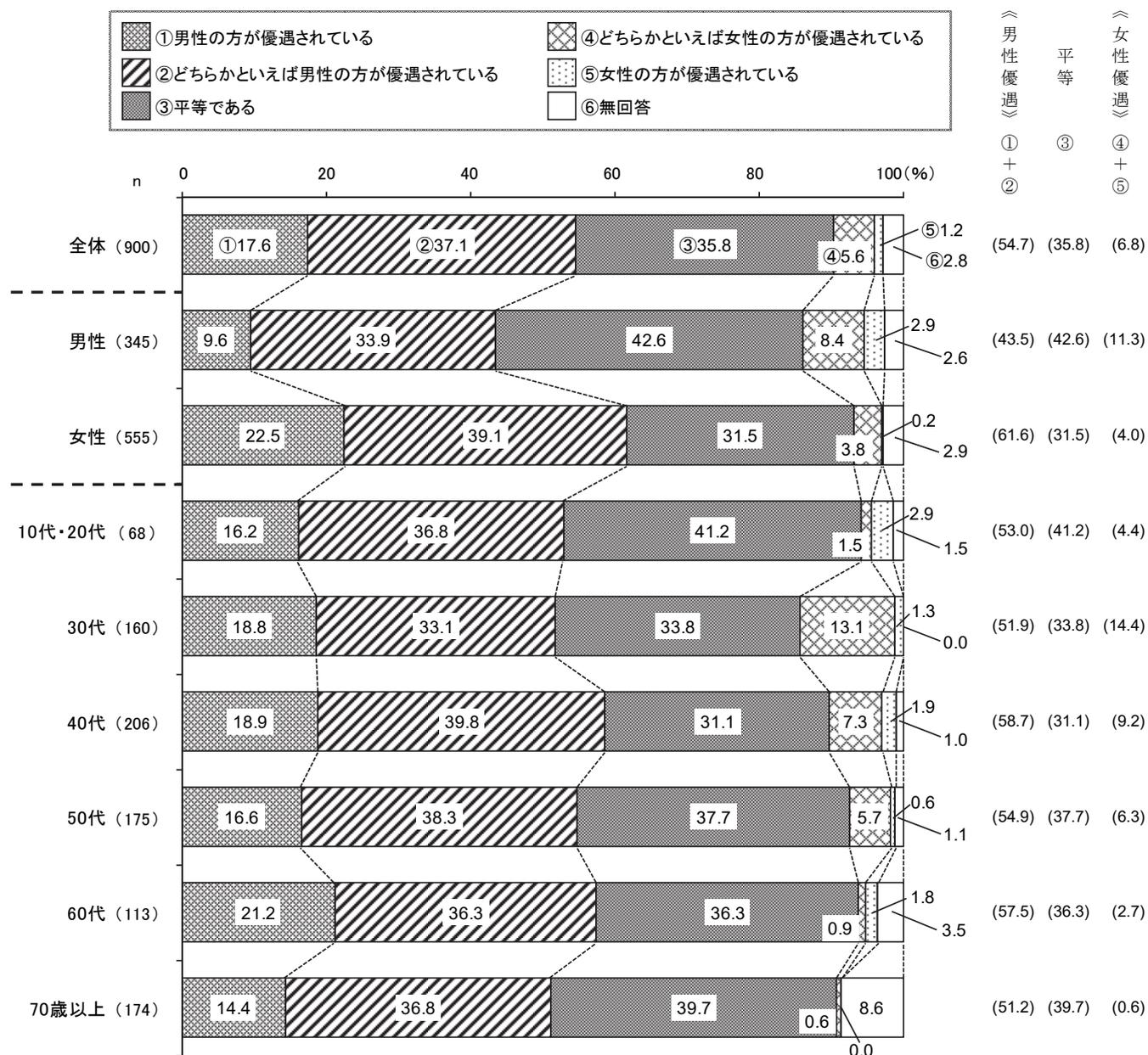
図3-1-5 さまざまな分野での男女平等意識について
(性別・年代別)
『エ 政治の場で』



『政治の場で』について、性別で見ると、《男性優遇》は女性(89.5%)が9割弱と、男性(81.2%)を8.3ポイント上回っている。

年代別で見ると、《男性優遇》は70歳以上(79.9%)が8割弱と低くなっており、全体(86.4%)を6.5ポイント下回っている。(図3-1-5)

図3-1-6 さまざまな分野での男女平等意識について
（性別・年代別）
『オ 法律や制度の上で』

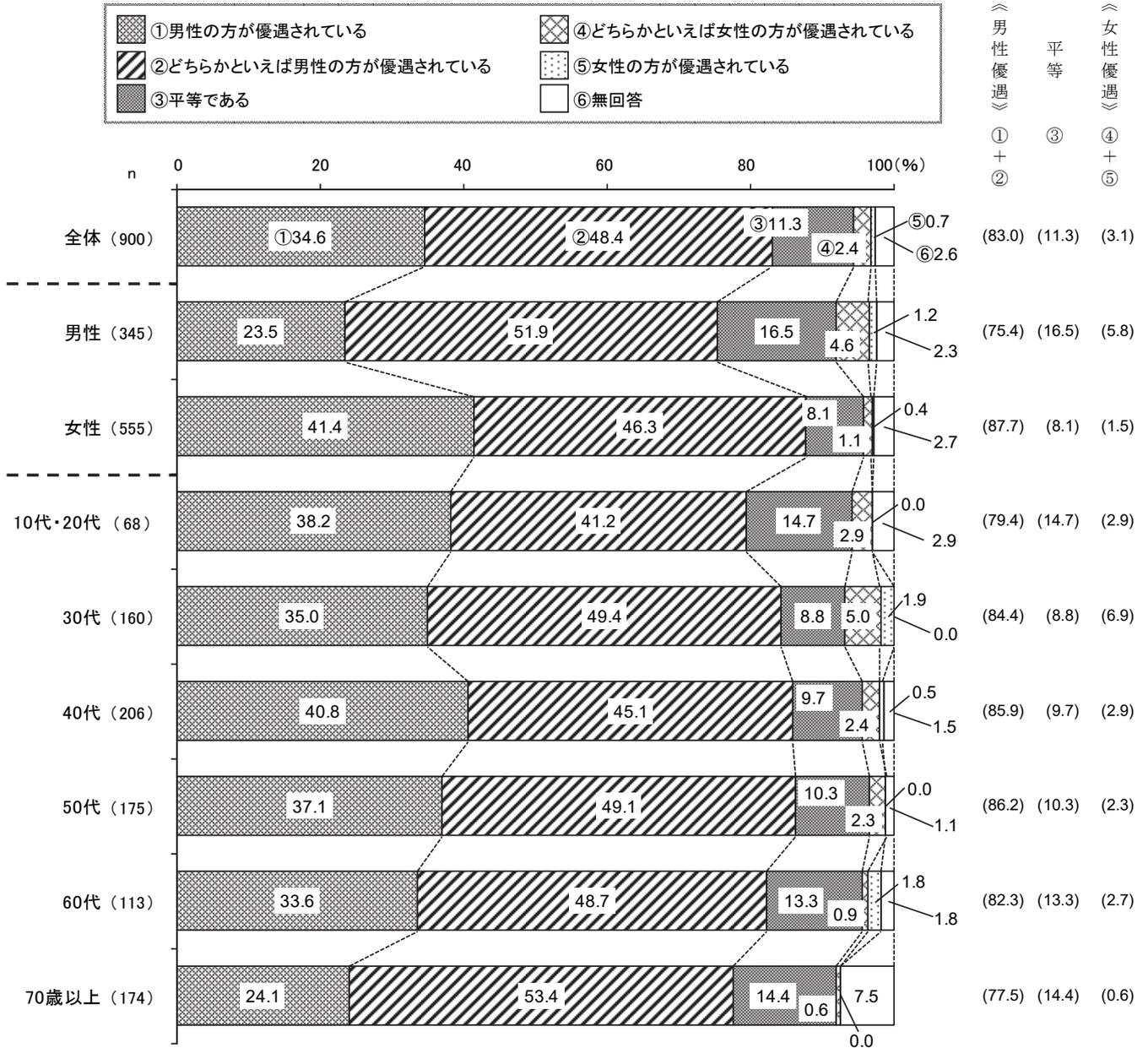


『法律や制度の上で』について、性別で見ると、《男性優遇》は女性（61.6%）が6割強と、男性（43.5%）を18.1ポイント上回っている。一方、「平等である」は男性（42.6%）が4割強と、女性（31.5%）を11.1ポイント上回っている。

年代別で見ると、「平等である」は10代・20代（41.2%）が4割強と高くなっており、全体（35.8%）を5.4ポイント上回っている。（図3-1-6）

図3-1-7 さまざまな分野での男女平等意識について
(性別・年代別)

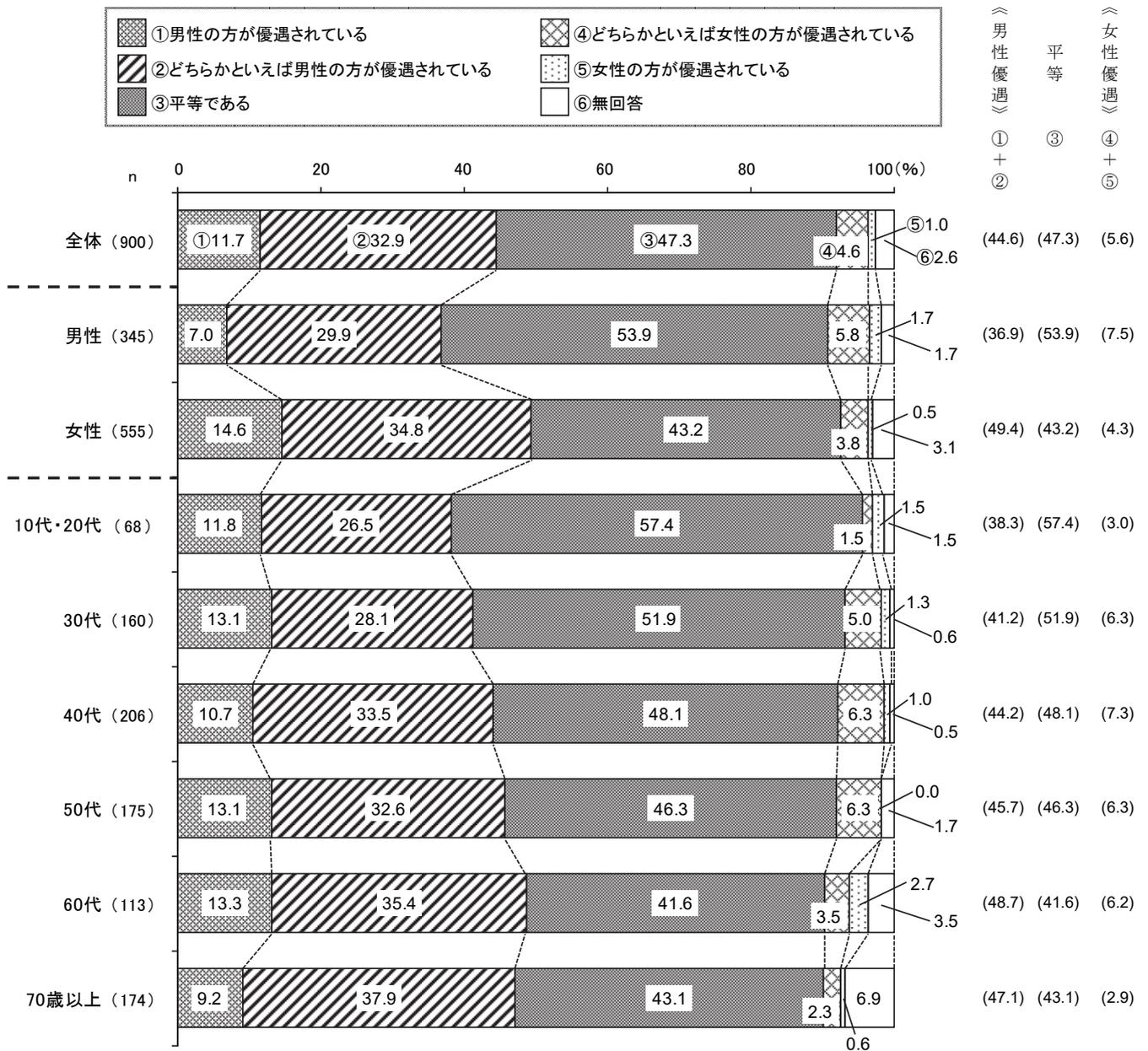
『カ 社会通念・慣習・しきたりなど』



『社会通念・慣習・しきたりなど』について、性別で見ると、《男性優遇》は女性（87.7%）が8割台半ばを超え、男性（75.4%）を12.3ポイント上回っている。

年代別で見ると、《男性優遇》は70歳以上（77.5%）が7割台半ばを超えとなっており、全体（83.0%）を5.5ポイント下回っている。（図3-1-7）

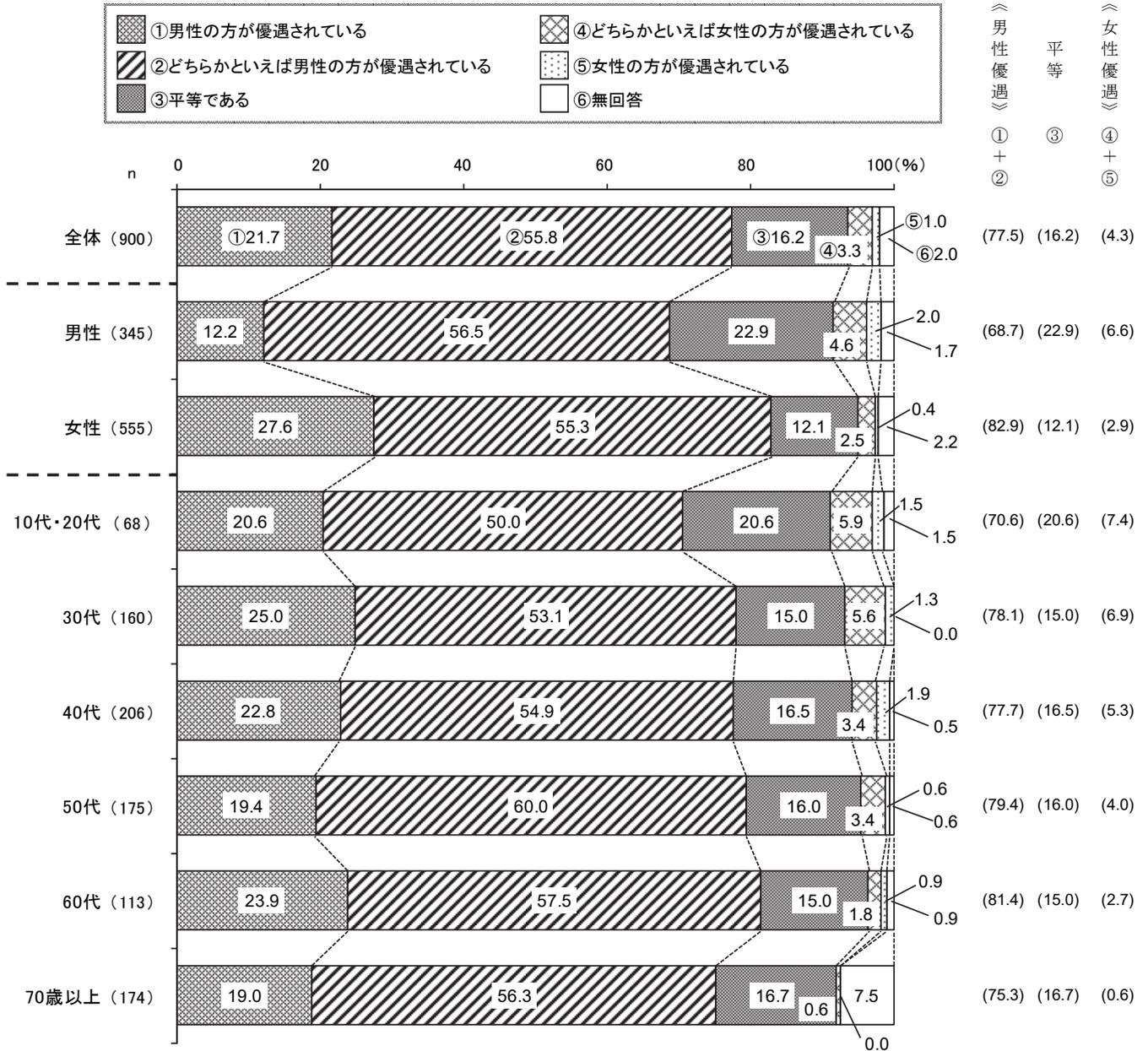
図3-1-8 さまざまな分野での男女平等意識について
（性別・年代別）
『キ 地域活動の場で』



『地域活動の場で』について、性別で見ると、《男性優遇》は女性（49.4%）が5割弱と、男性（36.9%）を12.5ポイント上回っている。

年代別で見ると、「平等である」は10代・20代（57.4%）が5割台半ばを超えて高くなっており、全体（47.3%）を10.1ポイント上回っている。（図3-1-8）

図3-1-9 さまざまな分野での男女平等意識について
(性別・年代別)
『ク 社会全体として』



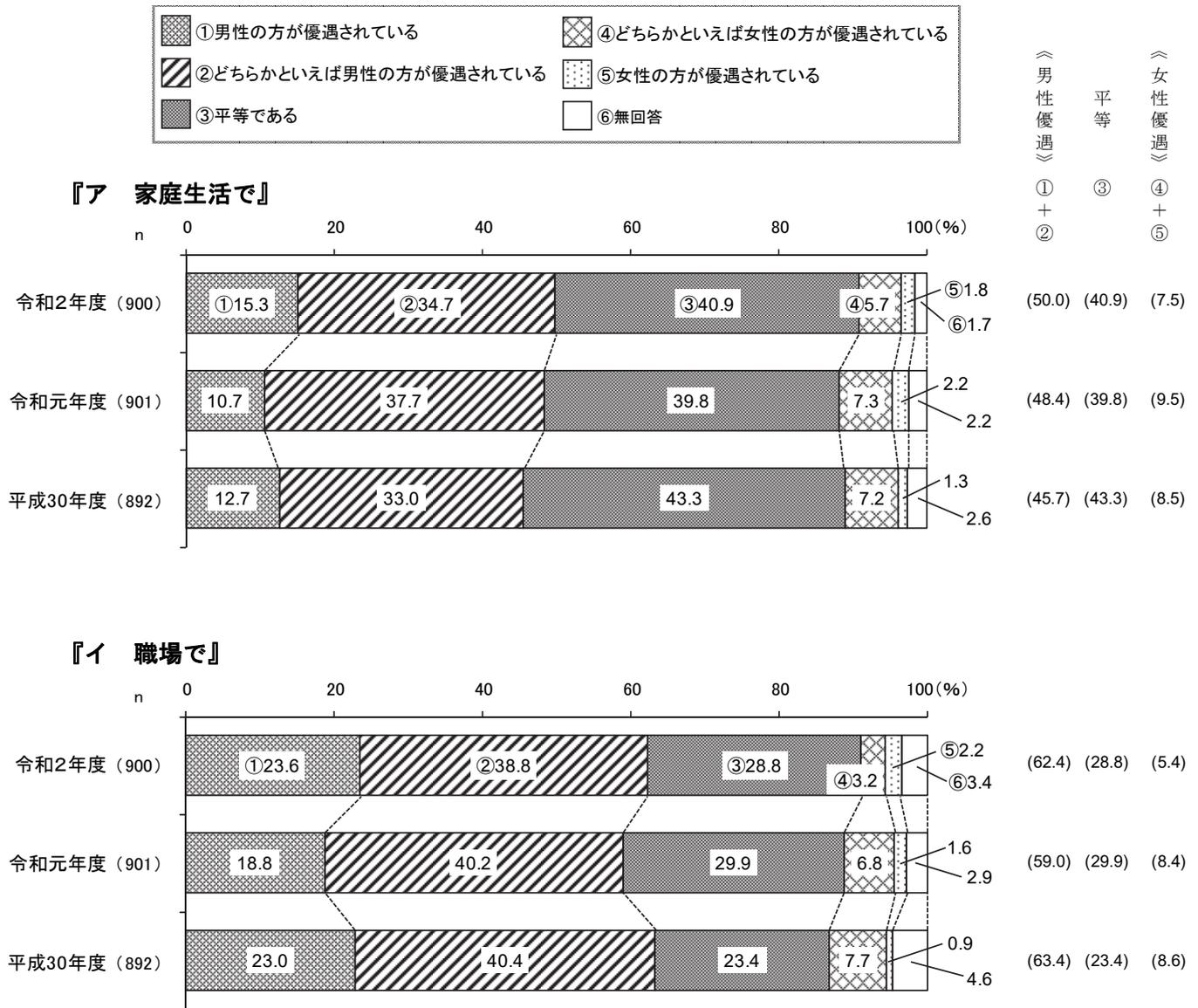
『社会全体として』について、性別で見ると、《男性優遇》は女性（82.9%）が8割強と、男性（68.7%）を14.2ポイント上回っている。

年代別で見ると、《男性優遇》は10代・20代（70.6%）が約7割と低くなっており、全体（77.5%）を6.9ポイント下回っている。（図3-1-9）

Ⅱ 調査の結果（テーマ3 男女共同参画に関する意識について）

図3-1-10 さまざまな分野での男女平等意識について
（経年推移）

『ア 家庭生活上』・『イ 職場で』



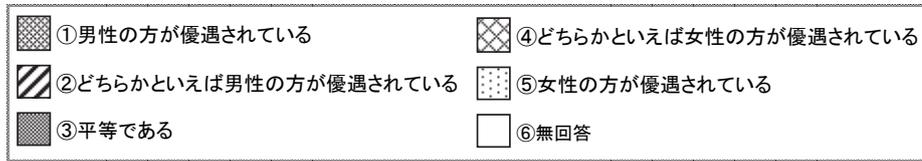
過去3年間の経年推移をみると、『家庭生活上』では《男性優遇》の割合が年々高くなっている。

『職場で』では「平等である」について、平成30年度（23.4%）から令和元年度（29.9%）にかけて6.5ポイント高くなり、令和2年度（28.8%）は令和元年度と同程度になっている。

（図3-1-10）

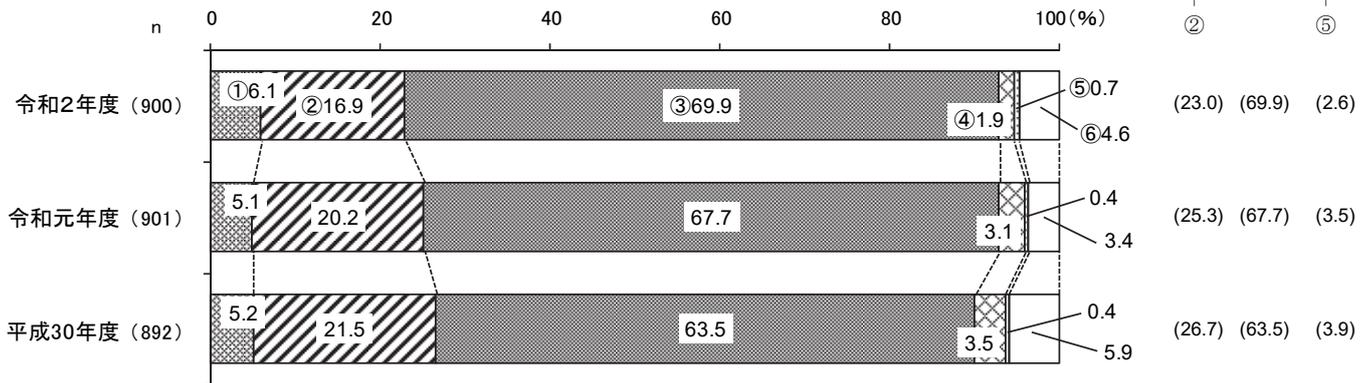
図3-1-11 さまざまな分野での男女平等意識について
(経年推移)

『ウ 学校教育の場で』・『エ 政治の場で』

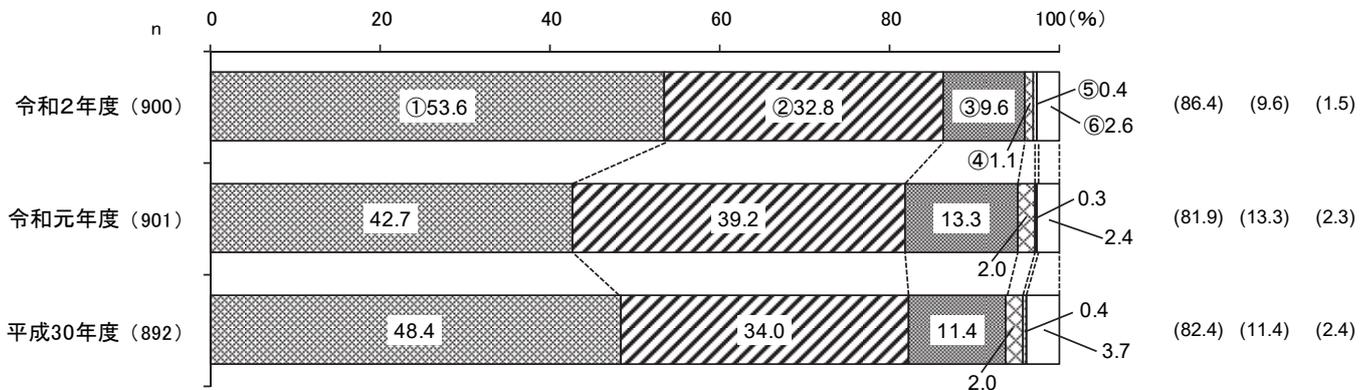


《男性優遇》
① + ②
《平等》
③
《女性優遇》
④ + ⑤

『ウ 学校教育の場で』



『エ 政治の場で』

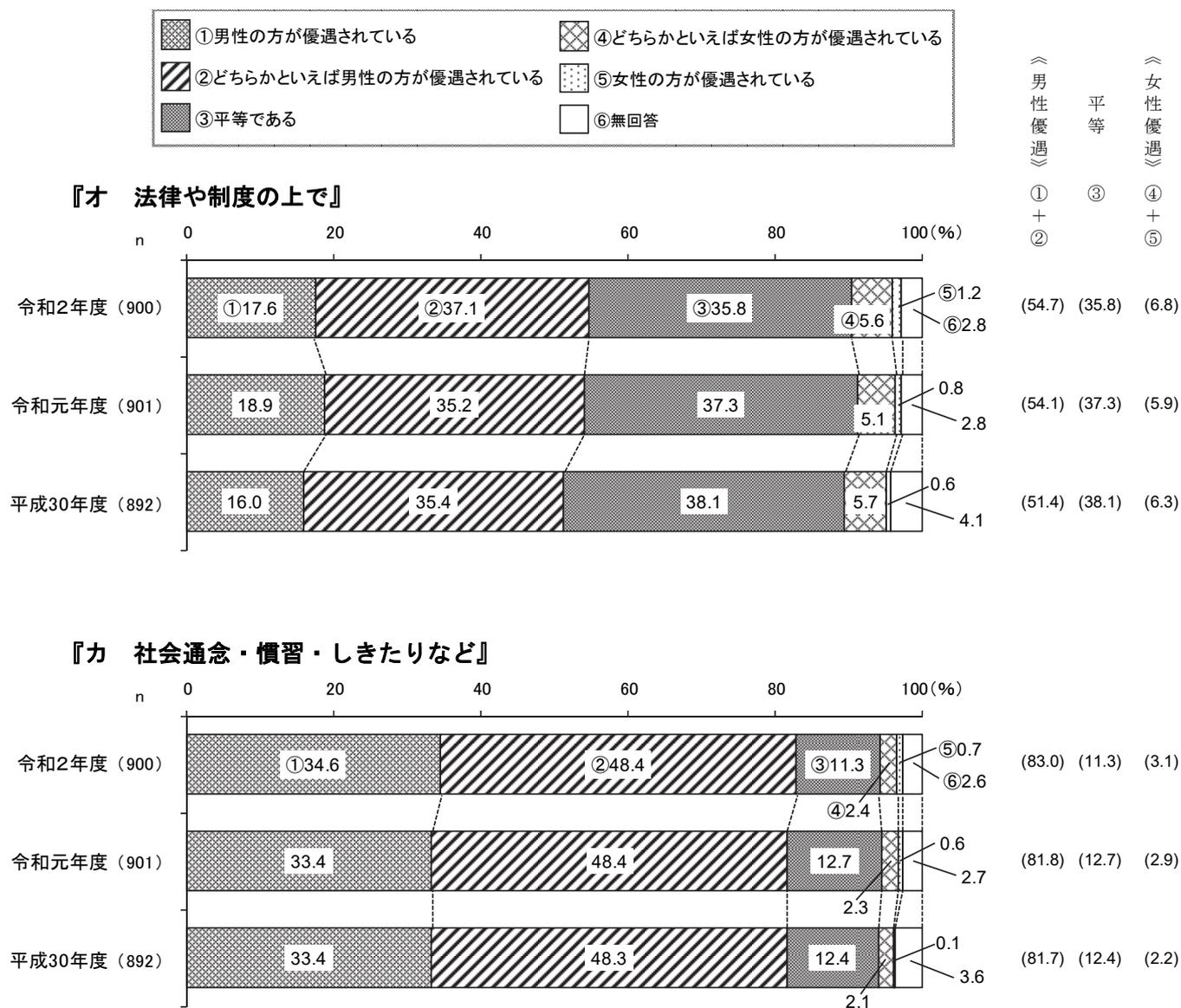


過去3年間の経年推移をみると、『学校教育の場で』では「平等である」の割合が年々高くなっている。

『政治の場で』では《男性優遇》について、令和元年度（81.9%）から令和2年度（86.4%）にかけて4.5ポイント高くなっている。（図3-1-11）

図3-1-12 さまざまな分野での男女平等意識について
（経年推移）

『オ 法律や制度の上で』・『カ 社会通念・慣習・しきたりなど』

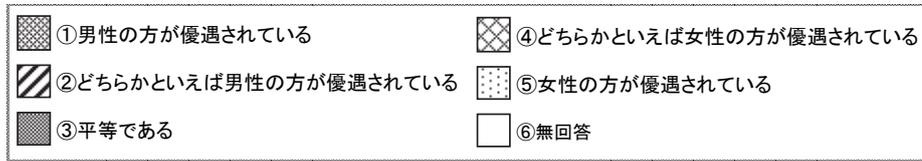


過去3年間の経年推移をみると、『法律や制度の上で』では《男性優遇》の割合が年々高くなっている。

『社会通念・慣習・しきたりなど』では割合に大きな変化はみられない。（図3-1-12）

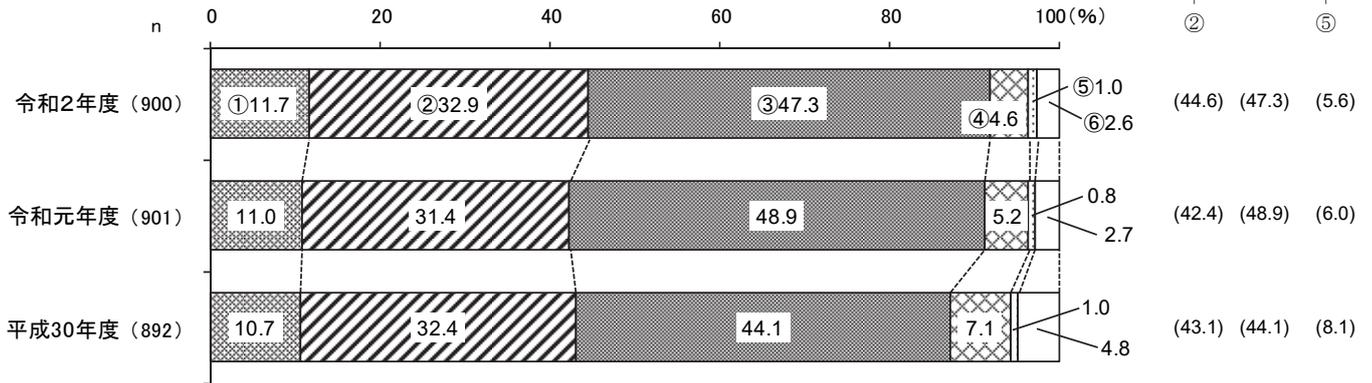
図3-1-13 さまざまな分野での男女平等意識について
(経年推移)

『キ 地域活動の場で』・『ク 社会全体として』

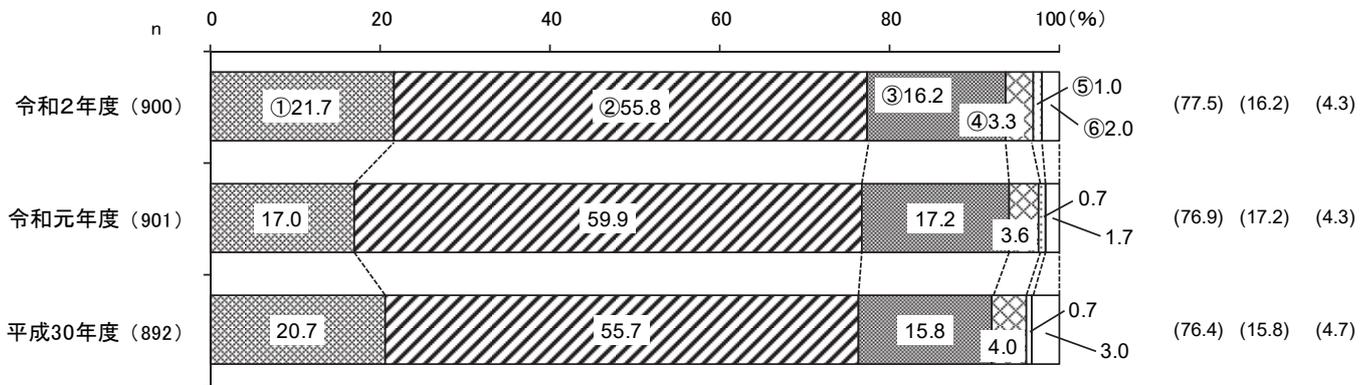


《男性優遇》
① + ②
《平等》
③
《女性優遇》
④ + ⑤

『キ 地域活動の場で』



『ク 社会全体として』



過去3年間の経年推移をみると、『地域活動の場で』では「平等である」について、平成30年度(44.1%)から令和元年度(48.9%)にかけて4.8ポイント高くなり、令和2年度(47.3%)は令和元年度と同程度になっている。

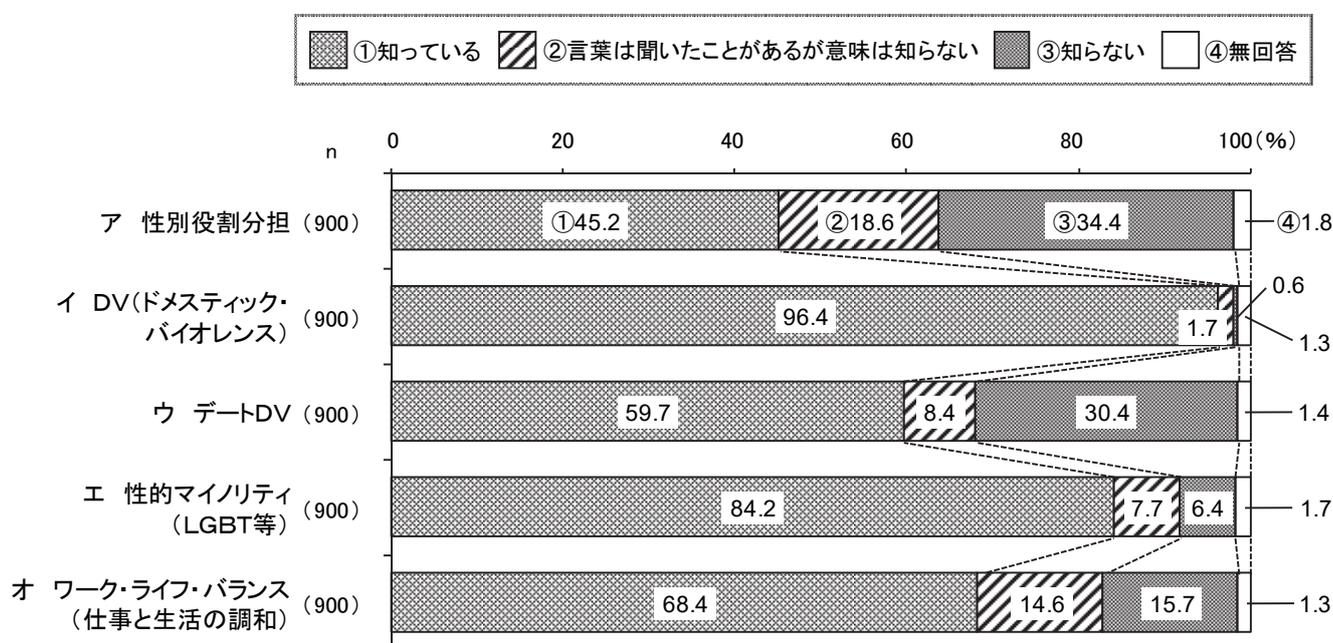
『社会全体として』では《男性優遇》の割合が年々高くなっている。(図3-1-13)

（2）男女共同参画に関する言葉について

◎「知っている」と思う方が多いのは『DV（ドメスティック・バイオレンス）』で9割台半ばを超え、『性的マイノリティ（LGBT等）』が8割台半ば近く

問15 男女共同参画に関する以下の言葉についてご存じですか。 (ア～オそれぞれで、1～3に1つだけ○をつけてください)				
(n=900)				
	知っている	言葉は聞いたことがあるが意味は知らない	知らない	無回答
ア 性別役割分担	45.2%	18.6%	34.4%	1.8%
イ DV（ドメスティック・バイオレンス）	96.4	1.7	0.6	1.3
ウ デートDV	59.7	8.4	30.4	1.4
エ 性的マイノリティ（LGBT等）	84.2	7.7	6.4	1.7
オ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	68.4	14.6	15.7	1.3

図3-2 男女共同参画に関する言葉について



男女共同参画に関する言葉について、「知っている」は『DV（ドメスティック・バイオレンス）』（96.4%）が9割台半ばを超えて最も高く、次いで『性的マイノリティ（LGBT等）』（84.2%）が8割台半ば近くとなっている。一方、「知らない」は『性別役割分担』（34.4%）が3割台半ば近く、『デートDV』（30.4%）が約3割となっている。（図3-2）

(3) 仕事と生活のバランスの満足度

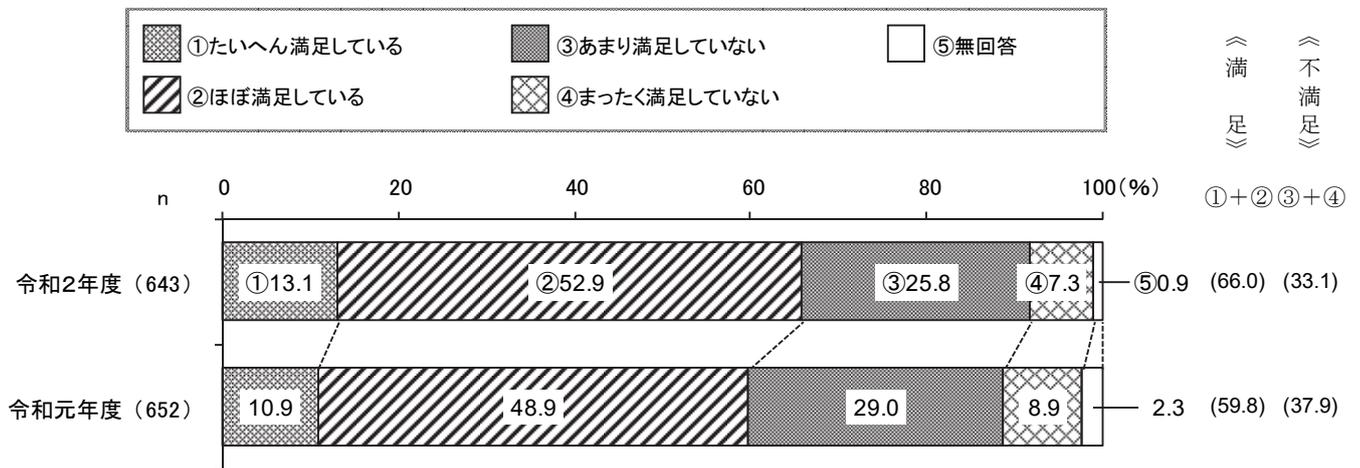
◎現在の仕事と生活のバランスに《満足》が6割台半ばを超え

問16 働いているすべての方にお伺いします。

あなたは、現在の仕事と生活のバランスに満足していますか。(〇は1つ)

	(n=643)
1 たいへん満足している	13.1%
2 ほぼ満足している	52.9
3 あまり満足していない	25.8
4 まったく満足していない	7.3
無回答	0.9

図3-3 仕事と生活のバランスの満足度
(経年推移)



仕事と生活のバランスの満足度について、《満足》(「たいへん満足している」+「ほぼ満足している」)(66.0%)が6割台半ばを超え、《不満足》(「あまり満足していない」+「まったく満足していない」)(33.1%)が3割台半ば近くとなっている。

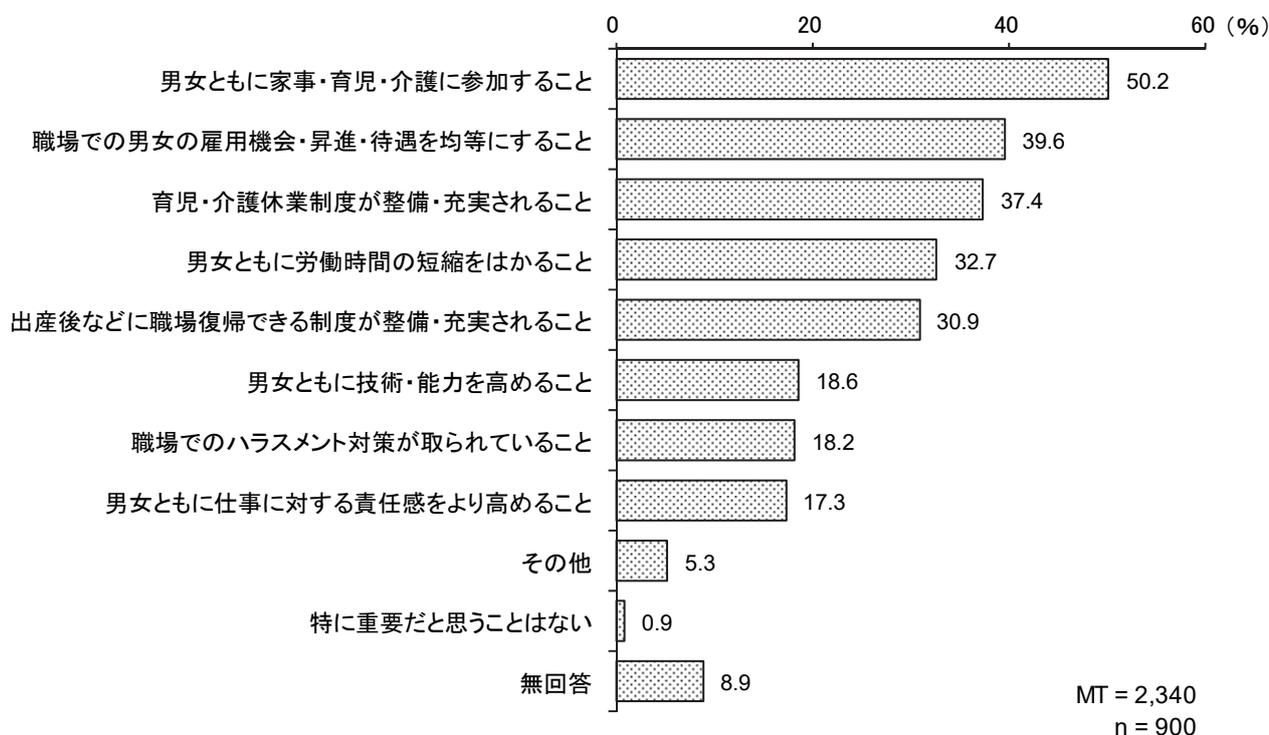
前回の調査結果(令和元年度区政モニターアンケート調査)と比較すると、《満足》(66.0%)が前回(59.8%)より6.2ポイント高くなっている。(図3-3)

（４）男女とも働きやすい環境づくりについて

◎「男女ともに家事・育児・介護に参加すること」が約5割

問17 男女とも働きやすい環境をつくるためには、どのようなことが重要だと思いますか。 (あてはまるものに3つまで○をつけてください)		(n=900)
1	男女ともに労働時間の短縮をはかること	32.7%
2	男女ともに家事・育児・介護に参加すること	50.2
3	男女ともに仕事に対する責任感をより高めること	17.3
4	男女ともに技術・能力を高めること	18.6
5	職場での男女の雇用機会・昇進・待遇を均等にすること	39.6
6	職場でのハラスメント対策が取られていること	18.2
7	出産後などに職場復帰できる制度が整備・充実されること	30.9
8	育児・介護休業制度が整備・充実されること	37.4
9	その他	5.3
10	特に重要だと思うことはない	0.9
	無回答	8.9

図3-4 男女とも働きやすい環境づくりについて



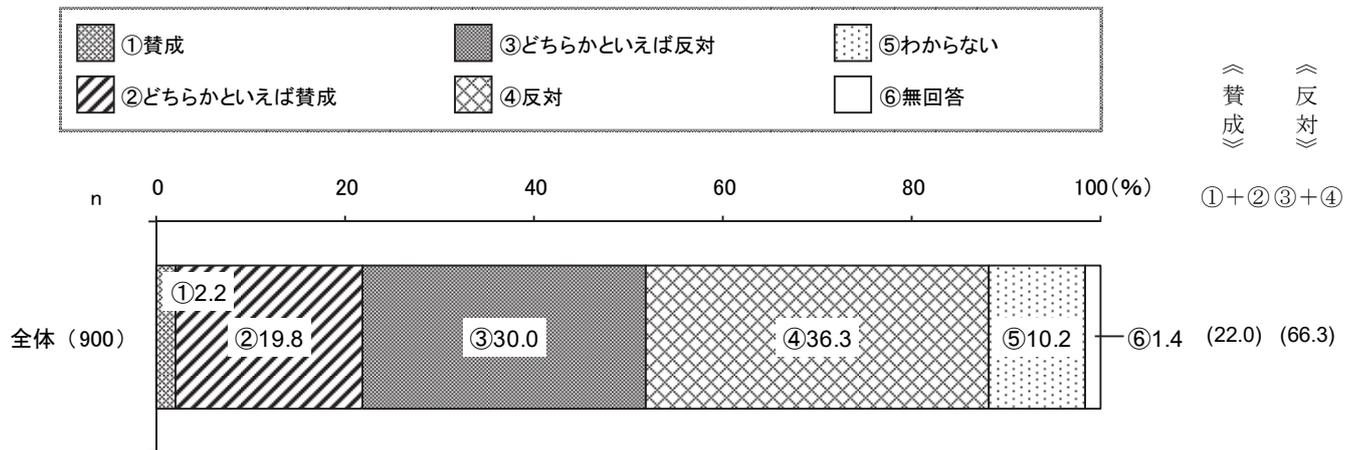
男女とも働きやすい環境づくりについて、「男女ともに家事・育児・介護に参加すること」(50.2%)が約5割で最も高く、次いで「職場での男女の雇用機会・昇進・待遇を均等にすること」(39.6%)が4割弱、「育児・介護休業制度が整備・充実されること」(37.4%)が3割台半ばを超えと続いている。(図3-4)

(5) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について

◎《賛成》が2割強、《反対》が6割台半ばを超え

問18 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という固定的な性別役割分担の考え方について、あなたの考えに近いものは、次のうちどれですか。(○は1つ)		(n=900)
1	賛成	2.2%
2	どちらかといえば賛成	19.8
3	どちらかといえば反対	30.0
4	反対	36.3
5	わからない	10.2
	無回答	1.4

図3-5-1 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について

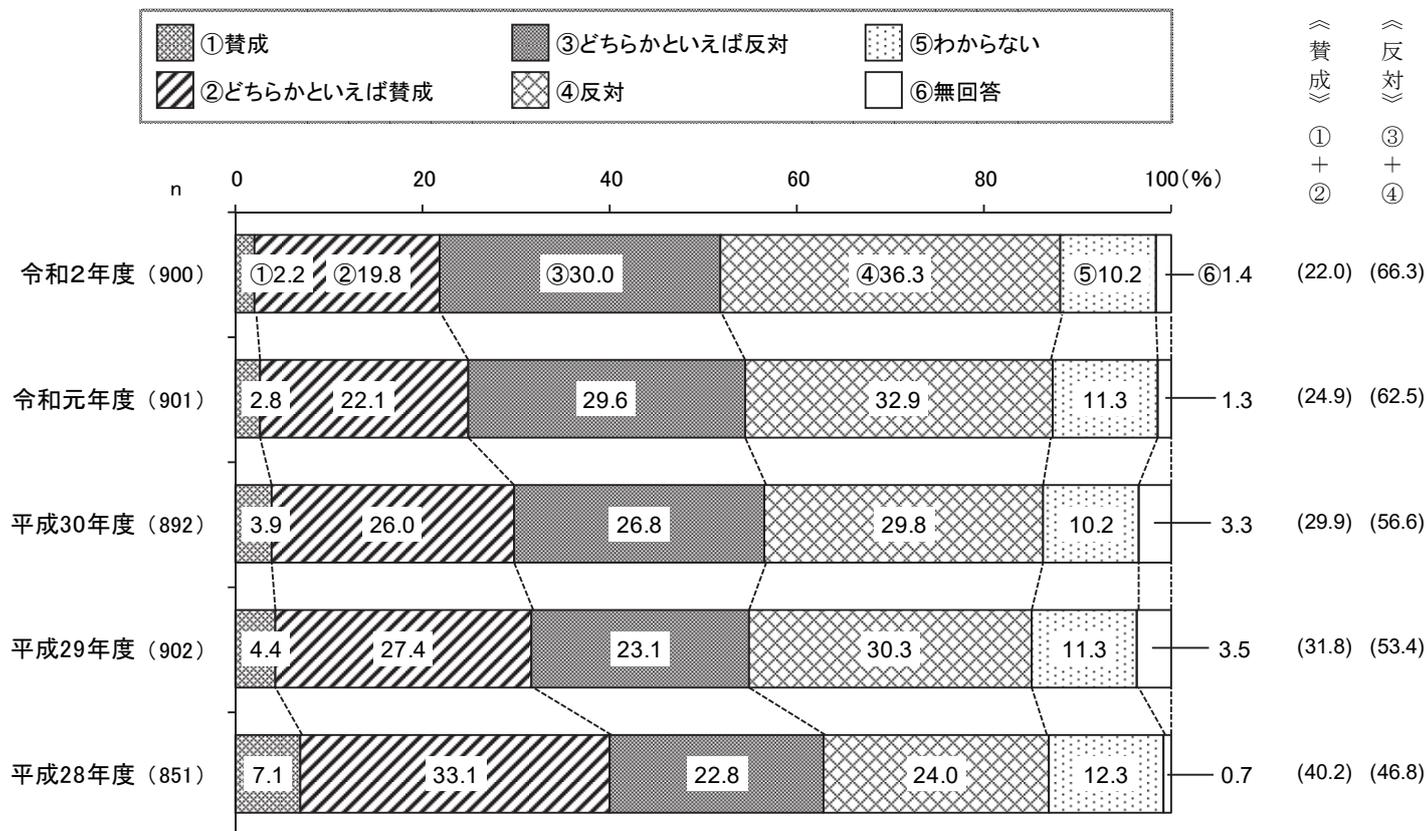


「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、「反対」(36.3%)が3割台半ばを超えて最も高く、次いで「どちらかといえば反対」(30.0%)が3割となっている。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に、《賛成》(「賛成」+「どちらかといえば賛成」)(22.0%)が2割強、《反対》(「反対」+「どちらかといえば反対」)(66.3%)が6割台半ばを超えとなっている。(図3-5-1)

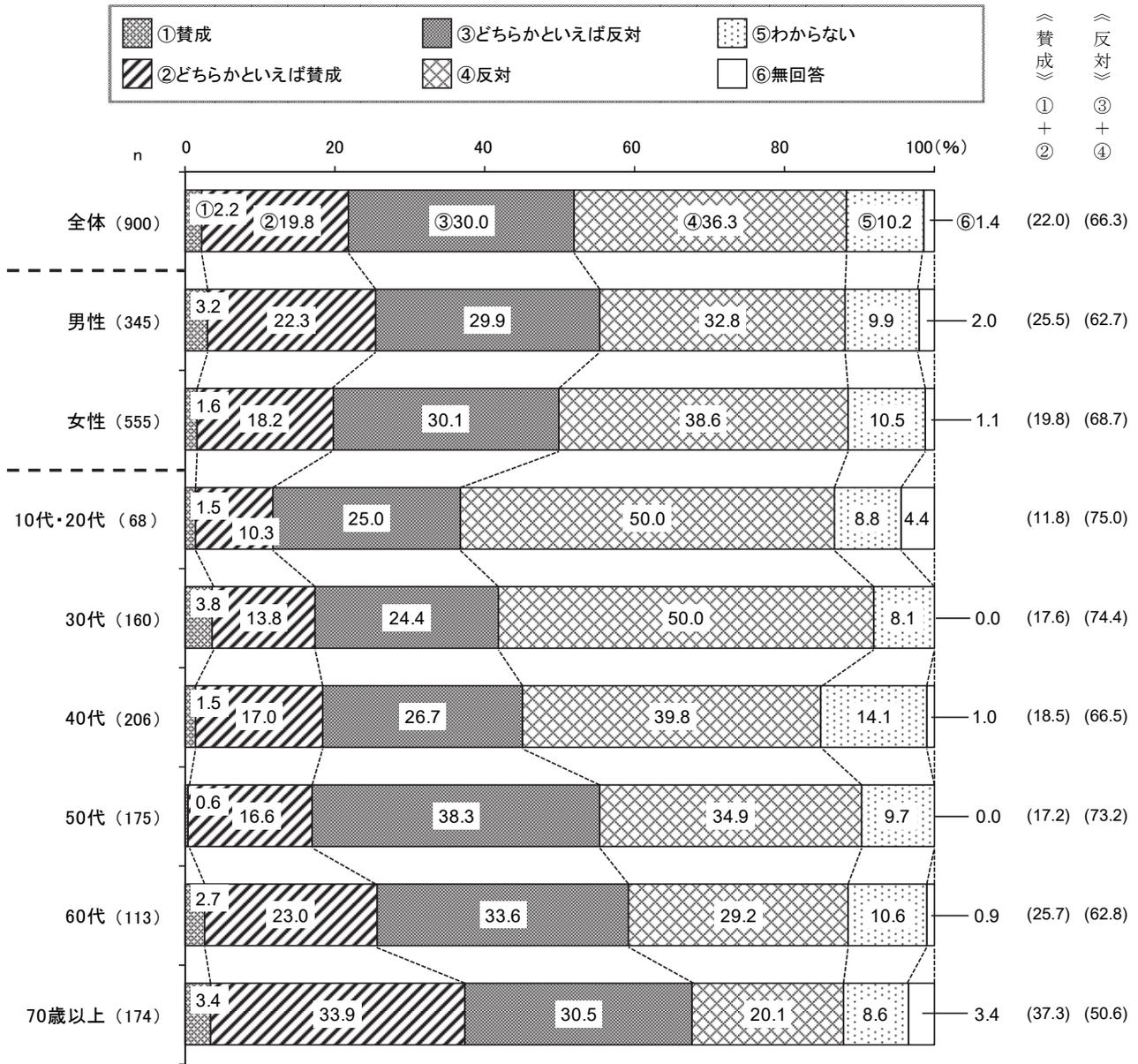
Ⅱ 調査の結果（テーマ3 男女共同参画に関する意識について）

図3-5-2 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について
（経年推移）



過去5年間の経年推移をみると、《賛成》の割合が年々低くなり、《反対》の割合が年々高くなっている。（図3-5-2）

図3-5-3 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について
(性別・年代別)



性別で見ると、《反対》は、女性（68.7%）が7割近くと、男性（62.7%）を6.0ポイント上回っている。

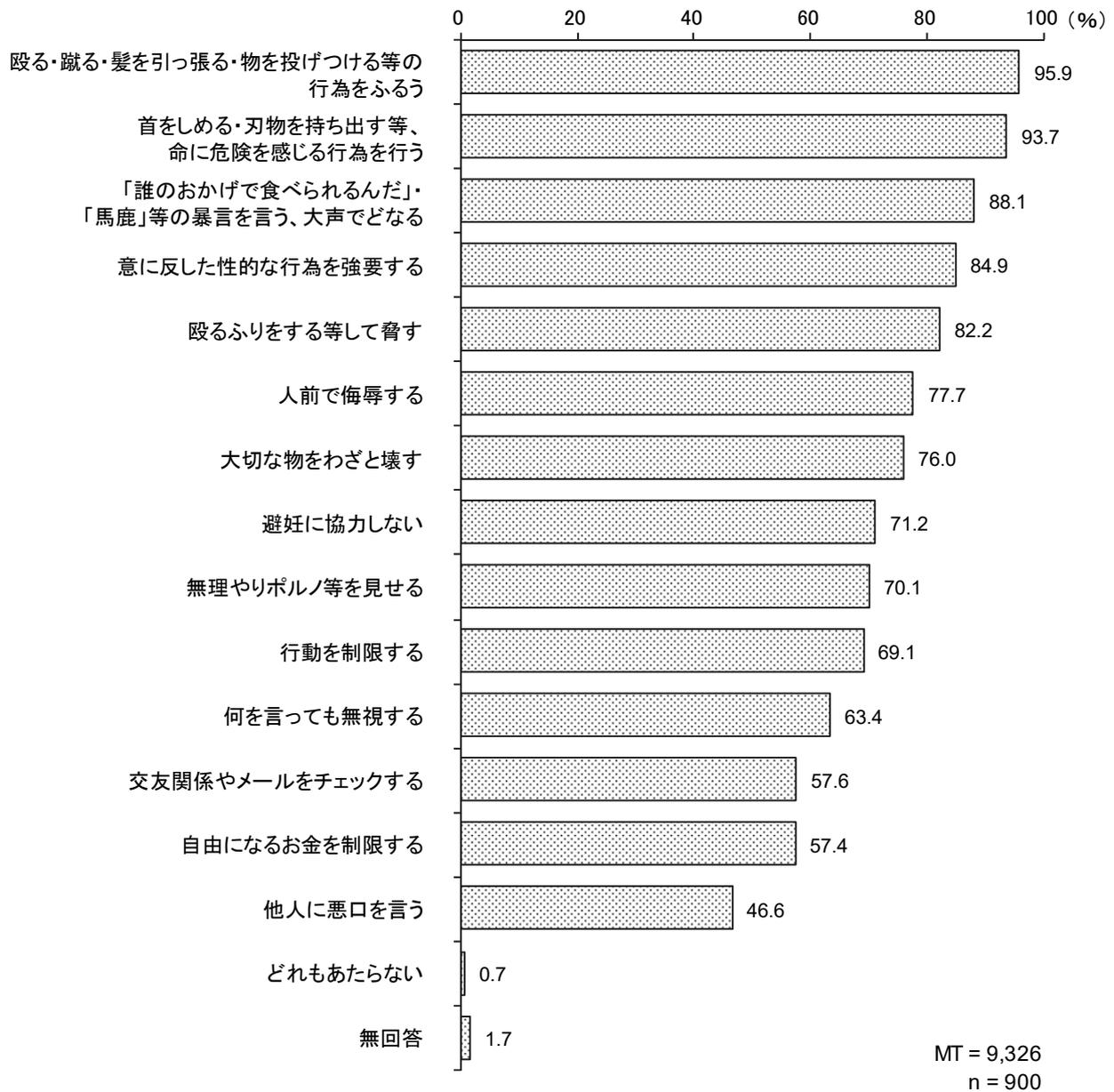
年代別で見ると、《賛成》は70歳以上（37.3%）が3割台半ばを超えて高くなっており、全体（22.0%）を15.3ポイント上回っている。（図3-5-3）

（6）DVだと思ふ行為について

◎「殴る・蹴る・髪を引っ張る・物を投げつける等の行為をふるう」が9割台半ば、「首をしめる・刃物を持ち出す等、命に危険を感じる行為を行う」が9割台半ば近く

問19 ドメスティック・バイオレンス（配偶者等からの暴力。以下、「DV」という）について、DVだと思ふ行為は次のうちどれですか。 （あてはまるものにいくつでも○をつけてください）		(n=900)
1	何を言っても無視する	63.4%
2	行動を制限する	69.1
3	交友関係やメールをチェックする	57.6
4	「誰のおかげで食べられるんだ」・「馬鹿」等の暴言を言う、大声でどなる	88.1
5	人前で侮辱する	77.7
6	他人に悪口を言う	46.6
7	大切な物をわざと壊す	76.0
8	殴るふりをする等して脅す	82.2
9	殴る・蹴る・髪を引っ張る・物を投げつける等の行為をふるう	95.9
10	首をしめる・刃物を持ち出す等、命に危険を感じる行為を行う	93.7
11	自由になるお金を制限する	57.4
12	意に反した性的な行為を強要する	84.9
13	無理やりポルノ等を見せる	70.1
14	避妊に協力しない	71.2
15	どれもあたらない	0.7
	無回答	1.7

図3-6-1 DVだと思う行為について

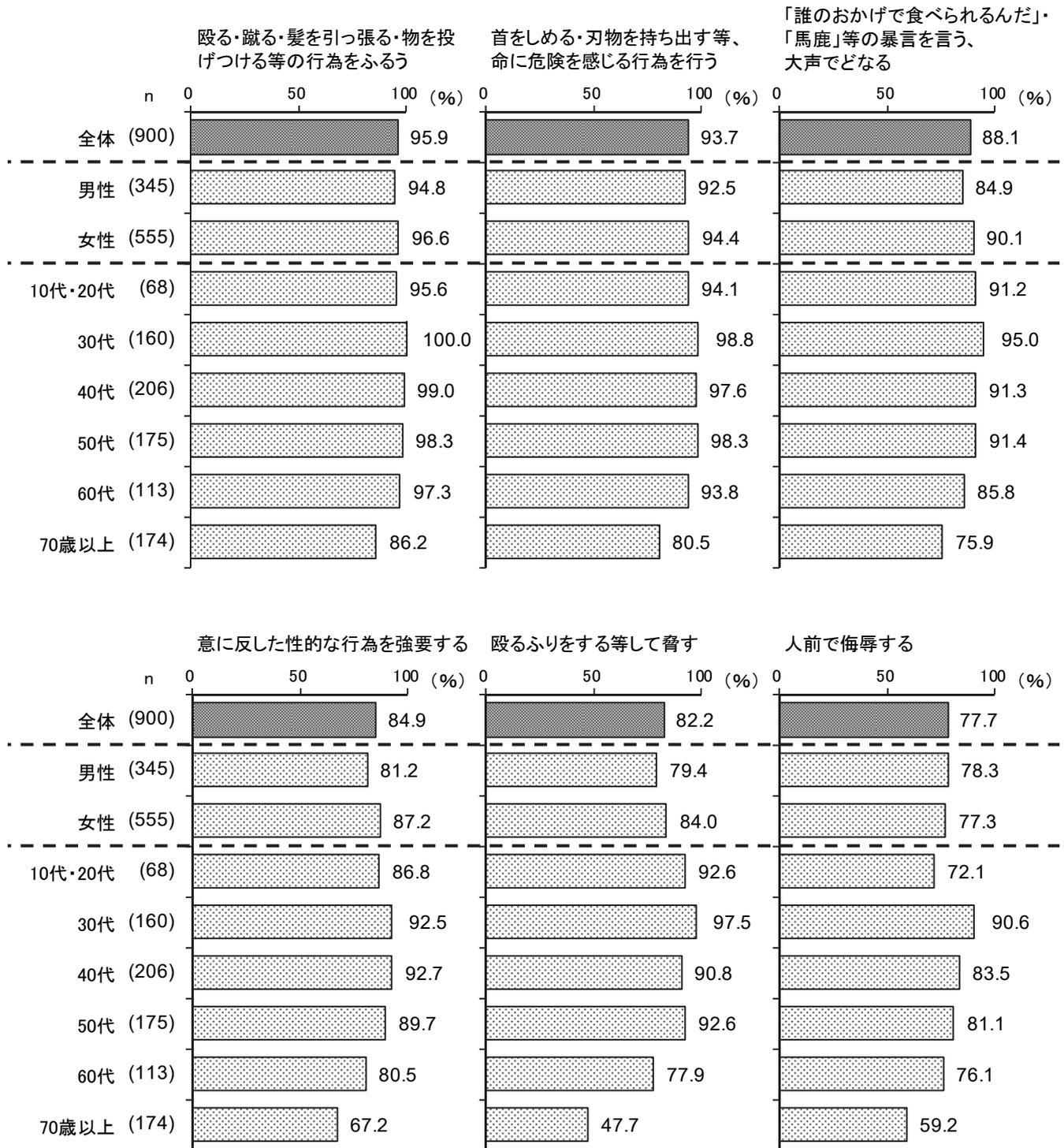


ドメスティック・バイオレンスにあたる行為としては、「殴る・蹴る・髪を引っ張る・物を投げつける等の行為をふるう」(95.9%)が9割台半ばで最も高く、次いで「首をしめる・刃物を持ち出す等、命に危険を感じる行為を行う」(93.7%)が9割台半ば近く、「誰のおかげで食べられるんだ」・「馬鹿」等の暴言を言う、大声でどなる」(88.1%)が9割近く、「意に反した性的な行為を強要する」(84.9%)が8割台半ば近く、「殴るふりをする等して脅す」(82.2%)が8割強と続いている。

全体で最も低い「他人に悪口を言う」(46.6%)は4割台半ばを超えとなっている。

(図3-6-1)

図3-6-2 DVだと思う行為について
（性別・年代別）上位6項目



上位6項目について、性別でみると、「意に反した性的な行為を強要する」は女性（87.2%）が8割台半ばを超え、男性（81.2%）を6.0ポイント上回っている。

年代別でみると、すべての項目で70歳以上が最も低い割合となっており、「殴る・蹴る・髪を引っ張る・物を投げつける等の行為をふるう」では30代（100.0%）が10割となっている。

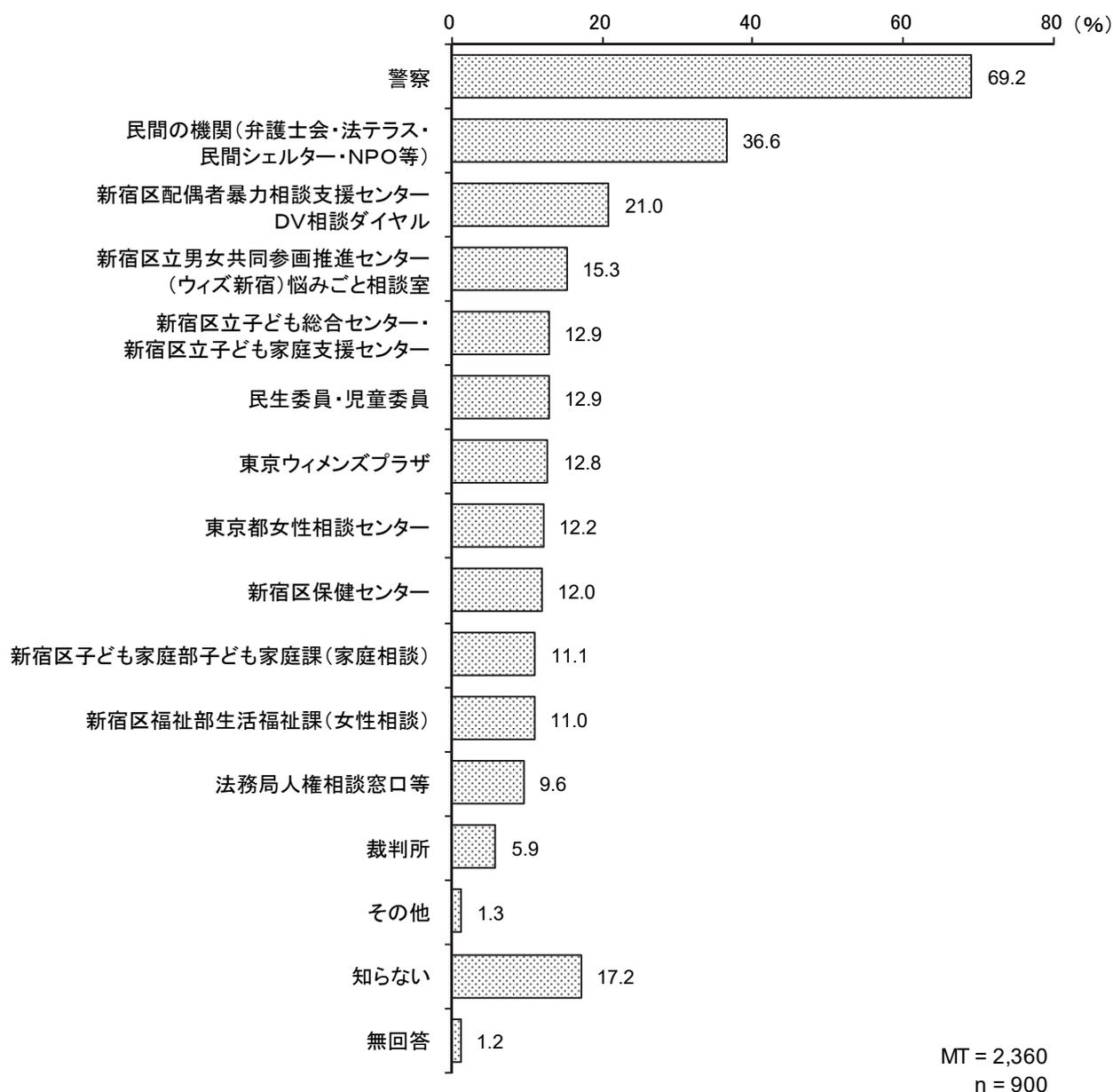
（図3-6-2）

(7) DVについての相談機関の窓口について

◎「警察」が7割弱

問20 DVについての相談機関の窓口をご存じですか。		(n=900)
(あてはまるものにいくつでも○をつけてください)		
1	新宿区配偶者暴力相談支援センター DV相談ダイヤル	21.0%
2	新宿区立男女共同参画推進センター(ウィズ新宿) 悩みごと相談室	15.3
3	新宿区福祉部生活福祉課(女性相談)	11.0
4	新宿区子ども家庭部子ども家庭課(家庭相談)	11.1
5	新宿区立子ども総合センター・新宿区立子ども家庭支援センター	12.9
6	新宿区保健センター	12.0
7	東京都女性相談センター	12.2
8	東京ウィメンズプラザ	12.8
9	警察	69.2
10	法務局人権相談窓口等	9.6
11	裁判所	5.9
12	民間の機関(弁護士会・法テラス・民間シェルター・NPO等)	36.6
13	民生委員・児童委員	12.9
14	その他	1.3
15	知らない	17.2
	無回答	1.2

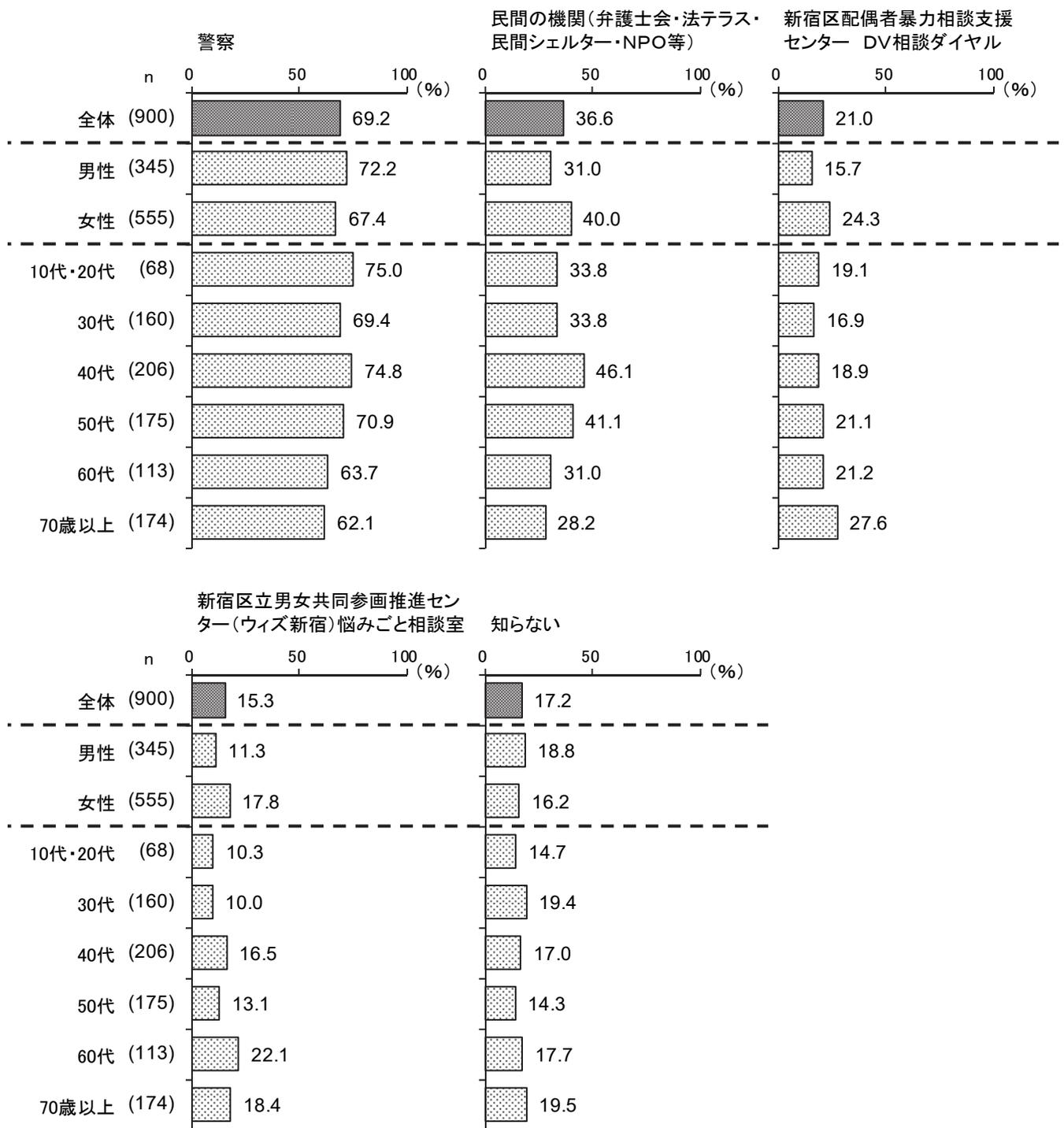
図3-7-1 DVについての相談機関の窓口について



DVについての相談機関の窓口について、「警察」(69.2%)が7割弱で最も高くなっている。次いで「民間の機関(弁護士会・法テラス・民間シェルター・NPO等)」(36.6%)が3割台半ばを超え、「新宿区配偶者暴力相談支援センター DV相談ダイヤル」(21.0%)が2割強、「新宿区立男女共同参画推進センター(ウィズ新宿)悩みごと相談室」(15.3%)が1割台半ばとなっている。

一方、「知らない」(17.2%)が1割台半ばを超えとなっている。(図3-7-1)

図3-7-2 DVについての相談機関の窓口について
(性別・年代別) 上位4項目+「知らない」



上位4項目と「知らない」について、性別でみると、「民間の機関（弁護士会・法テラス・民間シェルター・NPO等）」は女性（40.0%）が4割と、男性（31.0%）を9.0ポイント上回っている。

年代別でみると、「民間の機関（弁護士会・法テラス・民間シェルター・NPO等）」は40代（46.1%）が4割台半ばを超えて高くなっており、全体（36.6%）を9.5ポイント上回っている。

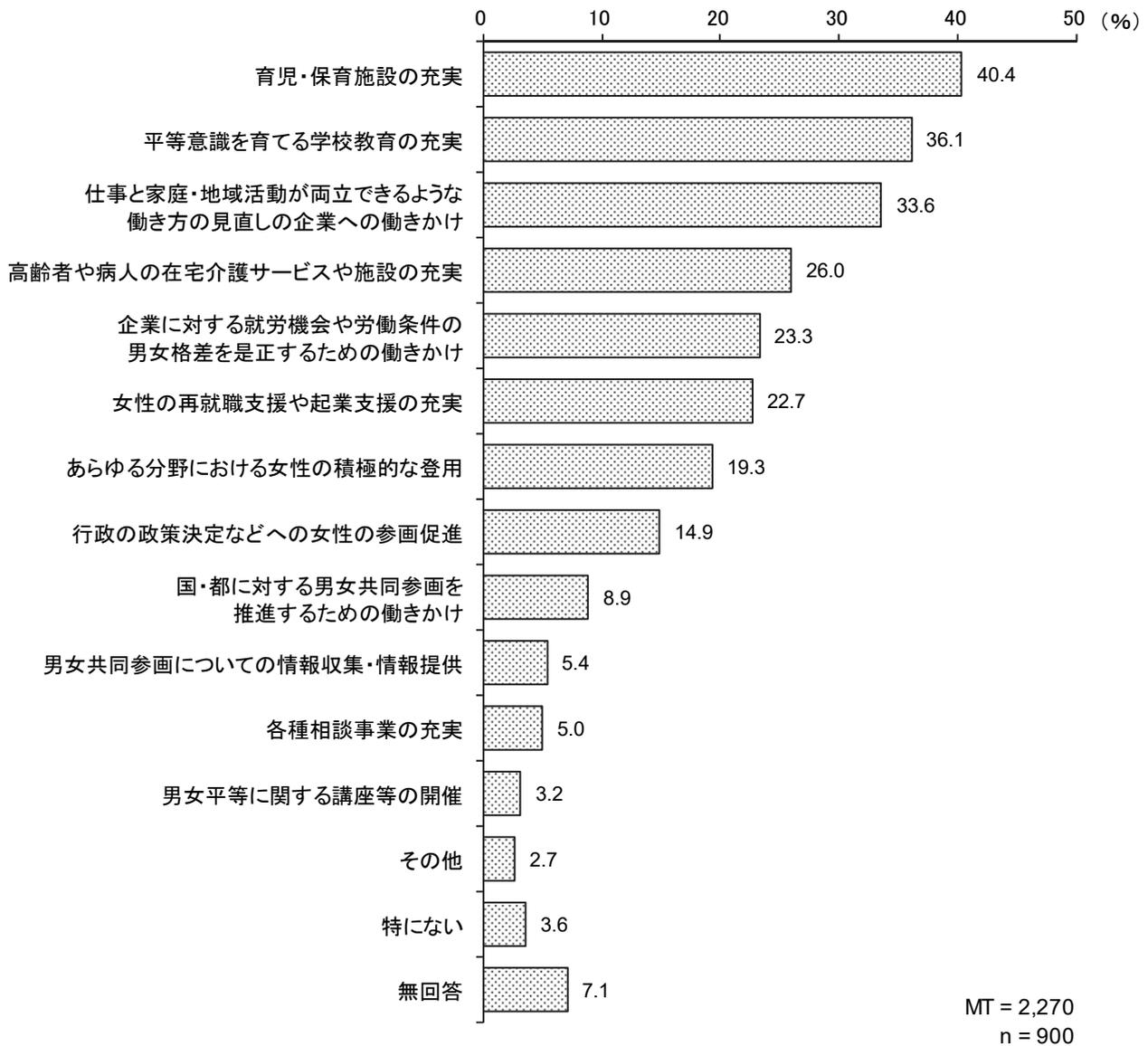
(図3-7-2)

（8）男女共同参画を推進するために必要なことについて

◎「育児・保育施設の充実」が約4割、「平等意識を育てる学校教育の充実」が3割台半ばを超え

問2 1 今後、男女共同参画を進めるために、区にどのようなことを期待しますか。 (あてはまるものに3つまで○をつけてください)		(n=900)
1	平等意識を育てる学校教育の充実	36.1%
2	男女平等に関する講座等の開催	3.2
3	女性の再就職支援や起業支援の充実	22.7
4	企業に対する就労機会や労働条件の男女格差を是正するための働きかけ	23.3
5	仕事と家庭・地域活動が両立できるような働き方の見直しの企業への働きかけ	33.6
6	育児・保育施設の充実	40.4
7	あらゆる分野における女性の積極的な登用	19.3
8	行政の政策決定などへの女性の参画促進	14.9
9	高齢者や病人の在宅介護サービスや施設の充実	26.0
10	各種相談事業の充実	5.0
11	男女共同参画についての情報収集・情報提供	5.4
12	国・都に対する男女共同参画を推進するための働きかけ	8.9
13	その他	2.7
14	特にない	3.6
	無回答	7.1

図3-8 男女共同参画を推進するために必要なことについて



男女共同参画を推進するために必要なことについて、「育児・保育施設の充実」(40.4%)が約4割で最も高く、次いで「平等意識を育てる学校教育の充実」(36.1%)が3割台半ばを超え、「仕事と家庭・地域活動が両立できるような働き方の見直しの企業への働きかけ」(33.6%)が3割台半ば近くと続いている。(図3-8)

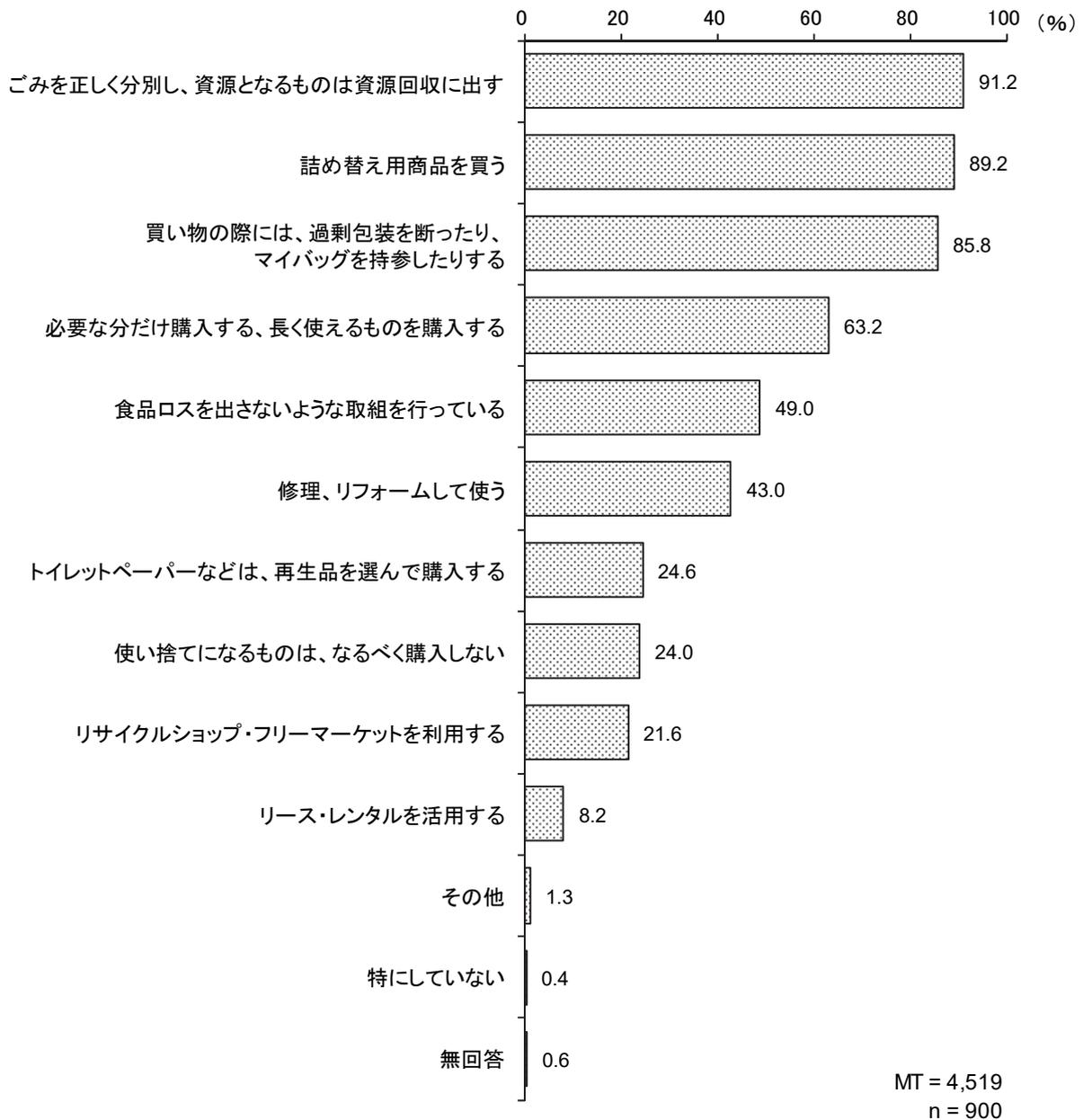
テーマ4 ごみの減量とリサイクルについて

（1）実際に行っている3R活動

◎「ごみを正しく分別し、資源となるものは資源回収に出す」が9割強

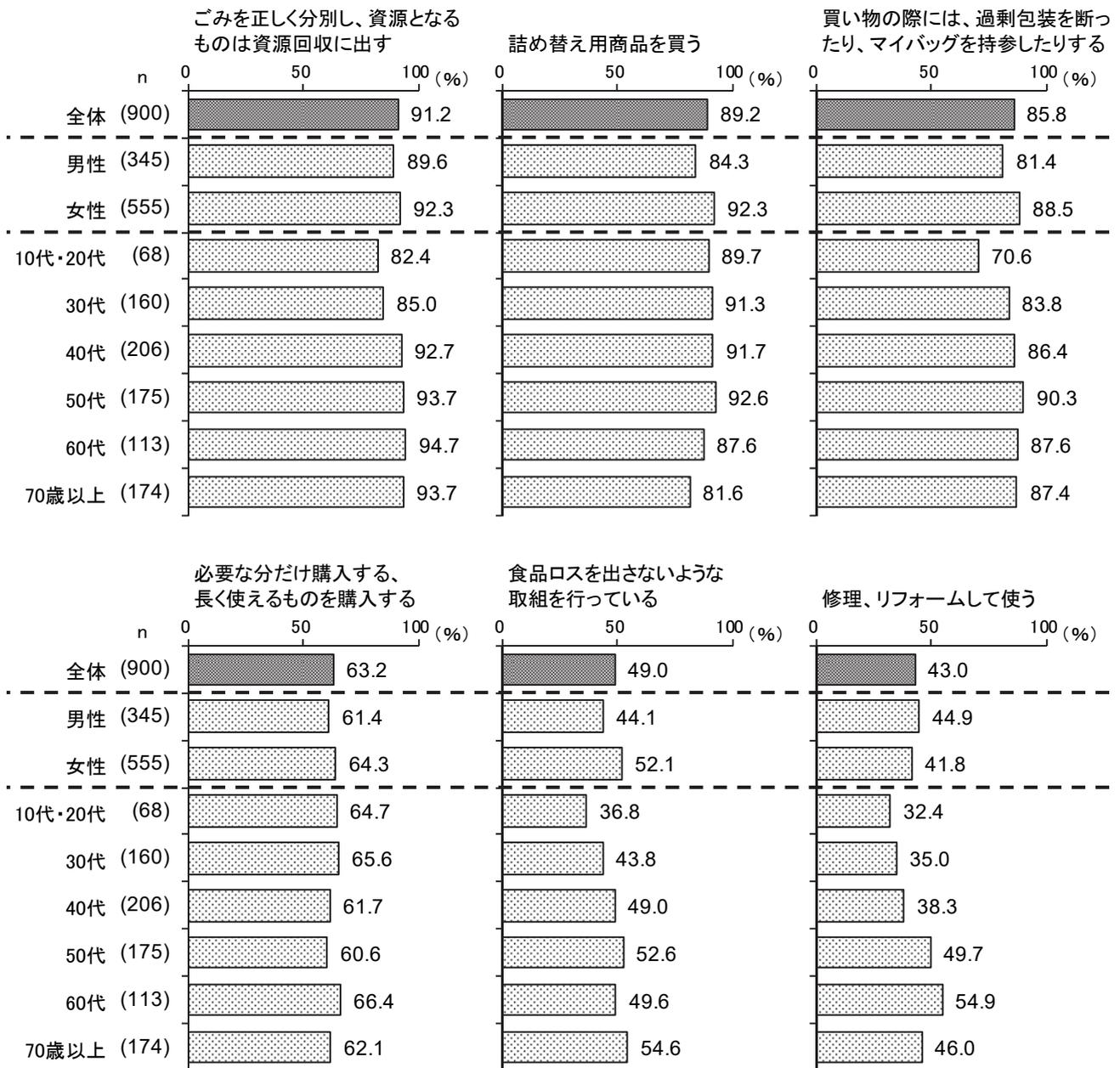
問22 以下の活動（「3R活動」）の中であなたが実際に行っているものはありますか。 （あてはまるものにいくつでも○をつけてください）		(n=900)
【リデュース】		
1	必要な分だけ購入する、長く使えるものを購入する	63.2%
2	買い物の際には、過剰包装を断ったり、マイバッグを持参したりする	85.8
3	食品ロスを出さないような取組を行っている	49.0
4	使い捨てになるものは、なるべく購入しない	24.0
【リユース】		
5	詰め替え用商品を買う	89.2
6	リサイクルショップ・フリーマーケットを利用する	21.6
7	リース・レンタルを活用する	8.2
8	修理、リフォームして使う	43.0
【リサイクル】		
9	ごみを正しく分別し、資源となるものは資源回収に出す	91.2
10	トイレットペーパーなどは、再生品を選んで購入する	24.6
11	その他	1.3
12	特にしていない	0.4
	無回答	0.6

図4-1-1 実際に行っている3R活動



実際に行っている3R活動について、「ごみを正しく分別し、資源となるものは資源回収に出す」(91.2%)が9割強で最も高く、次いで「詰め替え用商品を買う」(89.2%)が9割弱、「買い物の際には、過剰包装を断ったり、マイバッグを持参したりする」(85.8%)が8割台半ばと続いている。(図4-1-1)

図4-1-2 実際に行っている3R活動
（性別・年代別）上位6項目



上位6項目について、性別でみると、「詰め替え用商品を買う」は女性（92.3%）が9割強と、男性（84.3%）を8.0ポイント上回っている。また、「食品ロスを出さないような取組を行っている」は女性（52.1%）が5割強と、男性（44.1%）を8.0ポイント上回っている。

年代別でみると、「買い物の際には、過剰包装を断ったり、マイバッグを持参したりする」は10代・20代（70.6%）が約7割と、全体（85.8%）を15.2ポイント下回っている。

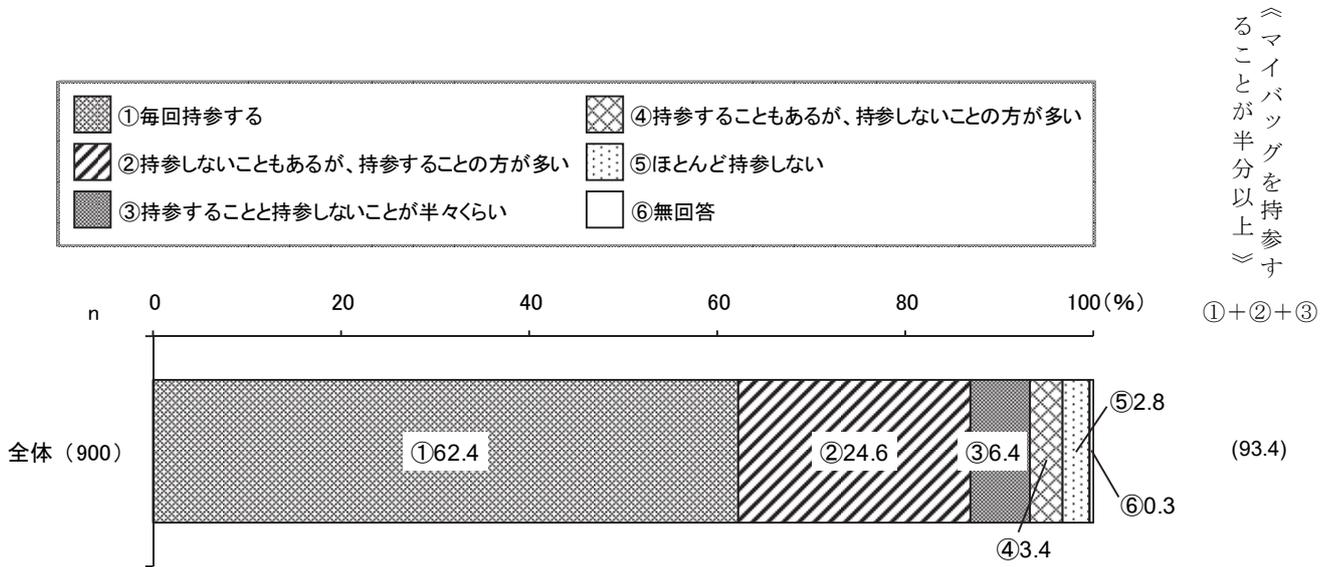
（図4-1-2）

(2) マイバッグの持参の有無

◎「毎回持参する」が6割強

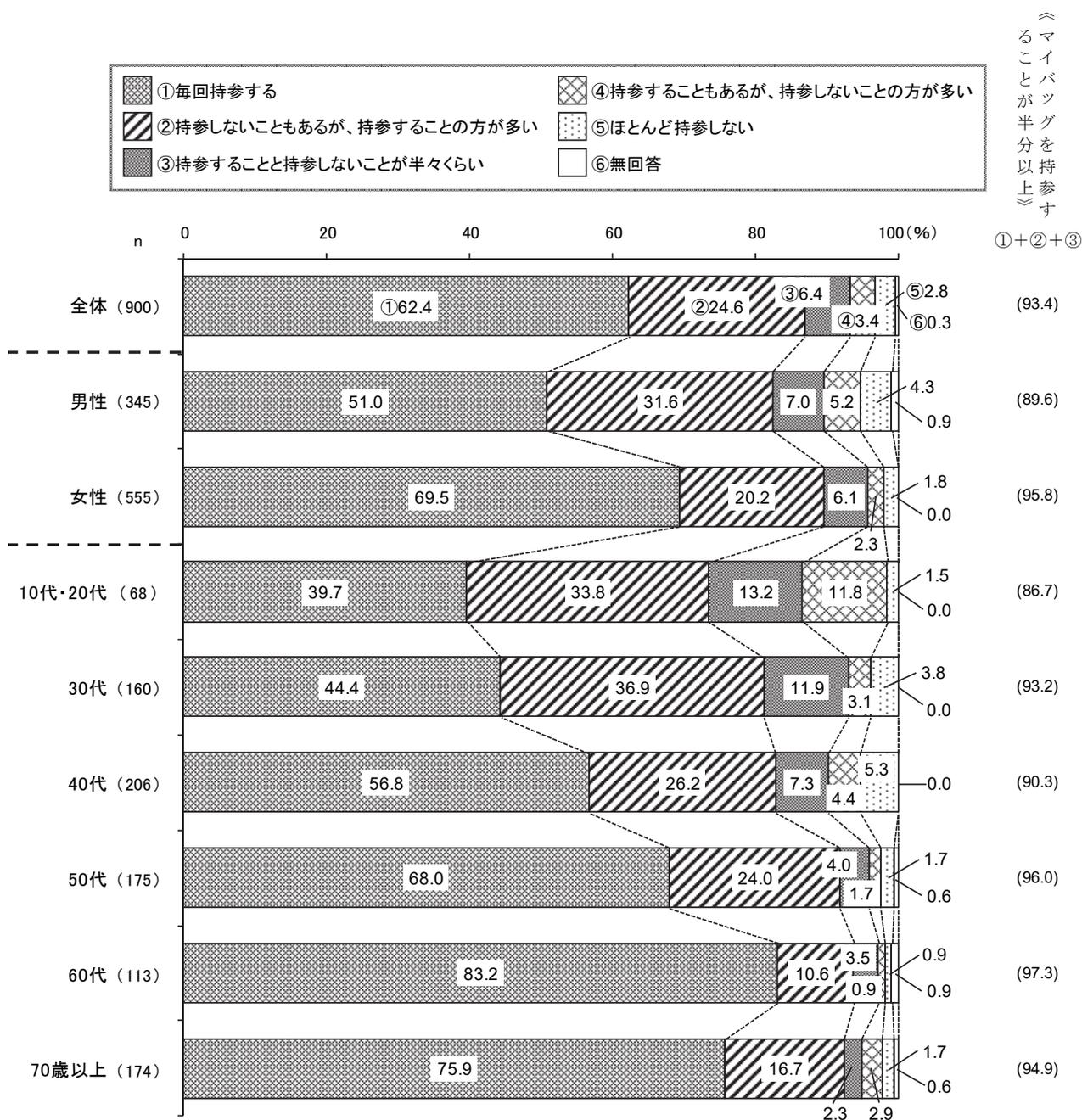
問23 あなたは買い物の際に、マイバッグを持参しますか。(○は1つ)		(n=900)
1	毎回持参する	62.4%
2	持参しないこともあるが、持参することの方が多い	24.6
3	持参することと持参しないことが半々くらい	6.4
4	持参することもあるが、持参しないことの方が多い	3.4
5	ほとんど持参しない	2.8
	無回答	0.3

図4-2-1 マイバッグの持参の有無



マイバッグの持参の有無について、「毎回持参する」(62.4%)が6割強となっている。また、《マイバッグを持参することが半分以上》(「毎回持参する」+「持参しないこともあるが、持参することの方が多い」+「持参することと持参しないことが半々くらい」)(93.4%)が9割台半ば近くとなっている。(図4-2-1)

図4-2-2 マイバッグの持参の有無
(性別・年代別)



性別でみると、「毎回持参する」は女性（69.5%）が7割弱と、男性（51.0%）を18.5ポイント上回っている。一方、「持参しないこともあるが、持参することの方が多い」は男性（31.6%）が3割強と、女性（20.2%）を11.4ポイント上回っている。

年代別でみると、「毎回持参する」は60代（83.2%）が8割台半ば近くと、全体（62.4%）を20.8ポイント上回っている。（図4-2-2）

(3) 食品ロスを減らすために、行っていること

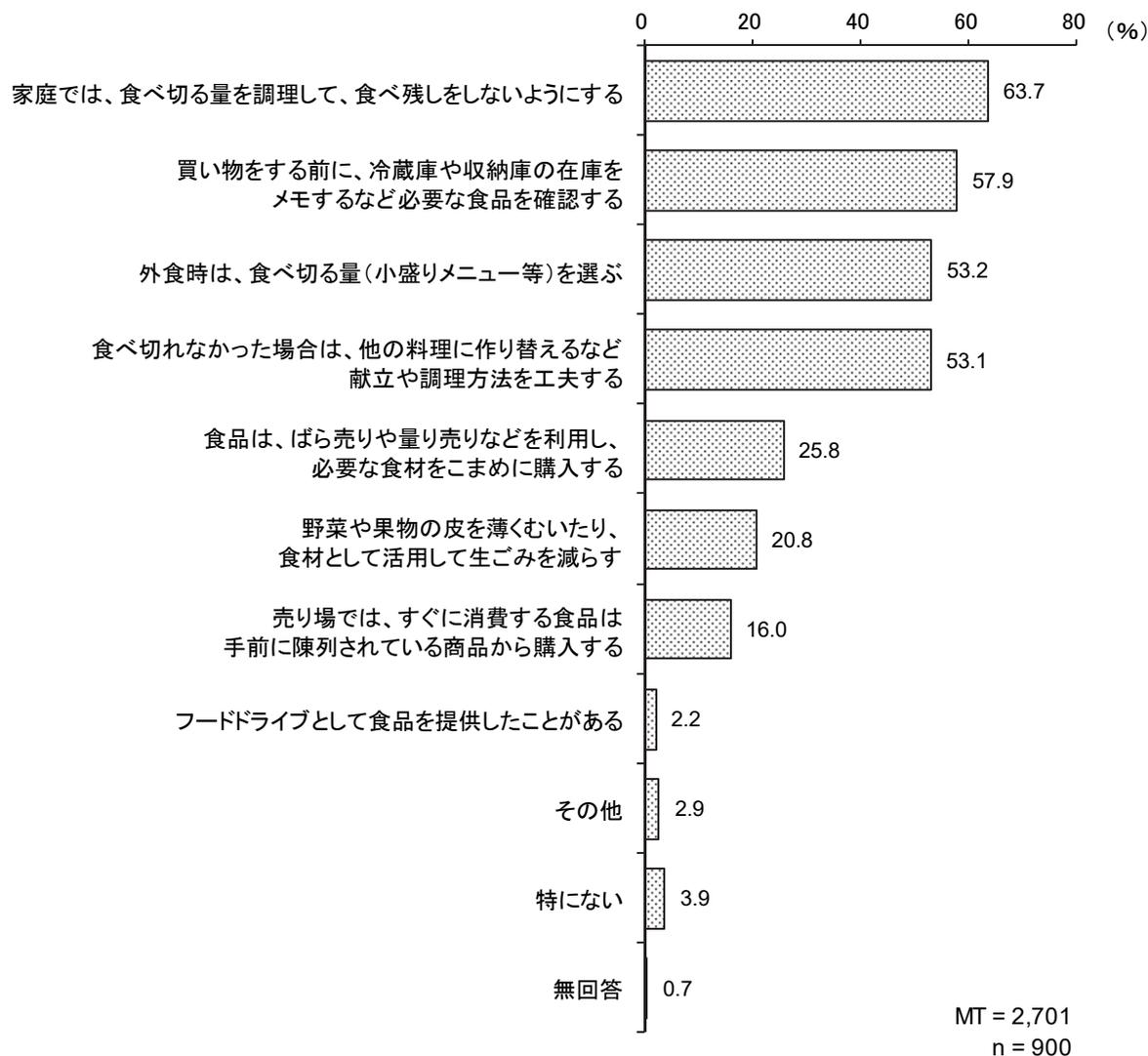
◎「家庭では、食べ切る量を調理して、食べ残しをしないようにする」が6割台半ば近く

問24 食品ロスを減らすために、行っていることはありますか。

(あてはまるものにいくつでも○をつけてください)

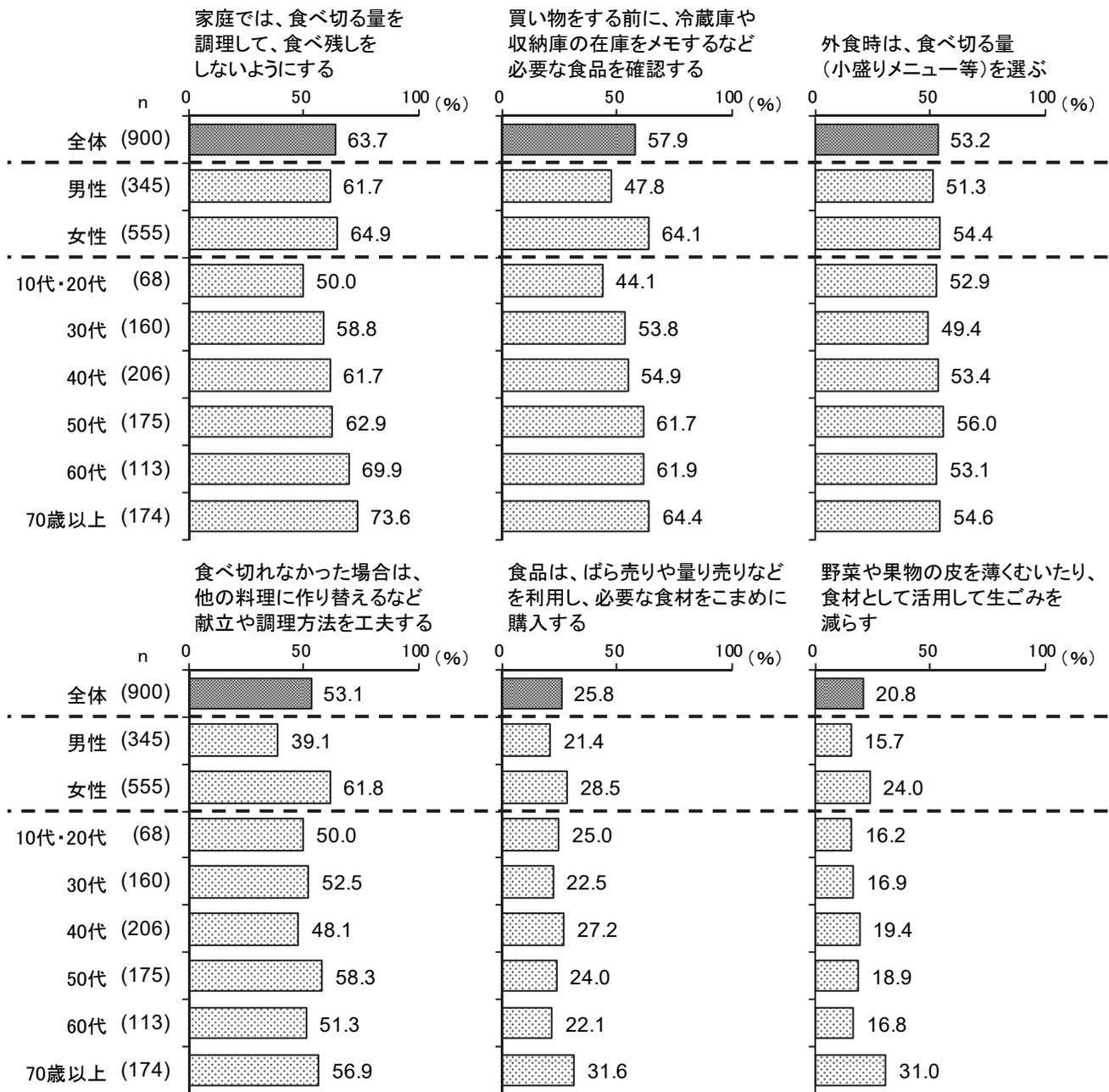
	(n=900)
1 買い物をする前に、冷蔵庫や収納庫の在庫をメモするなど必要な食品を確認する	57.9%
2 売り場では、すぐに消費する食品は手前に陳列されている商品から購入する	16.0
3 食品は、ばら売りや量り売りなどを利用し、必要な食材をこまめに購入する	25.8
4 家庭では、食べ切る量を調理して、食べ残しをしないようにする	63.7
5 野菜や果物の皮を薄くむいたり、食材として活用して生ごみを減らす	20.8
6 食べ切れなかった場合は、他の料理に作り替えるなど献立や調理方法を工夫する	53.1
7 外食時は、食べ切る量(小盛りメニュー等)を選ぶ	53.2
8 フードドライブとして食品を提供したことがある	2.2
9 その他	2.9
10 特になし	3.9
無回答	0.7

図4-3-1 食品ロスを減らすために、行っていること



食品ロスを減らすために、行っていることについて、「家庭では、食べ切る量を調理して、食べ残しをしないようにする」(63.7%)が6割台半ば近くで最も高く、次いで「買い物をする前に、冷蔵庫や収納庫の在庫をメモするなど必要な食品を確認する」(57.9%)が5割台半ばを超え、「外食時は、食べ切る量(小盛りメニュー等)を選ぶ」(53.2%)が5割台半ば近く、「食べ切れなかった場合は、他の料理に作り替えるなど献立や調理方法を工夫する」(53.1%)が5割台半ば近くと続いている。(図4-3-1)

図4-3-2 食品ロスを減らすために、行っていること
(性別・年代別) 上位6項目



上位6項目について、性別で見ると、女性が男性に比べ割合が高く、特に「食べ切れなかった場合は、他の料理に作り替えるなど献立や調理方法を工夫する」は女性(61.8%)が6割強と、男性(39.1%)を22.7ポイント、「買い物をする前に、冷蔵庫や収納庫の在庫をメモするなど必要な食品を確認する」は女性(64.1%)が6割台半ば近くと、男性(47.8%)を16.3ポイント上回っている。

年代別で見ると、「野菜や果物の皮を薄くむいたり、食材として活用して生ごみを減らす」は70歳以上(31.0%)が3割強と、全体(20.8%)を10.2ポイント上回っている。

(図4-3-2)

Ⅱ 調査の結果（テーマ4 ごみの減量とリサイクルについて）

（４）ごみ・資源の出し方

◎『ペットボトル』で「資源（週1回）」が8割弱

問25 新宿区では、古紙（新聞・雑誌・段ボール等）、容器包装プラスチック、びん、缶、ペットボトル、スプレー缶・カセットボンベ、乾電池を「資源・ごみ集積所」で回収しています。また、地域や集合住宅における集団回収のほか、販売店等でも一部の品目を回収しています。あなたは下記の品目をどのように出していますか。

（ア～ケそれぞれで、あてはまるものにもいくつか○をつけてください）

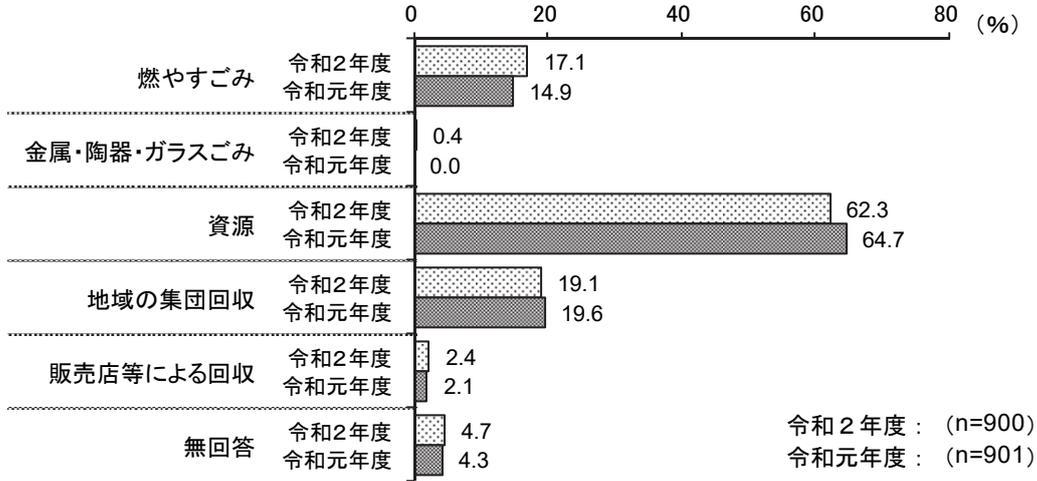
(n=900)

	燃やすごみ (週2回)	金属・陶器・ガラスごみ (月2回)	資源 (週1回)	地域の集団回収	販売店等による回収	無回答
ア 新聞・チラシ	17.1%	0.4%	62.3%	19.1%	2.4%	4.7%
イ 雑誌・段ボール	6.1	0.1	77.2	19.0	0.3	2.6
ウ 雑がみ（菓子箱・包装紙等）	61.1	0.2	29.2	9.7	0.4	3.2
エ 容器包装プラスチック	28.7	1.6	61.6		3.4	7.7
オ びん	0.9	19.1	70.7	9.4	1.0	2.2
カ 缶	0.8	14.9	72.7	10.9	1.6	2.6
キ ペットボトル	3.6	3.3	79.0	9.7	5.9	2.8
ク スプレー缶・カセットボンベ	0.9	37.9	53.3			8.6
ケ 乾電池	1.4	28.1	46.0		17.9	8.4

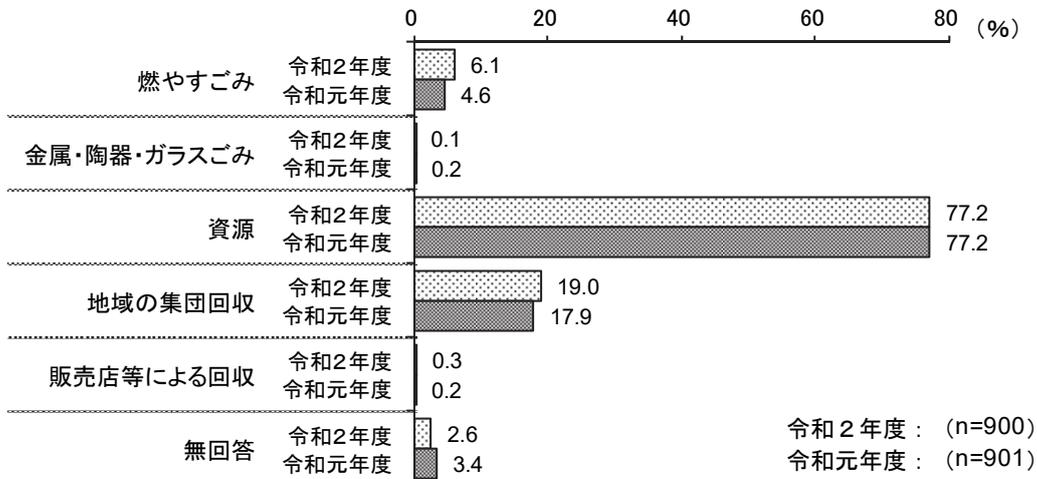
図4-4-1 ごみ・資源の出し方（経年推移）

『(ア) 新聞・チラシ』・『(イ) 雑誌・段ボール』

『(ア) 新聞・チラシ』



『(イ) 雑誌・段ボール』



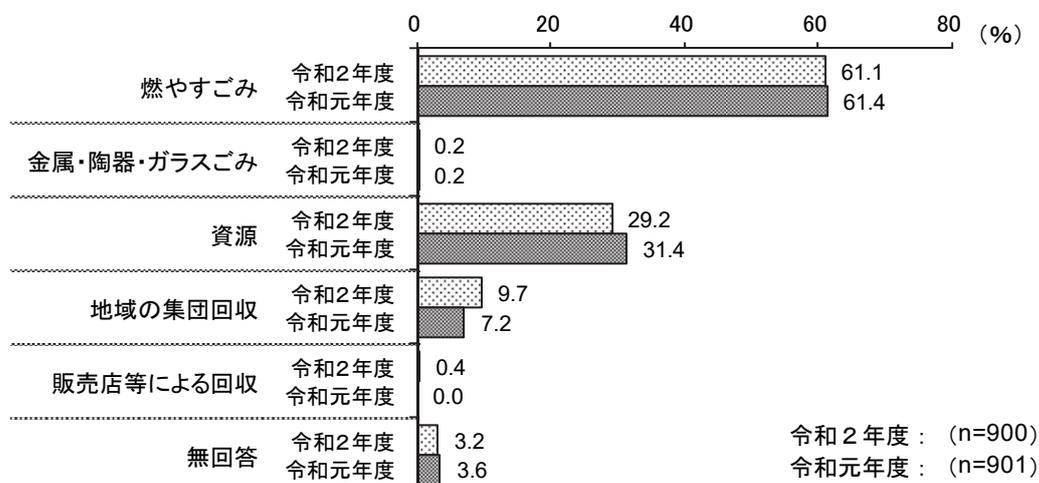
ごみ・資源の出し方についてそれぞれみると、『新聞・チラシ』では、「資源」（62.3%）が6割強で最も高くなっている。前回の調査結果（令和元年度区政モニターアンケート調査）と比較すると、割合に大きな変化はみられない。

『雑誌・段ボール』では、「資源」（77.2%）が7割台半ばを超えて最も高くなっている。前回の調査結果と比較すると、割合に変化はみられない。（図4-4-1）

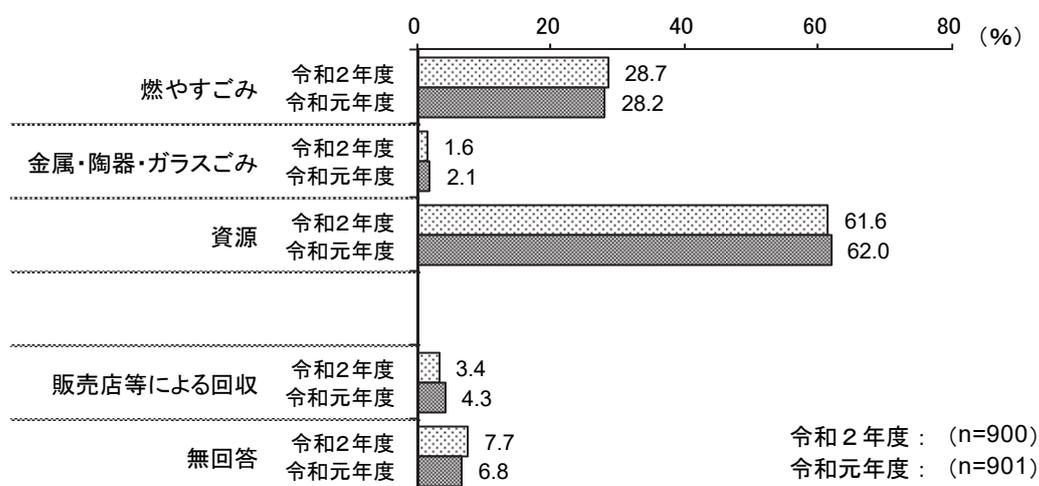
Ⅱ 調査の結果（テーマ4 ごみの減量とリサイクルについて）

図4-4-2 ごみ・資源の出し方（経年推移）
『(ウ) 雑がみ（菓子箱・包装紙等）』・『(エ) 容器包装プラスチック』

『(ウ) 雑がみ（菓子箱・包装紙等）』



『(エ) 容器包装プラスチック』

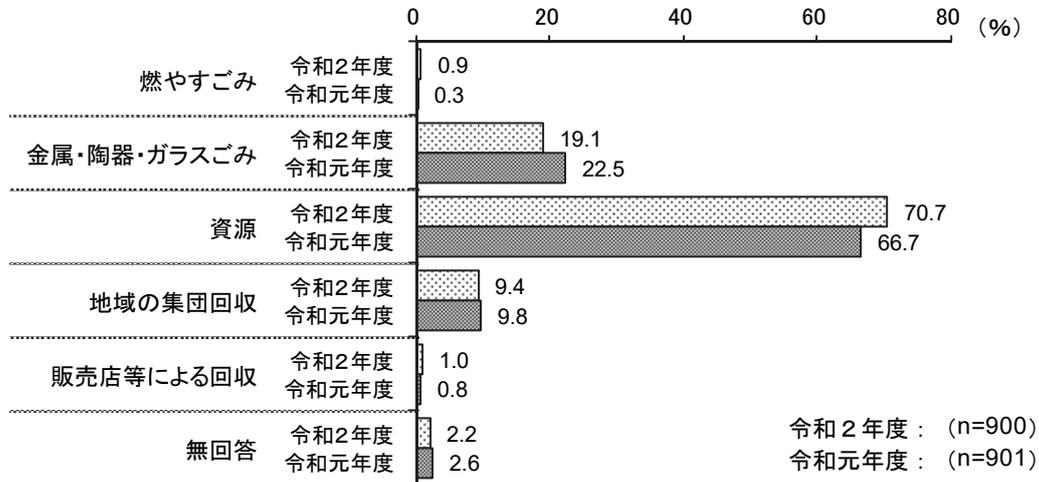


『雑がみ（菓子箱・包装紙等）』では、「燃やすごみ」（61.1%）が6割強で最も高く、次いで「資源」（29.2%）が3割弱と続いている。前回の調査結果と比較すると、割合に変化はみられない。

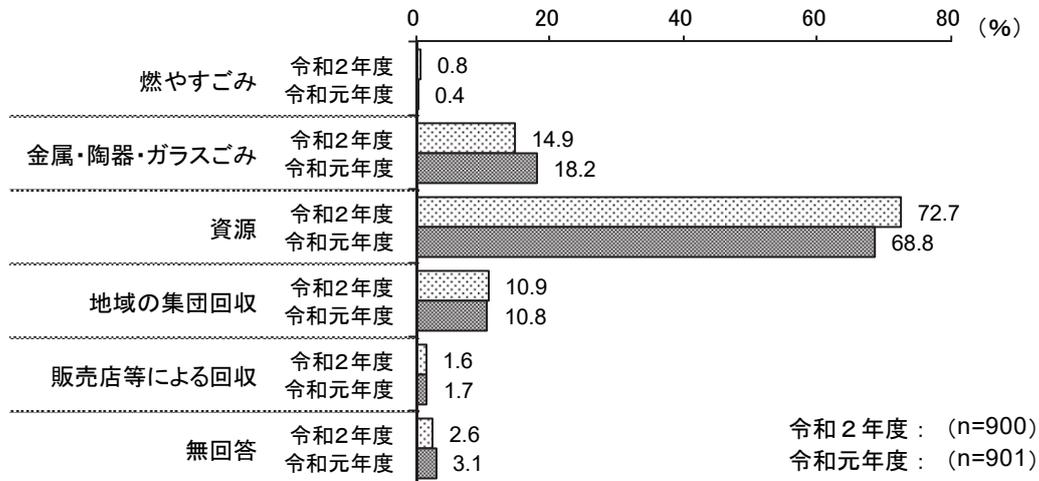
『容器包装プラスチック』では、「資源」（61.6%）が6割強で最も高く、次いで「燃やすごみ」（28.7%）が3割近くと続いている。前回の調査結果と比較すると、割合に大きな変化はみられない。（図4-4-2）

図4-4-3 ごみ・資源の出し方（経年推移）
『(オ)びん』・『(カ)缶』

『(オ)びん』



『(カ)缶』



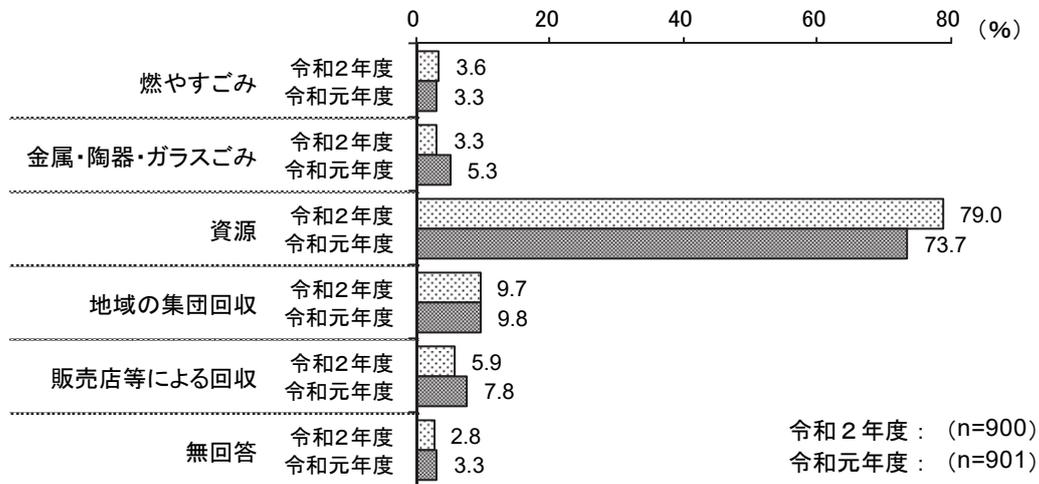
『びん』では、「資源」(70.7%)が約7割で最も高くなっている。次いで「金属・陶器・ガラスごみ」(19.1%)が2割弱となっている。前回の調査結果と比較すると、「資源」(70.7%)が前回(66.7%)から4.0ポイント高くなっている。

『缶』では、「資源」(72.7%)が7割強で最も高くなっている。次いで「金属・陶器・ガラスごみ」(14.9%)が1割台半ば近く、「地域の集団回収」(10.9%)が約1割となっている。前回の調査結果と比較すると、「資源」(72.7%)が前回(68.8%)から3.9ポイント高くなっている。

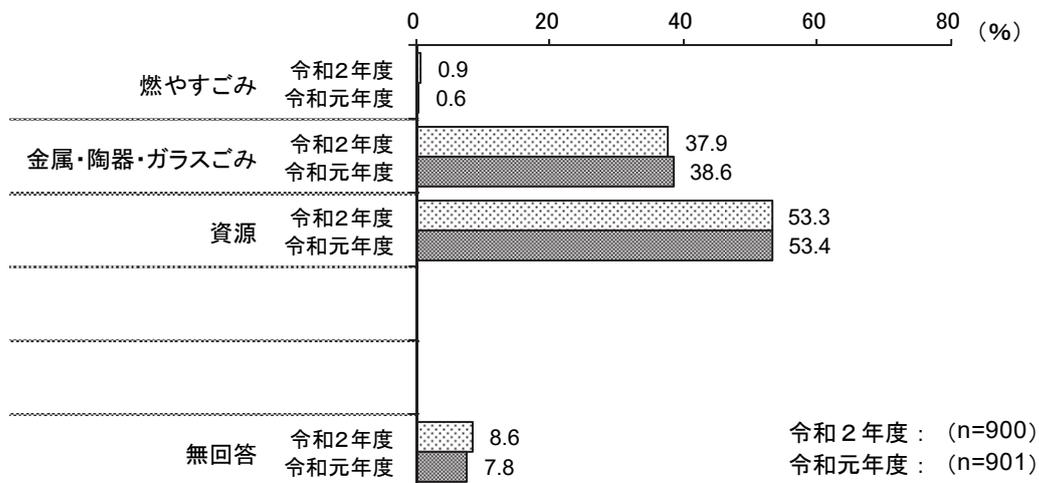
(図4-4-3)

図4-4-4 ごみ・資源の出し方（経年推移）
『(キ) ペットボトル』・『(ク) スプレー缶・カセットボンベ』

『(キ) ペットボトル』



『(ク) スプレー缶・カセットボンベ』

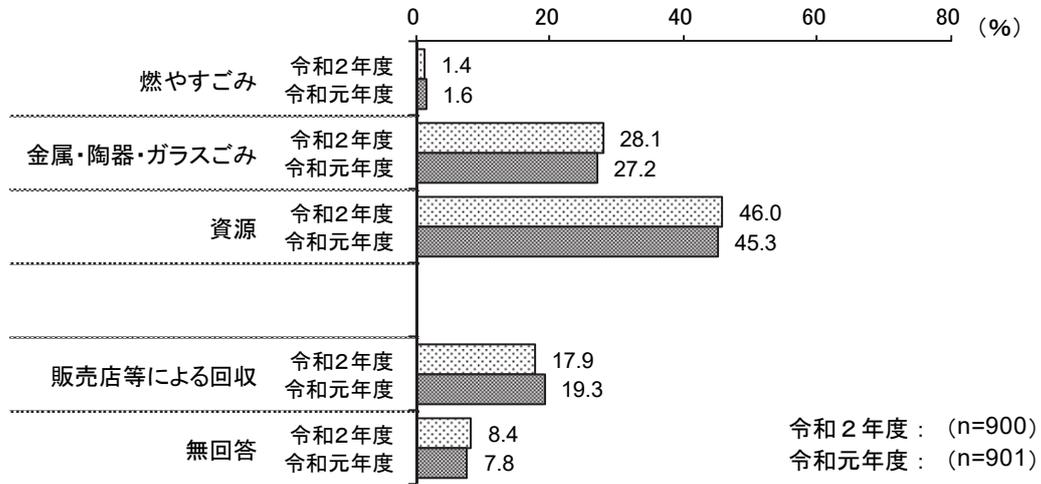


『ペットボトル』では、「資源」(79.0%)が8割弱で最も高くなっている。前回の調査結果と比較すると、「資源」(79.0%)が前回(73.7%)から5.3ポイント高くなっている。

『スプレー缶・カセットボンベ』では、「資源」(53.3%)が5割台半ば近くで最も高く、次いで「金属・陶器・ガラスごみ」(37.9%)が3割台半ばを超えとなっている。前回の調査結果と比較すると、割合に大きな変化はみられない。(図4-4-4)

図4-4-5 ごみ・資源の出し方（経年推移）
『(ケ) 乾電池』

『(ケ) 乾電池』



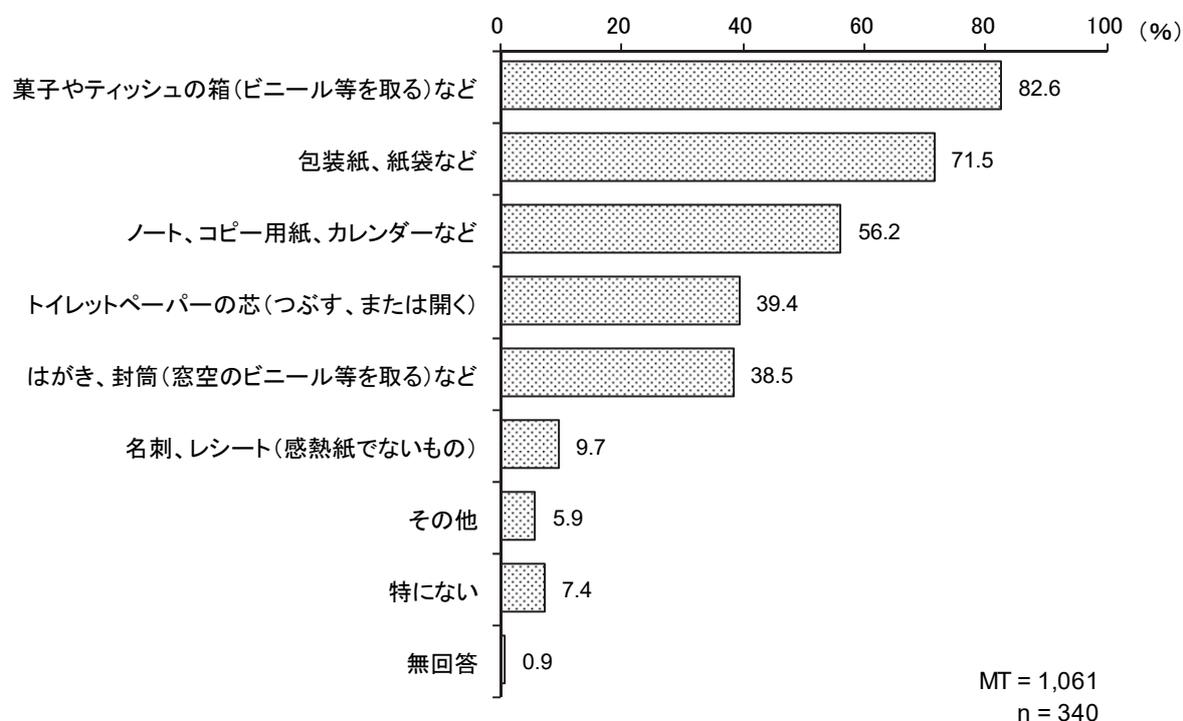
『乾電池』では、「資源」(46.0%)が4割台半ばを超えて最も高く、次いで「金属・陶器・ガラスごみ」(28.1%)が3割近く、「販売店等による回収」(17.9%)が1割台半ばを超えとなっている。前回の調査結果と比較すると、割合に大きな変化はみられない。(図4-4-5)

（5）資源（古紙）の日又は地域の集団回収に出している雑がみ

◎「菓子やティッシュの箱（ビニール等を取る）など」が8割強、「包装紙、紙袋など」が7割強

問25-1	問25の（ウ）雑がみ（菓子箱・包装紙等）で、「3」又は「4」に○をした方にお伺いします。 雑がみのうち、資源（古紙）の日又は地域の集団回収に出しているのはどれですか。（あてはまるものにいくつでも○をつけてください）	(n=340)
1	菓子やティッシュの箱（ビニール等を取る）など	82.6%
2	包装紙、紙袋など	71.5
3	はがき、封筒（窓空のビニール等を取る）など	38.5
4	ノート、コピー用紙、カレンダーなど	56.2
5	トイレトペーパーの芯（つぶす、または開く）	39.4
6	名刺、レシート（感熱紙でないもの）	9.7
7	その他	5.9
8	特にない	7.4
	無回答	0.9

図4-5 資源（古紙）の日又は地域の集団回収に出している雑がみ



資源（古紙）の日又は地域の集団回収に出している雑がみは、「菓子やティッシュの箱（ビニール等を取る）など」（82.6%）が8割強で最も高く、次いで「包装紙、紙袋など」（71.5%）が7割強、「ノート、コピー用紙、カレンダーなど」（56.2%）が5割台半ばを超えと続いている。

（図4-5）

Ⅲ 資料（調査票）

令和2年度 新宿区区政モニターアンケート 第1回

- テーマ1 水害対策について
- テーマ2 震災に備えて
- テーマ3 男女共同参画に関する意識について
- テーマ4 ごみの減量とリサイクルについて

アンケートご記入にあたってのお願い

1. 回答は、**あてはまる番号に○印**をつけてください。設問によって、**1つだけの場合や、あてはまるもの全てに○印をつけていただく場合**などがあります。問いの最後に“(○は1つ)”などと記載してありますので、確認のうえご記入をお願いいたします。
2. **前問の回答によって、次に答える設問が変わる場合があります。**
(例：問1で、「1」に○をした方におたずねします、など)
問いの前文や、回答欄の矢印等の指示に従ってお進みください。
3. 「その他」を選んだ場合には、() 内に具体的な回答をご記入ください。

全てご記入頂けましたら、同封の返信用封筒にて

整理票を取り外さず、

令和2年10月30日（金）までにご返送ください。

※整理票は、ご協力のお礼を発送するために必要なものです。開封後直ちに調査票から切り離しますので、調査票によって個人が特定されることは一切ございません。

問合せ先 新宿区総合政策部 区政情報課 広聴係
電話 03-5273-4065（直通）
FAX 03-5272-5500
E-Mail kuseijoho@city.shinjuku.lg.jp



ご協力くださいますようよろしくお願いいたします。

テーマ1 水害対策について

近年、梅雨期や台風期において、全国各地で記録的な大雨による河川の氾濫や土砂災害が多発し、甚大な被害が発生しています。

区においても、昨年10月の台風第19号では、幸い大きな被害は発生しませんでした。多くの区民の方から「詳細な気象情報の提供」「避難方法」などの要望や問合せをいただきました。

水害から生命・身体を守るためには、日ごろから身の回りの状況やお住まいの地域特性を認識し、気象情報の収集や避難経路の確認、土のうの準備等を行っておくことが重要です。このため、皆様の水害に対する意識等をおたずねし、今後の取組の参考とさせていただきます。

問1 あなたは台風や大雨などの気象情報をどこから入手しますか。

(あてはまるものにもいくつでも○をつけてください)

- 1 テレビ
- 2 ラジオ
- 3 新宿区防災ツイッター
- 4 新宿区公式ホームページ
- 5 新宿区防災気象情報メール
- 6 新宿区の防災行政無線
- 7 気象庁ホームページ
- 8 気象会社の情報提供サービス（防災情報のウェブサイトなど）
- 9 防災に関するスマートフォンアプリ
- 10 ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）
- 11 近隣、地域の人からの呼びかけ
- 12 その他（）
- 13 気象情報は入手していない

問2 区では、「新宿区洪水ハザードマップ（洪水避難地図）」（以下、「洪水ハザードマップ」といいます。）を作成し、危機管理課、道路課、特別出張所などで配布をしています（※同封資料参照）。また、区の公式ホームページで閲覧することもできます。

あなたはこれまでに、洪水ハザードマップをご覧になったことがありますか。(○は1つ)

- 1 洪水ハザードマップを見たことがあり、家に備えている
- 2 洪水ハザードマップを見たことはあるが、家に備えていない
- 3 洪水ハザードマップをホームページで閲覧したことがある
- 4 洪水ハザードマップを見たことがない

問3 同封の洪水ハザードマップで自宅の位置を確認した結果、あなたの自宅のある場所は着色（浸水が発生するおそれがある）されていますか。(〇は1つ)

1 着色されている（ただし、色の種類は問いません）	→ 問3-1へ
2 着色されていない	→ 問4へ
3 表記が確認しづらく、どちらともいえない	

問3-1 問3で、「1」に〇をした方にお伺いします。

浸水の危険により、あなたがとる避難（※）行動として考えられるものは何ですか。

(〇は1つ)

(※)「避難」とは、「難」を「避」けることであり、安全な場所にいる方は、避難所に行く必要はありません。また、避難先は、区が開設する避難所施設に限るものではなく、安全な親戚・知人宅等も対象となります。

1 堅牢なマンション等の上層階に住んでいるため、自宅に留まり安全を確保する
2 浸水の危険はあるが生命への危険性は低いと思われるため、自宅に留まり安全を確保する
3 安全な親戚や知人宅に避難する
4 区が指定している避難所に避難する
5 その他 ()
6 わからない

問4 あなたは、震災時と水害時で区が指定している避難所が異なることをご存じですか。

(〇は1つ)

1 知っている	2 知らない
---------	--------

問5 区では、区内の地域に特化した気象情報等をメールで受け取ることができる「新宿区防災気象情報メールシステム」への登録をおすすめしています。

あなたは、新宿区防災気象情報メールシステムをご存じですか。(〇は1つ)

1 すでに登録している
2 知っているが、登録していない
3 知らない

問6 大型台風等が接近するとの気象予報が発表された場合に、あなたはどのような事前準備をしますか。(あてはまるものいくつかでも○をつけてください)

- 1 新宿区洪水ハザードマップ（洪水避難地図）の確認
- 2 東京マイ・タイムライン（※）の作成・確認
- 3 家族の連絡手段の確認
- 4 避難する場所やルートの確認
- 5 飲料水や食品の購入
- 6 非常用持ち出し袋の確認
- 7 排水溝等の清掃
- 8 土のうの準備
- 9 窓ガラスの補強等
- 10 その他（)
- 11 特に何もしない

(※)「東京マイ・タイムライン」とは、台風や前線による大雨や強風が予測される時に、各家庭において風水害から身を守るための行動を時系列に整理するもので、危機管理課及び特別出張所で配布しています。

問7 台風や大雨の際に、区に望むものは何ですか。

(あてはまるものいくつかでも○をつけてください)

- 1 より早いタイミングでの避難情報の発令
- 2 地域の状況に合わせたきめ細かい避難情報の発令
- 3 わかりやすい避難情報の発信
- 4 避難所の開設情報の充実
- 5 多言語による情報発信
- 6 気象情報の充実
- 7 水位情報の充実
- 8 河川機能の強化
- 9 その他（)
- 10 特にない

テーマ2 震災に備えて

地震は、いつどこで発生するかわかりません。地震を防ぐことはできませんが、その被害を抑えることはできます。そのためには、自宅の耐震化や家具転倒防止対策をしておくなど、日頃からの備えが大切です。区では、皆様の住宅の耐震化と家具転倒防止対策についておたずねし、今後の取組の参考にしたいと考えています。

問8 あなたがお住まいの建物について、教えてください。(〇は1つ)

- 1 昭和55年（1980年）以前に建てられた木造住宅
- 2 昭和56年（1981年）以降に建てられた木造住宅
- 3 昭和55年（1980年）以前に建てられた非木造住宅
- 4 昭和56年（1981年）以降に建てられた非木造住宅
- 5 知らない

問9 区では、下記★印の「建築物等耐震化支援事業」を行っています。

あなたはこの事業を知っていますか。(〇は1つ)

【昭和55年（1980年）以前に建った建物に住んでいる方】

- 1 知っている
- 2 聞いたことはあるが、よく知らない
- 3 知らない

【昭和56年（1981年）以降に建った建物に住んでいる方】

- 4 知っている
- 5 聞いたことはあるが、よく知らない
- 6 知らない

★区では、「建築物等耐震化支援事業」として次の事業を行っています。

《 木造建物（住宅系）への支援事業 》	《 非木造建物への支援事業 》
<ul style="list-style-type: none"> ・ 【無料】耐震診断（予備耐震診断・詳細耐震診断）技術者派遣 ・ 詳細耐震診断・補強設計への助成 ・ 耐震改修工事、工事監理への助成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 【無料】耐震アドバイザーの派遣 ・ 耐震診断、補強設計への助成 ・ 耐震改修工事への助成

問10 あなたは、お住まいの建物について、耐震診断を受けたいと思いますか。(〇は1つ)

- 1 すでに受けた
- 2 受けたいが、まだ受けていない
- 3 受ける必要はない
- 4 わからない

→ 問10-1へ

問10-1 問10で、「2」または、「3」に○をした方にお伺いします。

耐震診断を受けていない理由は何ですか。

(あてはまるものいくつかでも○をつけてください)

- 1 現在受けていないが、今後受ける予定だから
- 2 制度について知らなかったから
- 3 集合住宅のため自分の考えだけではできないから
- 4 建物の所有者が自分ではないから
- 5 昭和56年（1981年）以降に建った新耐震基準の建物だから
- 6 多額の費用がかかるから
- 7 倒壊しないと思うから
- 8 信頼できる業者がないから
- 9 相談したいがどこにいいかわからないから
- 10 面倒だから
- 11 その他（)

問11 お住まいの建物が耐震診断の結果で耐震補強が必要な場合、あなたは補強工事を行いたいと思いますか。(○は1つ)

1 すでに補強工事を行った

2 行いたい、まだ行ってない

3 行う必要はない

4 わからない

→ 問11-1へ

問11-1 問11で、「2」または、「3」に○をした方にお伺いします。

耐震補強工事を行っていない理由は何ですか。

(あてはまるものいくつかでも○をつけてください)

- 1 現在行ってないが、今後行う予定だから
- 2 制度について知らなかったから
- 3 集合住宅のため自分の考えだけではできないから
- 4 建物の所有者が自分ではないから
- 5 昭和56年（1981年）以降に建った新耐震基準の建物だから
- 6 多額の費用がかかるから
- 7 倒壊しないと思うから
- 8 信頼できる業者がないから
- 9 相談したいがどこにいいかわからないから
- 10 自分の家屋を補強しても周辺の家屋も補強しないと意味がないと思うから
- 11 面倒だから
- 12 その他（)

問 1 2 あなたは家具転倒防止器具を取り付けたいと思いますか。(○は1つ)

1 すでに取り付けている

2 取り付けたいが、まだ取り付けしていない

3 取り付ける必要はない

4 わからない

→ 問 1 2 - 1 へ

問 1 2 - 1 問 1 2 で、「2」または「3」に○をした方にお伺いします。

家具転倒防止器具を取り付けていない理由は何ですか。

(あてはまるものいくつかでも○をつけてください)

1 現在取り付けしていないが、今後取り付ける予定だから

2 どのような器具を取り付ければよいかわからないから

3 家具や家屋に傷をつけるから

4 取付け作業が難しそうだから

5 お金がかかるから

6 倒れても危険ではないので、効果がないと思うから

7 面倒だから

8 転倒防止が必要な家具がないから

9 その他 ()

問 1 3 あなたは、区が行っている家具転倒防止器具取付け事業(調査費・取付け費無料)を知っていますか。(○は1つ)

1 知っている

2 知らない

テーマ3 男女共同参画に関する意識について

男女共同参画とは、男女が社会の対等な構成員として性別にかかわらずその個性と能力を十分に発揮し、責任を分かち合いながら、ともにあらゆる分野に参画することをいいます。

皆様から日常生活のなかでの男女共同参画に関する意識や実情をおたずねします。

問14 あなたは、次のような分野において男女平等だと思いますか。

(ア～クそれぞれで、1～5に1つだけ○をつけてください)

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている
ア 家庭生活で	1	2	3	4	5
イ 職場で	1	2	3	4	5
ウ 学校教育の場で	1	2	3	4	5
エ 政治の場で	1	2	3	4	5
オ 法律や制度の上で	1	2	3	4	5
カ 社会通念・慣習・しきたりなど	1	2	3	4	5
キ 地域活動の場で	1	2	3	4	5
ク 社会全体として	1	2	3	4	5

問15 男女共同参画に関する以下の言葉についてご存じですか。

(ア～オそれぞれで、1～3に1つだけ○をつけてください)

	知っている	言葉は聞いたことがあるが意味は知らない	知らない
ア 性別役割分担 ※性別によって男女で固定的な役割を分担すること	1	2	3
イ DV (ドメスティック・バイオレンス) ※配偶者やパートナーからの暴力	1	2	3
ウ デートDV ※恋人など親密な関係にある相手からの暴力	1	2	3
エ 性的マイノリティ (LGBT等)	1	2	3
オ ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)	1	2	3

問16 働いているすべての方にお伺いします。

あなたは、現在の仕事と生活のバランスに満足していますか。(○は1つ)

- | | |
|--------------|---------------|
| 1 たいへん満足している | 3 あまり満足していない |
| 2 ほぼ満足している | 4 まったく満足していない |

問17 男女とも働きやすい環境をつくるためには、どのようなことが重要だと思いますか。

(あてはまるものに3つまで○をつけてください)

- | | |
|------------------------------|--|
| 1 男女ともに労働時間の短縮をはかること | |
| 2 男女ともに家事・育児・介護に参加すること | |
| 3 男女ともに仕事に対する責任感をより高めること | |
| 4 男女ともに技術・能力を高めること | |
| 5 職場での男女の雇用機会・昇進・待遇を均等にすること | |
| 6 職場でのハラスメント対策が取られていること | |
| 7 出産後などに職場復帰できる制度が整備・充実されること | |
| 8 育児・介護休業制度が整備・充実されること | |
| 9 その他 () | |
| 10 特に重要だと思うことはない | |

問18 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という固定的な性別役割分担の考え方について、あなたの考えに近いものは、次のうちどれですか。(○は1つ)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 賛成 | 3 どちらかといえば反対 |
| 2 どちらかといえば賛成 | 4 反対 |
| | 5 わからない |

問19 ドメスティック・バイオレンス(配偶者等からの暴力。以下、「DV」という)について、DVだと思う行為は次のうちどれですか。

(あてはまるものにいくつでも○をつけてください)

- | |
|--------------------------------------|
| 1 何を言っても無視する |
| 2 行動を制限する |
| 3 交友関係やメールをチェックする |
| 4 「誰のおかげで食べられるんだ」・「馬鹿」等の暴言を言う、大声でどなる |
| 5 人前で侮辱する |
| 6 他人に悪口を言う |
| 7 大切な物をわざと壊す |
| 8 殴るふりをする等して脅す |
| 9 殴る・蹴る・髪を引っ張る・物を投げつける等の行為をふるう |
| 10 首をしめる・刃物を持ち出す等、命に危険を感じる行為を行う |
| 11 自由になるお金を制限する |
| 12 意に反した性的な行為を強要する |
| 13 無理やりポルノ等を見せる |
| 14 避妊に協力しない |
| 15 どれもあたらない |

問20 DVについての相談機関の窓口をご存じですか。

(あてはまるものにいくつでも○をつけてください)

- | | | |
|----|----------------------------------|--|
| 1 | 新宿区配偶者暴力相談支援センター DV相談ダイヤル | |
| 2 | 新宿区立男女共同参画推進センター (ウィズ新宿) 悩みごと相談室 | |
| 3 | 新宿区福祉部生活福祉課 (女性相談) | |
| 4 | 新宿区子ども家庭部子ども家庭課 (家庭相談) | |
| 5 | 新宿区立子ども総合センター・新宿区立子ども家庭支援センター | |
| 6 | 新宿区保健センター | |
| 7 | 東京都女性相談センター | |
| 8 | 東京ウィメンズプラザ | |
| 9 | 警察 | |
| 10 | 法務局人権相談窓口等 | |
| 11 | 裁判所 | |
| 12 | 民間の機関 (弁護士会・法テラス・民間シェルター・NPO等) | |
| 13 | 民生委員・児童委員 | |
| 14 | その他 () | |
| 15 | 知らない | |

問21 今後、男女共同参画を進めるために、区にどのようなことを期待しますか。

(あてはまるものに3つまで○をつけてください)

- | | | |
|----|-------------------------------------|--|
| 1 | 平等意識を育てる学校教育の充実 | |
| 2 | 男女平等に関する講座等の開催 | |
| 3 | 女性の再就職支援や起業支援の充実 | |
| 4 | 企業に対する就労機会や労働条件の男女格差を是正するための働きかけ | |
| 5 | 仕事と家庭・地域活動が両立できるような働き方の見直しの企業への働きかけ | |
| 6 | 育児・保育施設の充実 | |
| 7 | あらゆる分野における女性の積極的な登用 | |
| 8 | 行政の政策決定などへの女性の参画促進 | |
| 9 | 高齢者や病人の在宅介護サービスや施設の充実 | |
| 10 | 各種相談事業の充実 | |
| 11 | 男女共同参画についての情報収集・情報提供 | |
| 12 | 国・都に対する男女共同参画を推進するための働きかけ | |
| 13 | その他 () | |
| 14 | 特にない | |

テーマ4 ごみの減量とリサイクルについて

新宿区は、「環境への負荷を少なくし、未来の環境を創るまち」の実現に向け、資源循環型社会の構築を目指しています。

ごみの発生抑制（リデュース：Reduce）、再使用（リユース：Reuse）、再生利用（リサイクル：Recycle）による「3R活動」の推進が重要になり、ごみとして処分する場合も、適正に分別する必要があります。

3R活動や食品ロス(*)の削減、資源・ごみの分別状況などをおたずねし、今後の普及啓発活動の向上に役立てていきたいと思ひます。

* 食品ロスとは、①消費期限・賞味期限が切れているため、②食べ切れずに残ったため、③調理の際に食べられる部分も過剰に除去したため などの理由により食べられるのに廃棄される食品を指します。

問22 以下の活動（「3R活動」）の中であなたが実際に行っているものはありますか。

（あてはまるものにいくつでも○をつけてください）

【リデュース】	1 必要な分だけ購入する、長く使えるものを購入する 2 買い物の際には、過剰包装を断ったり、マイバッグを持参したりする 3 食品ロスを出さないような取組を行っている 4 使い捨てになるものは、なるべく購入しない
【リユース】	5 詰め替え用商品を買う 6 リサイクルショップ・フリーマーケットを利用する 7 リース・レンタルを活用する 8 修理、リフォームして使う
【リサイクル】	9 ごみを正しく分別し、資源となるものは資源回収に出す 10 トイレtpペーパーなどは、再生品を選んで購入する
	11 その他（ ） 12 特にしていない

問23 あなたは買い物の際に、マイバッグを持参しますか。（○は1つ）

- 1 毎回持参する
- 2 持参しないこともあるが、持参することの方が多い
- 3 持参することと持参しないことが半々くらい
- 4 持参することもあるが、持参しないことの方が多い
- 5 ほとんど持参しない

問24 食品ロスを減らすために、行っていることはありますか。

(あてはまるものにいくつでも○をつけてください)

- | | |
|----|--------------------------------------|
| 1 | 買い物をする前に、冷蔵庫や収納庫の在庫をメモするなど必要な食品を確認する |
| 2 | 売り場では、すぐに消費する食品は手前に陳列されている商品から購入する |
| 3 | 食品は、ばら売りや量り売りなどを利用し、必要な食材をこまめに購入する |
| 4 | 家庭では、食べ切る量を調理して、食べ残しをしないようにする |
| 5 | 野菜や果物の皮を薄くむいたり、食材として活用して生ごみを減らす |
| 6 | 食べ切れなかった場合は、他の料理に作り替えるなど献立や調理方法を工夫する |
| 7 | 外出時は、食べ切る量（小盛りメニュー等）を選ぶ |
| 8 | フードドライブ（※）として食品を提供したことがある |
| 9 | その他（ ） |
| 10 | 特になし |

(※) フードドライブとは、家庭等での未利用の食品（賞味期限内であるなど一定の条件があります）を回収し、食品を必要とする施設や家庭に配布することです。

問25 新宿区では、古紙（新聞・雑誌・段ボール等）、容器包装プラスチック、びん、缶、ペットボトル、スプレー缶・カセットボンベ、乾電池を「資源・ごみ集積所」で回収しています。また、地域や集合住宅における集団回収のほか、販売店等でも一部の品目を回収しています。あなたは下記の品目をどのように出していますか。

(ア～ケそれぞれで、あてはまるものにいくつでも○をつけてください)

	燃やすごみ (週2回)	金属・陶器・ ガラスごみ (月2回)	資源 (週1回)	地域の 集団回収	販売店等による回収(※)
ア 新聞・チラシ	1	2	3	4	5
イ 雑誌・段ボール	1	2	3	4	5
ウ 雑がみ(菓子箱・包装紙等)	1	2	3	4	5
エ 容器包装プラスチック	1	2	3	—	5
オ びん	1	2	3	4	5
カ 缶	1	2	3	4	5
キ ペットボトル	1	2	3	4	5
ク スプレー缶・カセットボンベ	1	2	3	—	—
ケ 乾電池	1	2	3	—	5

(※) 販売店等による回収とは、スーパーマーケット等での缶、トレイ、ペットボトルの店頭回収のほか、新聞販売店等による新聞紙の回収、生協等による宅配時の容器回収などを含みます。

問25-1 問25の(ウ)雑がみ(菓子箱・包装紙等)で、「3」又は「4」に○をした方にお伺いします。

雑がみのうち、資源(古紙)の日又は地域の集団回収に出しているのはどれですか。(あてはまるものにいくつでも○をつけてください)

- | | | |
|---|------------------------|---|
| 1 | 菓子やティッシュの箱(ビニール等を取る)など | |
| 2 | 包装紙、紙袋など | |
| 3 | はがき、封筒(窓空のビニール等を取る)など | |
| 4 | ノート、コピー用紙、カレンダーなど | |
| 5 | トイレットペーパーの芯(つぶす、または開く) | |
| 6 | 名刺、レシート(感熱紙でないもの) | |
| 7 | その他(|) |
| 8 | 特にない | |

—— 引き続き、回答者の属性のご記入をお願いします ——

※調査結果を統計処理する際に必要ですので、次ページ以降の回答者の属性もご記入ください。

※調査票についている「整理票」は、ご協力のお礼をお送りするために必要ですので、取り外さずにそのままご返送ください。区に到着後、整理票は調査票から取り外して保管しますので、調査票から個人が特定されることはございません。

回答者の属性

問ア あなたのお住まいの地域（所管する特別出張所の地域）をお選びください。（〇は1つ）

- | | |
|-------|-----------|
| 1 四谷 | 6 戸塚 |
| 2 簗笥町 | 7 落合第一 |
| 3 榎町 | 8 落合第二 |
| 4 若松町 | 9 柏木 |
| 5 大久保 | 10 角筈・区役所 |

問イ 性別をお答えください。（〇は1つ）

- | | |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

問ウ あなたの年齢（満年齢）を、次の中からお選びください。（〇は1つ）

- | | |
|----------|-----------|
| 1 18～19歳 | 8 50～54歳 |
| 2 20～24歳 | 9 55～59歳 |
| 3 25～29歳 | 10 60～64歳 |
| 4 30～34歳 | 11 65～69歳 |
| 5 35～39歳 | 12 70～74歳 |
| 6 40～44歳 | 13 75～79歳 |
| 7 45～49歳 | 14 80歳以上 |

問エ あなたのご職業を、次の中からお選びください。（〇は1つ）

- | |
|------------------------------|
| 1 会社員・団体職員 |
| 2 会社役員・団体役員 |
| 3 パート・アルバイト、非常勤、嘱託、派遣など |
| 4 自営業、自由業（開業医、弁護士、司法書士なども含む） |
| 5 学生 |
| 6 専業主婦・主夫 |
| 7 無職 |
| 8 その他（ ） |

→問エ-1へ

問エー1 問エで、「1」～「5」に○をした方にお伺いします。現在のあなたの職場・学校はどこにありますか。(○は1つ)

1 新宿区内	2 新宿区外
--------	--------

問オ 現在、あなたは誰かと同居していますか。同居している場合は、あなたからみた続柄で、同居している方すべてに○をしてください。

(あてはまるものにいくつでも○をつけてください)

<table border="1"><tr><td>1 子</td></tr><tr><td>2 妻または夫</td></tr><tr><td>3 親</td></tr><tr><td>4 祖父母</td></tr><tr><td>5 孫</td></tr><tr><td>6 兄弟姉妹</td></tr><tr><td>7 その他 ()</td></tr><tr><td>8 ひとり暮らし</td></tr></table>	1 子	2 妻または夫	3 親	4 祖父母	5 孫	6 兄弟姉妹	7 その他 ()	8 ひとり暮らし	1～7の方は、 → 問オー1～問オー2へ
1 子									
2 妻または夫									
3 親									
4 祖父母									
5 孫									
6 兄弟姉妹									
7 その他 ()									
8 ひとり暮らし									

問オー1 問オで、「1」～「7」に○をした方にお伺いします。同居している人は、あなたを除いて全員で何人ですか。

【 】の中に人数を記入してください。

同居している人は、あなた+【 】人

問オー2 問オで、「1 子」に○をした方にお伺いします。同居している子の就学状況は、次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

1 一番上の子が小学校入学前	3 一番上の子が高・大学生
2 一番上の子が小・中学生	4 一番上の子が学校を卒業

問カ あなたは新宿区に住んで何年になりますか。(○は1つ)

1 1年未満	5 10年以上20年未満
2 1年以上3年未満	6 20年以上30年未満
3 3年以上5年未満	7 30年以上
4 5年以上10年未満	

問キ 現在のあなたの住宅の形態は、次のうちどれですか。(〇は1つ)

一戸建て	集合住宅
1 持ち家の一戸建て	5 分譲マンション・アパート (自己所有のものを含む)
2 賃貸の一戸建て	6 賃貸マンション・アパート
3 社宅・公務員官舎の一戸建て	7 賃貸のUR都市機構(旧公団) ・公社のマンション・アパート
4 その他 ()	8 賃貸の都営・区営住宅
	9 社宅・公務員官舎
	10 その他 ()

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

お手数をおかけしますが、同封の返信用封筒にて、

整理票を取り外さず、

10月30日(金)までに、ご返送ください。

(返送・問合せ先)

〒160-8484 新宿区歌舞伎町1-4-1

新宿区総合政策部 区政情報課 広聴係

電話 03-5273-4065 (直通)

FAX 03-5272-5500

E-mail kuseijoho@city.shinjuku.lg.jp

令和2年度第1回新宿区区政モニターアンケート

令和3年1月発行

編集・発行

新宿区総合政策部区政情報課広聴係

東京都新宿区歌舞伎町1-4-1

電話(03)5273-4065(直通)

印刷物作成番号

2020-24-2106

この印刷物は、業者委託により400部印刷製本しています。その経費として、1部あたり660円(税込み)がかかっています。ただし、編集時の職員人件費や配送経費などは含んでいません。

新宿区は、環境への負荷を少なくし、未来の環境を創造するまちづくりを推進しています。
本誌は森林資源の保護とリサイクルの促進のため、古紙を利用した再生紙を使用しています。